

# ウクライナ日本センタープロジェクト 終了時評価調査報告書

平成 23 年 3 月  
(2011年)

独立行政法人国際協力機構  
公共政策部

公 共
J R
11-016

# ウクライナ日本センタープロジェクト 終了時評価調査報告書

平成 23 年 3 月  
(2011年)

独立行政法人国際協力機構  
公共政策部

## 序 文

ウクライナでは、1991年にソ連邦からの独立以降、積極的に市場経済化を進めた結果、経済のマイナス成長やハイパーインフレにより、国の経済は大きく傾きましたが、その後の様々な改革の進展により、2000年以降は経済成長がみられました。最近では2009年のリーマンショックによる金融危機がウクライナにも波及し、経済は大打撃を受けましたが、政府の経済改革により立ち直りをみせつつあり、経済基盤固めと安定化が課題となっています。

わが国は、ウクライナの経済発展及び同国と日本との友好関係の促進を目的としたプロジェクトの要請を受け、「ウクライナ日本センタープロジェクト」の実施が決定しました。これを受け、JICAは2006年5月から5年間の計画で、ウクライナ日本センターにおいて活動の三本柱（ビジネスプログラム、日本語コース、相互理解促進事業）の実施体制確立を目標とした技術協力プロジェクト「ウクライナ日本センタープロジェクト」を開始するに至り、現在同プロジェクトを実施しています。

今般、協力期間の終了にあたり、プロジェクトの目標達成状況を確認するため、2010年12月7日から24日にかけて終了時評価調査団を現地に派遣、ウクライナ側ステークホルダーと合同評価を実施しました。本報告書は、同調査団の調査結果を取りまとめたものであり、プロジェクトの終了後の自立発展及び上位目標の達成とともに、他国での日本センター事業の効果的な実施のため、広く活用されることを願うものです。

本調査にご協力いただきました関係者の皆さまに深い謝意を表するとともに、一層のご支援をお願いする次第です。

平成23年3月

独立行政法人国際協力機構  
公共政策部長 中川 寛章

# 目 次

序 文

写 真

略語表

終了時評価結果要約表

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	2
第2章 評価の方法	4
2-1 評価方法	4
2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法	4
第3章 プロジェクトの達成状況	6
3-1 投 入	6
3-1-1 日本側の投入	6
3-1-2 ウクライナ側の投入	7
3-2 成果の達成状況	8
3-3 プロジェクト目標の達成状況	15
3-4 上位目標達成の見込み	18
第4章 評価5項目による評価	19
4-1 妥当性	19
4-2 有効性	19
4-3 効率性	20
4-4 インパクト	20
4-5 持続性	21
第5章 結論・提言・教訓	23
5-1 結 論	23
5-2 提 言	23
5-3 教 訓	25
第6章 団長所感	26
6-1 評価結果	26
6-2 UAJC 5年間の成果	26
6-3 今後のロードマップ	27

付属資料

1. 主要面談者リスト .....	31
2. 面談録 .....	32
3. ミニッツ .....	46
4. 評価グリッド.....	103
5. ウクライナ日本センター日本語教育事業 終了時評価報告書 .....	108



キエフ工科大学側ウクライナ日本センター所長等との協議



キエフ工科大学学長及び第一副学長とのミニッツ協議①



キエフ工科大学学長及び第一副学長とのミニッツ協議②



キエフ工科大学学長とのミニッツ署名①



キエフ工科大学学長とのミニッツ署名②



署名式後に会議出席者全員で撮影

## 略 語 表

略語	正式名称	日本語名称
C/P	Counterpart	カウンターパート
EBRD	European Bank for Reconstruction and Development	欧州復興開発銀行
EBRD (BAS)	European Bank for Reconstruction and Development (Business Advisory Services)	-
EBRD (TAM)	European Bank for Reconstruction and Development (Turn Around Management)	-
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JETRO	Japan External Trade Organization	日本貿易振興機構
JF	Japan Foundation	国際交流基金
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MBA	Master of Business Administration	-
NEDO	New Energy and Industrial Technology Development Organization	新エネルギー・産業技術総合 開発機構
NEIA	National Environmental Investment Agency of Ukraine	ウクライナ環境投資庁
NTUU“KPI”	National Technical University of Ukraine “Kiev Polytechnic Institute”	キエフ工科大学
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OJT	On-the-Job Training	-
PDM	Project Design Matrix	-
PO	Plan of Operation	-
P2M	Project and Program Management	-
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SCURPE	State Committee of Ukraine for Regulatory Policy and Entrepreneurship	規制政策企業活動国家委員会
UAJC	Ukraine Japan Center	ウクライナ日本センター



## 終了時評価結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ウクライナ	案件名：ウクライナ日本センタープロジェクト
分野：民間セクター開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：公共政策部日本センター課	協力金額：約4.32億円（終了時評価時点）
協力期間	(R/D)：2006年5月～2011年5月
	先方関係機関：キエフ工科大学
	日本側協力機関：国際交流基金
	(延長)：無し
	他の関連協力：無し
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ソ連邦の崩壊に伴い、ウクライナは1991年8月に独立した。独立後直ちに市場経済への移行を開始し、1992年にIMF加盟また1994年には世銀とIMF支援による経済計画に着手したが、マイナス成長と極端なインフレが続き、1996年にデノミを実施するとともに新通貨（Hryvnia）を導入する状況となった。その後経済再建が行われ、2000年にいたり、独立以来最初のGDPプラス成長がみられた。鉄鋼と農業部門を中核とした高度経済成長は、それ以降2008年に始まる世界金融不況まで続く。このような状況のなかで、市場経済化はなお中途の段階にあり、様々な経済改革が実施されている。</p> <p>JICAは同国の市場経済分野の人材育成を支援し、またわが国の対市民外交の一環として「顔の見える協力」を実現することを目的に、キエフ工科大学（NTUU “KPI”）（以下、「KPI」と記す）を実施機関とする技術協力プロジェクト「ウクライナ日本センタープロジェクト」を2006年5月から2011年5月までの5年間の協力期間で実施している。ウクライナ日本センター（UAJC）では、「ビジネスプログラム」（BP）、「日本語コース」（JLC）、「相互理解促進事業」（MUP）の3つを柱に、同国の市場経済化を担う民間セクターの人材育成、日本語教育及び文化事業を行っている。2011年5月のプロジェクト終了を迎えて本終了時評価調査が実施された。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>本プロジェクトは、ウクライナの市場経済化の定着と、わが国とウクライナとの相互理解促進のため、UAJCにおけるBP、JLC及びMUPの三本柱への支援を行うことにより、UAJCが、その機能と役割を果たせるための体制を構築することを目的とする。</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>UAJCが、ウクライナの経済成長や様々な分野における日本・ウクライナ間の協力をより一層促進するための拠点となる。</p> <p>(2) プロジェクト目標</p> <p>UAJCが、「ウクライナの経済成長に資する人材の育成」と「日本・ウクライナ両国の社会・経済・文化面における交流関係促進」という統合的機能を果たすための体制が整備され、かつUAJCがその役割を果たすようになる。</p> <p>(3) 成果</p> <p>1) ウクライナの大学及び産業界のニーズに合致したBPを提供する体制及びノウハウが整うとともに、ウクライナの経済成長に資する人材を育成するための一定のプログラムが実施される。</p>	

- 2) 日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化などの相互交流を促進させるためのウクライナにおける日本語教育の拠点としての体制が構築される。
- 3) 日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化面についての情報及び知識の収集と相互発信のための体制が構築されるとともに、上述した分野での情報と知識の双方向での発信が行われる。
- 4) 日本・ウクライナ側関係機関の協力・支援のもと、UAJCが自立的に運営されることが可能な体制基盤が整備される。

#### (4) 投入

- 1) 日本国側：総投入額4.32億円
  - ・長期専門家派遣 計129.0人月（予定）
  - ・短期専門家派遣 延べ41人（2010年11月末）
  - ・現地スタッフ雇用 9人（2010年11月末現在）
  - ・在外事業強化費 0.7億円（88万米ドル、2010年9月末現在）
  - ・研修員受入れ 47名（2010年11月末現在）
  - ・機材供与 視聴覚機器、複写機、コンピューター、図書など
- 2) 相手国側
  - ・人員配置 カウンターパート計3名（所長、副所長、会計）
  - ・運営経費負担 0.5億円（57万米ドル、2010年9月末現在）
  - ・土地・施設提供 UAJC施設（キエフ市）

## 2. 評価調査団の概要

調査団	(1) 総括 伏見 勝利 JICA公共政策部ガバナンスグループ日本センター課長 (2) 日本語コース評価計画 鈴木 勉 国際交流基金日本語事業グループ日本語教育支援部講座チーム長 (3) 日本語コース評価分析 阿部 洋子 国際交流基金教師研修チーム長 (4) 協力企画 水野 由起子 JICA公共政策部ガバナンスグループ日本センター課主任調査役 (5) 評価分析 寺尾 豊光 水産エンジニアリング（株）主査	
調査期間	2010年12月7日～24日	評価種類：終了時評価

## 3. 評価結果の概要

### 3-1 実績の確認

#### (1) 成果の達成状況

成果の達成状況を以下に要約する。UAJCを取り巻く状況に円滑に対処しつつ所定の指標について実績を上げていることが特徴で、いずれの成果も達成されたと判断できる。

- 1) 成果1：「ウクライナの大学及び産業界のニーズに合致したBPを提供する体制及びノウハウが整うとともに、ウクライナの経済成長に資する人材を育成するための一定のプログラムが実施される。」

2010年11月末時点でのBPにおける各種セミナー及びイベントの延べ実施回数は140回で、受講者数は延べ6,379人に達した。2008年11月の中間レビュー時点では、2,136人であったこと

から、この間大きく増加している。プロジェクト前半期間では一般的な経営研修が実施されていたが、2009年以降からは家具製造業者協会、プロジェクト管理協会等の業界団体・政府機関と連携して、求められる研修内容を探るアプローチが取られた。その結果は、20回余のセミナーが実施され、またキエフ市のVAB銀行、ドネツク市所在のRolling Plant and Electro Steel社等の企業の求めに応じて、企業内研修が21回実施されるなど、受講者数の急増につながっている。

- 2) 成果2:「日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化などの相互交流を促進させるためのウクライナにおける日本語教育の拠点としての体制が構築される。」

2010/2011年の学年では、長期は9コース、また短期は3コースが実施されている。JLCの全定員204人に対し応募者は333人に達しており、高い応募倍率を維持している。「日本語教育学セミナー」4回、「日本語スピーチコンテスト」5回、「日本語能力試験」5回の共催等を通じてウクライナ日本語教師会への支援を継続している。

- 3) 成果3:「日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化面についての情報及び知識の収集と相互発信のための体制が構築されるとともに、上述した分野での情報と知識の双方向での発信が行われる。」

2010年10月末までに合計356件のMUPが実施された。2010年10月末時点の定期文化講座(囲碁、茶道、生け花など)の受講者の総数は計765人である。また、他のイベントとフォーラムの参加者数は計49,354人であった。2010年11月末までの図書室利用者数は延べ36,468人、また図書室利用者登録数は延べ1,253人であった。

- 4) 成果4:「日本・ウクライナ側関係機関の協力・支援のもと、UAJCが自立的に運営されることが可能な体制基盤が整備される。」

以上のプログラムのうち、ほとんどの事業やイベントは有料で提供されている。JLCについては、2009年度には3万米ドルを超える収益を上げており、講師への謝金やスタッフ給与等の経費を賄える状況になっていると報告されている。なお、UAJC全体では、すべての経費を賄うにいたっておらず完全な独立採算ではない。しかし、UAJCはもともとKPIの一組織であり、その存在意義による間接的な収益やメリットが大いに期待されるほどのステータスを築き上げているため、KPIによる支援も排除せずに収支バランスの均衡を図ることが現実的である。組織体制面では、センター職員は、個々のプログラム内容の企画、ウクライナのパートナー組織との調整、プログラムの実施、事後のアンケート調査等のBP、JLC及びMUPを実施するうえで必要なタスクを実行する能力を備えるにいたっている。

## (2) プロジェクト目標の達成状況

「UAJCが、『ウクライナの経済成長に資する人材の育成』と『日本・ウクライナ両国の社会・経済・文化面における交流関係促進』という統合的機能を果たすための体制が整備され、かつUAJCがその役割を果たすようになる。」

プロジェクトの成果1～3にあるとおり、各事業における評価は高く、多くの受講生を集めて事業を実施した。また、各事業の参加者からの満足度も高く、いずれの事業も9割を超える参加者が「満足した」と回答している。また、ビジネスプログラムを通じて実際に効果を伴った

事例数も、日系企業との業務提携例は2社、あるいは業務提携まで行かずとも一定の成果を上げた企業が12社あった。

これらの成果にかんがみると、必要な人材と組織制度に係る両方の見地から、UAJCは、ウクライナ市民への経営管理研修、日本語教育及び文化事業に係るサービスが提供可能な組織に成長するにいたったといえる。また、これらの組織機能は、なおKPIとJICAからの財務的な投入に依存するものではあるが、一個のプロジェクトが担当すべき範囲からみる限り、本プロジェクトはプロジェクト目標に示されるところに沿ってUAJC組織を育成することに成功したといえる。その結果として、UAJCは対象となる受益者のニーズによく合致する形でサービスの日常的な提供ができるようになってきている。以上の考えから、プロジェクト目標は達成されることは確実であると判断できる。

### 3-4 5項目評価

#### (1) 妥当性

高い。

ウクライナ政府は、開発政策として「2005-2007年国際技術協力促進のための戦略」を掲げ、国家として重視すべき基本的方向性として、国民経済の競争力強化や中小企業振興を掲げ、経済成長に基づく貧困削減に向けた取り組みを行っており、本プロジェクトはまさにそれに呼応する形で開始されるにいたっている。

また、外務省の対ウクライナ国事業展開計画（2010年8月）に示されるように、ウクライナへの優先的な援助として、日本はその市場経済化を支援してきており、そのためUAJCの重点目的の一つにBPの実施が置かれ、主に経営管理研修を通じた人材育成を想定して事業を行うこととなった。しかしながら、ウクライナでは研修提供者間の競争が極めて大きく、単に経営研修の基礎コースを開設するだけでは、受講者を引き付けるには不十分であったため、2009年以降の段階で、UAJCは業界団体との協力を通じて多数のBPを開発し、これら業界団体のニーズに応える手段を講じるほか、規制政策企業活動国家委員会（SCURPE）などの関連組織からの支援のもとで、BP講師を地方都市に送る努力も払うなど、現地事情に柔軟に対応しつつ市場経済化の促進に努めたことから、妥当性は高いといえる。

#### (2) 有効性

高い。

終了時評価の時点においては、UAJCは持続性に財務的な問題を抱えつつも、組織・体制的には自立的運営が可能なレベルにまで成長している。また、上述のとおり、BP（成果1）、JLC（成果2）、MUP（成果3）では確実に成果が現れており、プロジェクト目標の達成にこれらの成果が貢献していることが確認された。

なお、具体的な例としては、JLCとMUPの活動を通して、UAJCは日本語と文化をウクライナ市民に普及し、成功裏に日本の対市民外交を実現させてきた。また同時に、ウクライナ市民と学生がもつ日本の社会と文化に対する強い知的関心に応えることができたといえる。特に、ウクライナは新しい独立国であり、良好な外交関係をもつことは日本にとっても必要なため、相互理解を強化する文化事業は両国にとって極めて有効であった。

#### (3) 効率性

高い。

地方都市に向けてBPのセミナーを拡大実施するために、本プロジェクトはSCURPE及び他の関連組織の地方出張所などのネットワークを利用した。このようなネットワークを活用することで研修場所や受講者の確保を容易にすることができた。また、パートナーの業界団体との協

力を通して実際のニーズを満たすことができるセミナーが計画された結果、BPの受講者が確実に確保された。JLCとMUPにおいては、センター職員はコースの管理に専念し、講師は通常パートタイムにより雇用されている。これにより総コストに占める固定費を低い水準に抑えることが可能となっている。2009年春以来、センター職員の人事査定は能力評価から業績評価に変更して行うこととなった。以上の活動や管理はいずれもプロジェクトの効率性を上げたと考えられる。

#### (4) インパクト

大きいと見込まれる。

多様な事業分野に係るサービスが提供可能となり、UAJCはほかでは得難い日本とウクライナ両国の共有の財産といわれるまでに成長した。上位目標にある「拠点」となるために必要な人的・財務的リソース投入の継続確保への努力に十分値する基礎が確立されたといえよう。

なお、本プロジェクトが与えた波及効果の事例として、ウクライナ財務省によるプロジェクト・プログラム・マネジメント（P2M）の適用、KPIによる広島・長崎平和講座の導入、業界団体によるカイゼンクラブの設立、ドニプロペトロフスク国立鉱山大学による市民への日本文化の紹介を図るための独自の活動があげられる。これらの状況はすべて長期にわたる性格を備えており、本プロジェクトが終了した後も、ウクライナ側の組織のイニシアチブにより、関連活動が継続すると見込まれる。

#### (5) 持続性

中程度。

JLCとMUPでは、必要に応じて現地講師を確保することが可能であり、また講師報酬もプログラムの収益により補填することができると考えられる。しかしながら、BPの研修事業はセミナーや研修は相当に高水準の内容が求められるため、講師の供給源をJICAの短期派遣専門家に求めざるを得ない状況はなお続くと考えられる。

また、UAJCの組織運営は、スタッフの運営能力といった技術的な側面からの持続性は確認できたものの、なおKPIやJICAのような外部機関からの財務上の投入に依存する状況にある。UAJCが公共サービスに従事していることは明らかなので、外部資金へのそのような依存性は妥当化できるが、現在みられるようなKPIとJICAからの運営経費の投入なしには、特にBPの運営を全面的に支えることは難しいように見受けられる。しかし、UAJC組織は既にわが国とウクライナ両国の共通の財産と呼ばれるまでに成長しており、UAJCに資金提供を行い、UAJC組織を活用することに関心を示す機関（日本、ウクライナ双方）がいくつか見受けられ、これらとの連携強化をさらに推し進め、財政基盤を固めることで持続性の確保は可能と考える。また、そもそもUAJCはKPIの一組織であり、KPI学長など経営陣からも事業の継続については重ねて高いコミットメントをいただいている。これは、UAJCの存在価値に基づくものであり、いまや両国政府に“共有財産”として高く評価されるにいたっている。UAJCの独立採算による運営以上に、その存在により受ける恩恵は大きく、UAJCの価値をKPIが正当に評価し、認識することが、持続性に大きく関係してくるものと考えられる。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

MUPの活動は有料の定期文化講座とほぼ無料の他の一般的イベントに大別されている。この区分は意図的なものであり、その結果として、MUPは知的関心に係る異なったニーズを満たし、多数のリピーターを生み出すことに寄与している。

## (2) 実施プロセスに関すること

プロジェクト途中の2009年以降の段階で、UAJCは家具製造業者協会、プロジェクト管理協会等の業界団体との協力を通じてビジネスプログラム多数を開発し、これら業界団体のニーズに応える手段を講じてきた。また、SCURPE等の関連組織からの支援のもとで、BP講師を地方都市に送る努力も払ってきた。このような形で業界のニーズに応えることに成功した結果、UAJCのBPは有料セミナーを含め継続実施に成功している。

2009年4月以降から（新しいプロジェクトのチームリーダーの方針のもと）、年間業務計画には各活動の担当者が明示されるようになった。また同じ時期に、センター職員の人事査定は能力評価から業績評価に変更して行うことになった。以上の組織管理に係る手法はプロジェクトの効率性を高める要因となったと考えられる。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

UAJC運営のために、プロジェクト開始以前からKPIにより計画されていた新築建物の工事は、プロジェクト終了間近になっても完了するにいたっていない。代わりに中央図書館4階に提供されている事務室、セミナー室、図書室等を活用することとなったが、計画された活用ができなくなるほどの障害はなかった。なお、新築建物については先方政府の予算の問題であるが、2008年秋のリーマンショックの影響により国家そのものが財政難に陥っている状況にかんがみるとやむを得ないものとする。

現在のUAJCの組織制度は、JICAの技術協力を適切に実施することを主な目的として形成されているといえる。そのため、人事管理、会計制度等の現行の組織制度は、プロジェクト終了前に見直したうえで再構築する必要がある。

#### (2) 実施プロセスに関すること

特になし。

### 3-5 結論

5項目評価の結果、高い妥当性、有効性、効率性及びインパクトがみられた。特に多様な分野において波及効果が既に見受けられる点については高く評価することができる。日本及びウクライナ両国の関係機関の一層の関与と努力を得ることにより、財務及び組織体制面の持続性も確保できる見通しである。本プロジェクトの開始以来、BP、MUP及びJLCの各プログラムは合計で約6万人の参加者を受け入れており、UAJCはウクライナの経済成長のために必要とされた人材開発に寄与し、またウクライナと日本との相互理解と協力を促進するうえで不可欠なセンターとして機能するにいたっている。関連の指標にみられる達成レベルからすると、プロジェクト終了時までにプロジェクト目標は十分に達成されるものと判断できる。

### 3-6 提言

本プロジェクト終了後もUAJCの機能が維持するためには、UAJCに関与するすべてのウクライナ及び日本のステークホルダーにより、UAJC存続に必要な手段の特定に向けた一層の努力が払われるべきである。求められるべき手段を提言として次にあげる。

- (1) 各ステークホルダーは本プロジェクト終了後のUAJCへの関与と貢献を相互に確認し、遅くともプロジェクト終了4カ月前までに、将来的なUAJC活動の規模と範囲に係る合意を形成する。

(2) 以上の合意に沿って、KPIにより、プロジェクト終了3カ月前までに、UAJCの管理運営のための最適かつ実施可能な組織計画が策定する。同時にUAJCの引き渡しに伴って生じる課題の特定と解決が関係機関を行う。

### 3-7 教訓

本プロジェクトのBPでは、当初市場経済化に資する人材育成に主眼を置き、経営研修を中心に事業を行っていたが、ウクライナは既に同様の活動を行う機関・組織の競合が激しく、単に経営研修の基礎コースを開設するだけでは、受講者を引き付けるには不十分であったため、産業界や業界団体と連携し、これらのニーズに即したBPの開発と実施を行うことに方針転換した結果、多くの受講生を集めることに成功した。現地の環境及びニーズに照らし、時宜にかなった活動を行うことが受講生の獲得につながったと考えられ、当初の計画に捉われず柔軟に計画変更等の対応を行ったことが有効であったといえる。

# 第1章 終了時評価調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

ウクライナは、1991年の旧ソ連邦からの独立後、価格の自由化及び国営企業の民営化を進めたが、マイナス経済成長が続き、1999年には1991年に比較し工業生産高が40%も減少するなど経済が激しく落ち込んだ。2000年からようやくGDPもプラス成長に転じ、2004年度は12.1%という高い成長率を達成している。しかし、2008年夏以降の世界経済・金融危機の影響を受けて株価の下落や外資の流出によりウクライナの財政状況が悪化し、2010年にはIMFから支援を受け、経済の立て直しを図るとともに、社会問題でもある貧富の格差の是正に取り組んでいる。

ウクライナ政府は開発政策として「2005-2007年国際技術協力促進のための戦略」（2005年8月30日付閣僚会議令829号）を掲げ、今後のウクライナとして重視すべき基本的方向性として、国民経済の競争力強化や中小企業振興を掲げ、経済成長に基づく貧困削減に向けた取り組みを行っている。

かかる状況下、JICAはウクライナの更なる市場経済化を支援するため、人材の育成及びわが国の「顔の見える協力」の実現を目的に、キエフ工科大学（National Technical University of Ukraine Kiev Polytechnic Institute：NTUU“KPI”）（以下、「KPI」と記す）をカウンターパート（Counterpart：C/P）として、技術協力プロジェクト「ウクライナ日本センタープロジェクト」を2006年5月から2011年5月までの5年間の協力期間で実施している。ウクライナ日本センター（Ukraine Japan Center：UAJC）では、「ビジネスプログラム」「日本語コース」「相互理解促進事業」の3つを柱に、ウクライナ経済の発展を担う民間セクター人材の育成、日本語教育及び文化交流を行っている。

今般、プロジェクト終了をまで残り半年となったため、終了時評価調査団を現地に派遣し、ウクライナ側と合同評価を実施した。本調査団の目的は以下のとおりである。

### （1）「ウクライナ日本センタープロジェクト」の終了時評価調査

「ウクライナ日本センタープロジェクト」の活動実績・実施プロセスを確認し、プロジェクトの成果を評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から検証し、本プロジェクトの目標達成状況を確認する。

### （2）プロジェクトの終了に向けた提言

上記（1）の結果を踏まえ、残りのプロジェクト期間における事業実施方針について提言を行うとともに、事業実施に係る課題について関係者の共通認識を図り、対応策を検討する。また、プロジェクト終了後の自立発展についての提言を行う。



## 1-2 調査団の構成

担当	氏名	所属及び職位
団長・総括	伏見 勝利	独立行政法人国際協力機構公共政策部ガバナンスグループ日本センター課 課長
日本語コース評価分析	鈴木 勉	国際交流基金日本語事業グループ日本語教育支援部 JF講座チーム チーム長
日本語コース評価分析	阿部 洋子	国際交流基金日本語教育支援部教師研修チーム チーム長
評価分析	寺尾 豊光	水産エンジニアリング株式会社 主査
協力企画	水野 由起子	独立行政法人国際協力機構公共政策部ガバナンスグループ日本センター課 主任調査役

## 1-3 調査日程

調査期間：2010年12月7日～24日

Date		活動内容		Consultant	JF
		JICA HQ (TOKYO)			
		伏見 勝利 (総括)	水野 由起子 (協力企画)	寺尾 豊光 (評価分析)	鈴木 勉 (日本語コース 評価分析) 阿部 洋子 (日本語コース 評価分析)
12月6日	Mon	対処方針会議 (JICA本部)			
12月7日	Tue			11:55 成田発 (OS052) 17:45 ウィーン発 (OS7173) 20:40 キエフ着	
12月8日	Wed			午前：プロジェクト打合せ 午後：プロジェクトリーダー、センター職員へのインタビュー	
12月9日	Thu			センター職員、日本語及び相互理解受講生へのインタビュー 相互理解促進事業視察 KPIとの打合せ及びインタビュー	
12月10日	Fri			相互理解促進事業に係る連携機関へのインタビュー	
12月11日	Sat			データ分析及び評価報告書案の準備 日本語及び日本文化コースの視察	

12月12日	Sun			データ分析及び評価報告書案の準備 相互理解促進事業の視察	成田発 キエフ着		
12月13日	Mon			ビジネスプログラム活動の視察（カイゼンクラブ設立イベント） 日本語教師及び受講生へのインタビュー データ分析及び評価報告書案の準備	日本語教師及び受講生へのインタビュー		
12月14日	Tue			日本語教師及び受講生へのインタビュー データ分析及び評価報告書案の準備	日本語教師及び受講生へのインタビュー		
12月15日	Wed	12:25 成田発（OS052） 17:50 ウィーン発（OS7173） 20:45 キエフ着		ビジネスプログラム活動の視察（カイゼンクラブ設立イベント） 日本語教師及び受講生へのインタビュー データ分析及び評価報告書案の準備	データ分析及び評価報告書案の準備	キエフ発	
12月16日	Thu	プロジェクトと調査概要打合せ KPIとの協議、財務省Bushuev顧問へのインタビュー、SCURPE・Svishcheva副長官へのインタビュー				成田着	
12月17日	Fri	中小企業連盟Bykovets第一副代表へのインタビュー 三菱商事大槻所長（日本商工会会長）へのインタビュー ウクライナ農業教会（Stepanovich会長、Lvov第一副会長、Sergeevna氏）訪問 経済省（経済発展・貿易省）Harmash課長との協議 教育科			キエフ発		
12月18日	Sat	団内協議、データ分析及び評価報告書案の準備			成田着		
12月19日	Sun	団内協議、データ分析及び評価報告書案の準備					
12月20日	Mon	プロジェクト及び大使館との打合せ ミニッツ協議（KPI（ヤキメンコ第一副学長、ツイガノク所長、オゴロドニク副所長、ルゴフスカ職員）					
12月21日	Tue	ミニッツ協議（KPI（ヤキメンコ第一副学長、オゴロドニク副所長、ルゴフスカ職員）					
12月22日	Wed	プロジェクトとの打合せ ミニッツ署名交換（KPIズグロフスキー学長、ヤキメンコ第一副学長、ツイガノク所長、オゴロドニク副所長、ルゴフスカ職員）					
12月23日	Thu	10:50 キエフ発（OS664） 13:15 ウィーン発（OS051）					
12月24日	Fri	08:25 成田着					

## 第2章 評価の方法

### 2-1 評価方法

本プロジェクトの評価は、プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix:PDM）に基づき、プロジェクト開始から評価調査時点までの双方の投入・活動実績、プロジェクトの成果等を踏まえたうえで、新JICA事業評価ガイドライン（第1版）（2010年6月）に従い、以下の評価5項目に基づいて行った。

#### （1）評価5項目

1) 妥当性 (Relevance)	プロジェクト目標や上位目標がウズベキスタン政府の政策、日本の援助方針、実施機関と受益者のニーズに合致しているか、プロジェクトのアプローチが適切であったかなど、プロジェクトの整合性や必要性を問う。
2) 有効性 (Effectiveness)	プロジェクトが有効であったか評価するために、プロジェクト目標がどの程度達成されるか、成果の達成がプロジェクト目標の達成にどのように寄与したか問う。
3) 効率性 (Efficiency)	投入の時期、質、量等が成果の醸成にどう影響を与えたか、投入は成果達成のために効率的に貢献しているか、投入に過不足はないかなどを問う。
4) インパクト (Impact)	上位目標の達成見込みを含み、プロジェクトの実施で生じる長期短期の波及効果をみる。また、正及び負の効果の見込みを検証する。
5) 持続性 (Sustainability)	現行の国家政策及び実施機関の組織体制・予算状況・要員体制のもとで、JICAの協力終了後もプロジェクトの便益が継続する見込みがあるか評価する。

#### （2）終了時評価に用いたPDM

本終了時評価は、2008年12月1日にKPIとの間で合意されたPDM（付属資料3のAnnex 10）に基づいて実施された。

### 2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法

#### （1）資料レビュー及び評価グリッドの作成

現地調査に先立ち、プロジェクト及びJICA、国際交流基金等から入手した報告書並びに参考資料等から情報を得て、現地での調査項目及び情報収集方法を検討し、評価デザインとして評価グリッド（英文）（付属資料4）を作成した。

#### （2）質問票の作成・回収

現地調査に先立ち、評価グリッドをもとに日本人専門家、KPI関係者、センター職員及び現地講師、各コース受講者に対する質問票を作成し、調査事前に現地に送付した。回答の回収と同時に質問票回答者に対して個別ヒアリングを行い、結果を分析した。

#### （3）プロジェクト関係者との面談及びインタビュー

本プロジェクトの達成度や成果を捉えるうえで、本プロジェクト関係者に対して個別イン

インタビューを行った。対象は、日本人専門家、ビジネスプログラム、日本語コース、相互理解促進事業の受講生、参加者、現地講師及び協力機関関係者とした。さらに、本プロジェクトのC/P機関であるKPIはじめ、ウクライナ政府関係者（経済省、教育科学省）にも訪問し、インタビューを実施した。

(4) プロジェクト関係者との協議及びミニッツ（評価調査報告書）署名

上記による調査結果を踏まえ、評価5項目に沿って評価調査報告書（英文）に取りまとめ、日本側及びウクライナ側プロジェクト関係者に提示・協議を行い、同協議の際のコメントを反映した評価調査報告書を双方で確認し、2010年12月22日に日本・ウクライナ双方の代表者がミニッツに署名した。

## 第3章 プロジェクトの達成状況

### 3-1 投入

#### 3-1-1 日本側の投入

##### (1) 専門家の派遣

2006年のプロジェクト開始から2010年11月末までに、延べ6人の長期専門家が派遣された。担当業務は、チームリーダー、業務調整・ビジネスプログラム、運営支援、日本語コース運営等であった。長期専門家の総投入はプロジェクト終了時点までに129.0人月となる予定である。また短期専門家は2010年11月末までに計41人が派遣されている。担当業務は、人材開発、省エネ、農業経営、産学官連携（IAGC）、プロジェクト管理及びその他ビジネスプログラム分野について、セミナーまたは研修を実施することであった。専門家派遣の詳細については、付属資料3のAnnex2を参照のこと。

##### (2) センター職員の雇用

プロジェクトの初期段階では、雇用されたセンター職員は受付と司書（図書室業務）の2人だけであったが、ビジネスプログラム、日本語コース及び相互理解促進事業の事業内容が毎年進展するにつれて、これらのプログラム実施に従事する常勤職員は徐々に増加し、現在では、業務調整1人及びセンター職員8人が本プロジェクトの在外事業強化費により雇用されている。同じく、図書室業務1人と日本語コース講師のうち2人が、非常勤ベースで在外事業強化費により雇用されている。

##### (3) 本邦研修

2007年以来、日本での研修は15回実施されている。計47人がプロジェクト管理、農業製品生産管理、研修コース管理等の研修に参加した。受講者・実施時期などの詳細を付属資料3のAnnex 4に示す。

##### (4) 機材供与

主に相互理解促進事業と日本語コースの実施のために、視聴覚機器、パーソナル・コンピュータ及び周辺装置、ソフトウェア、日本文化・文学に係る図書、車両等の機材が供与されている。2010年10月末時点の調達費用は342,613米ドルであった。主要機材のリストを付属資料3のAnnex 3に示す。

##### (5) JICA負担の運営経費

本プロジェクトの現地活動を行うために、2010年9月末時点で計88万米ドルがJICAの在外事業強化費から支出されている。この支出額には、上記の現地雇用12人のスタッフの給与が含まれる。

<JICA負担の運営経費の経年内訳（単位：米ドル）>

JFY	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年9月	合計
経費	145,026	139,457	184,769	304,466	105,794	879,512

JFY：日本の会計年度

出典：プロジェクト、2010年12月

3-1-2 ウクライナ側の投入

(1) C/P要員の配置

2006年5月22日付の討議議事録（Record of Discussions：R/D）に沿って、本プロジェクトの実施機関であるKPIにより、UAJC所長、副所長及び会計が任命されている。会計は常勤職員としてフルタイムで担当業務に従事してきたが、UAJC所長と副所長は非常勤であった。C/P要員の氏名などの詳細を付属資料3のAnnex 5に示す。

(2) 講師

2010年12月現在、センター職員の管理のもとで、日本語コース講師9人と相互理解促進事業講師7人がこれら2つのプログラムの実施に従事している。日本語コースの場合は国際交流基金（Japan Foundation：JF）派遣の日本語コース運営の専門家による管理のもとで運営されている。これら16人の講師の給与はUAJCが行うプログラムの収益を財源として支払われている。

(3) KPIによって提供された設備と建物

UAJC運営のために、事務室、2つのセミナー室、図書室及び倉庫がKPIの中央図書館4階において提供されている。なお、KPIのキャンパス内で工事中のUAJCの新築建物（事前調査報告書、2006年5月）は、ウクライナ側の予算不足のため内装工事が中断した状況が続いている。

(4) KPI負担の運営経費

UAJC運営のために、KPIとウクライナ政府は光熱水費、中央図書館の所要スペースの賃借料、電気・機械設備の維持保守及び通信設備に係る費用を負担した。これらのコストの合計額は下表に示されるとおりである。

<KPI負担の運営経費の経年内訳（単位：米ドル）>

JFY	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年9月	合計
経費	98,469	99,467	147,515	162,626	58,768	566,845

出典：プロジェクト、2010年12月

### 3-2 成果の達成状況

- (1) 成果1:「ウクライナの大学及び産業界のニーズに合致したビジネスプログラムを提供する体制及びノウハウが整うとともに、ウクライナの経済成長に資する人材を育成するための一定のプログラムが実施される。」

達成指標	1-1 ビジネスプログラム年間実施計画 1-2 ビジネスプログラム及びセミナー開催回数 1-3 受講生数、満足度、コース運営能力 1-4 現地講師が実施した講義の質、回数 1-5 産業界（商工会や産業界）との連携プログラム実績数 1-6 関係機関に対する側面支援の回数とその成果 1-7 同事業に関する外部機関からの問合せ及び支援の要請回数
------	--

#### 1) 指標1-1: ビジネスプログラム年間実施計画

UAJCの年間業務計画は本プロジェクト開始以来作成されている。2009年4月以降の段階から、年間業務計画には各「活動」の担当者が明示されるようになった。ここでいう「活動」は、セミナーまたはイベントを準備し実施するための一連の行動を指し、翌年3月末までに完了するように工程が計画されている。年間業務計画にはビジネスプログラム、日本語コース及び相互理解促進事業のすべてが含まれ、また日本語教師会への支援、情報サービス（図書室業務、ニューズレター、広報用卓上日記等）に係る「活動」もカバーされている。それぞれの「活動」はセンター職員1人が担当している。

UAJCの各プログラム（ビジネスプログラム、日本語コース、相互理解促進）を横断する活動としてニューズレターの発行がある。UAJCのニューズレターは2010年4月が初版で、両国の社会と文化を紹介するために、ウクライナ語版と日本語版が隔月で発行されている。2010年12月現在、ニューズレターの受信者の数は1,542人に達している。

#### 2) 指標1-2: ビジネスプログラム及びセミナー開催回数

2010年11月末時点での各種ビジネスプログラムの延べ実施回数は140回である。2006年8回、2007年19回、2008年31回、2009年52回、2010年は11月までで30回と、年々実施回数は増加している。2009年の実施回数が特に多いのは、同年に起こった世界金融不況に対処するため補正予算が手当され、日本人専門家の派遣人数が増えたことによる。内訳を下表に示す。

<ビジネスプログラムの実施（単位：回数）>

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年11月	合計
ビジネスコース		4	7			11
オープン・セミナー	6	9	3	30	16	64
企業内セミナー		1	1	9	10	21
フォーラム			9	2	1	12
投資&貿易		2	3	2		7
省エネ				7		7
産学官連携	2	3	8			13
本邦研修帰国報告				2	3	5
合計	8	19	31	52	30	140

出典：プロジェクト、2010年12月

3) 指標1-3：受講生数、満足度、コース運営能力

ビジネスプログラムの受講者数は2010年11月末に6,379人に達した。2008年11月の中間評価時点では、2,136人であったから、この間大きく増加している。5段階評価による最近の事後のアンケート調査によると、プログラム内容が「非常に良い」または「良い」と答えた受講者は平均で88～98%であった。同様に、コース管理に対しても、86～97%と、高い評価が得られている。

<ビジネスプログラムの参加者数（単位：人）>

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年11月	合計
ビジネスコース		53	120			173
オープン・セミナー	154	415	65	1,162	1,050	2,846
企業内セミナー		25	3	214	664	906
フォーラム			369	60	150	579
投資&貿易		65	620	120		805
省エネ				88		88
産学官連携	250	325	344			919
本邦研修帰国報告				22	41	63
合計	404	883	1,521	1,666	1,905	6,379

出典：プロジェクト、2010年12月

4) 指標1-4：現地講師が実施した講義の質、回数

ウクライナ人講師により実施されたセミナーの例を以下にあげる。

- ・改革プロジェクト・プログラムの優良事例：ビジネスゲーム「国家財政制度のリロード」、



無料、2010年11月、2日間の延べ受講者数116人

- ・改革プラットフォームとしてのProject and Program Management (P2M)：日本の経験とウクライナの実践、有料、2010年5月、2日間の延べ受講者数78人

5) 指標1-5：産業界（商工会や産業界）との連携プログラム実績数

UAJCのビジネスプログラムの特長であるが、各種業界団体との連携・共同によるプログラムが多いことである。家具製造業者協会、プロジェクト管理協会、キエフ商工会議所、ウクライナ品質協会、中小企業連盟、財務省、規制政策企業活動国家委員会（State Committee of Ukraine for Regulatory Policy and Entrepreneurship：SCURPE）など、各種の業界団体・政府機関と連携して、20回余のセミナーが実施された。

例えば、日本的経営管理技術として現地からも評価の高いカイゼンなどの生産・品質管理技術については、日本人専門家による一般向けセミナーをはじめ、鉄鋼やサービス、家具といった各種業界団体向けにアレンジした研修を行うなど、現地のニーズに細かく即応した事業を行った。

6) 指標1-6：関係機関に対する側面支援の回数とその成果

外部の関係組織に対するUAJCのビジネスプログラムセミナーは数多く実施されている。欧州復興開発銀行（European Bank for Reconstruction and Development：EBRD）が行うTAMプログラム\*のような個別企業に対する経営問題解決のための支援・指導の事例はないではないが、日本人短期専門家の活動において、個別に関係機関職員に対するセミナーを行うなど、関係機関に対する側面支援にも留意し事業を行った。また、TAM（Turn Around Management）/BAS（Business Advisory Services）プログラムについて、UAJCが主催するセミナーで紹介するなど、EBRDなどとの連携及び友好関係の構築にも配慮しつつ事業を行った。

7) 指標1-7：同事業に関する外部機関からの問合せ及び支援の要請回数

キエフ市のVAB銀行、ドネツク市所在のRolling Plant and Electro Steel社などの企業の求めに応じて、これまでに企業内研修が21回実施されている。

(2) 成果2：「日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化などの相互交流を促進させるためのウクライナにおける日本語教育の拠点としての体制が構築される。」

達成指標	2-1 日本語コース年間実施計画 2-2 日本語コース実施回数 2-3 応募者数、受講生数、満足度、コース運営能力 2-4 大学と日本語教師会による定例会の回数と支援数 2-5 日本語弁論大会はじめイベント・大会の開催数 2-6 日本語コースに関する日本語教材や指導書数
------	--

\* TAM (Turn Around Management) Programme は、EBRD の私企業支援スキーム。同プログラムは、1993年に設立され、旧東欧・旧ソ連邦諸国並びにモンゴルにおいて展開されている。対象となる私企業に専門家を派遣し、経営コンサルティングを行い、各企業の抱える問題の特定や必要な変革の実現に向けその経営陣を直接支援するもの。

1) 指標2-1：日本語コース年間実施計画

上述の成果1の達成指標1-1にも述べているとおり、UAJCの年間業務計画は本プロジェクト開始以来作成されており、日本語コースについても網羅されている。この中では、日本語教師会への支援も含まれる。

2) 指標2-2：日本語コース実施回数

2010/2011年の学年では、長期は9コース（“初級1”（「みんなの日本語」1～17課×3コース、“初級2”（「みんなの日本語」18～34課）×2コース、“初級3”（「みんなの日本語」33～50課）×2コース、中級1（「ニューアプローチ基礎編」1～15課×1コース、中級2（ニューアプローチ基礎編）16～20課及び「ニューアプローチ完成編」1～8課×1コース）、また短期は3コース（日本語能力対策試験用の短期講座）が実施されている。また、それ以外に、受講生を対象とした補完講座として、日本の文化や社会などについてのレクチャーやワークショップ、また日本人とのコミュニケーションを図る日本人との交流会として、「日本語の勉強方法」や「カラオケを使って日本の歌を学ぶワークショップ」が実施された。

3) 指標2-3：応募者数、受講生数、満足度、コース運営能力

最近3カ年の応募者数と入学者数を以下の表に示す。2010年度においては、定員200名のところ、これをはるかに超過する応募（333人）があった。教室の数及びスペースの問題によりこれ以上コース数を増やせない状況であるが、受講生のニーズに応えるためには教室の拡張が必要である。また、満足度については、5段階評価による最近の事後アンケート調査によると、コース内容が「非常に良い」または「良い」と答えた受講者は平均でほぼ100%に達した。同様の高い評価は、コース管理に対するアンケート調査結果においてもみられる。

<日本語コースの応募状況>

	初級	中級	上級	年少	合計
2008年：応募者	267	37	31	16	351
入学者	120	22	25	16	183
2009年：応募者	340	48	37	8	433
入学者	133	36	20	8	197
2010年：応募者	264	53	16	2	333
入学者	153	40	11	0	204

出典：プロジェクト、2010年12月

4) 指標2-4：大学と日本語教師会による定例会の回数と支援数

大学と日本語教師会による会議は定期的実施されている。教師会メンバーによる総会は、2010年の例では、年間6回開催される予定である。なお、定例会は主な行事が開催される前に準備会合として実施されており、主なイベントとしては、弁論大会、日本語教育セミナーなどがあげられる。

5) 指標2-5：日本語弁論大会はじめイベント・大会の開催数

これまでに、本プロジェクトでは「日本語教育学セミナー」を4回、「日本語スピーチコンテスト」を5回、「日本語能力試験」を5回共催している。

6) 指標2-6：日本語コースに関する日本語教材や指導書数

本プロジェクト開始前に、JFによりウクライナ語による日本語教科書2巻が出版されている。これら2巻はUAJCにおいて名目的な価格で販売されている。本プロジェクトでは、別版のウクライナ語による日本語教科書の編纂をめざしている。ウクライナでは、一般に日本語教育用の参考資料や教科書の副教材は少なく、入手も容易ではないが、UAJCの講師や受講生はUAJCでこれら教材に触れることができるので、他の一般学習者よりも有利な環境にあるといえる。

(3) 成果3：「日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化面についての情報及び知識の収集と相互発信のための体制が構築されるとともに、上述した分野での情報と知識の双方向での発信が行われる。」

達成指標	3-1 相互理解促進事業イベント実施回数 3-2 参加者数、満足度 3-3 日本・ウクライナ両国を紹介あるいは寄贈された資料や蔵書数 3-4 センター会員数、図書・視聴覚室利用者・入館者数 3-5 同事業に関する外部機関からの問合せ及び支援の要請回数
------	---

1) 指標3-1：相互理解促進事業イベント実施回数

相互理解のために実施されたイベント及びその他の文化事業の実績は次表のとおりである。合計356のプログラムが2010年10月末までに実施されている。なお、定期文化講座として常時5講座（将棋、囲碁、茶道、生け花、習字）が開校されており、これらは参加者から受講料を徴収しつつ、現地講師が講座を担当して実施している。また、様々なイベントもスタッフの発案とイニシアチブにより実施しており、年賀状ワークショップ、料理レシピコンテスト、折り紙講座などのほか、在留邦人や日本人の短期滞在者のボランティアベースの協力による生け花・書道パフォーマンス、雅楽コンサート、着付けデモンストレーション、草月流生け花特別講座などを実施した。さらに、日本・ウクライナ双方向での交流活動や情報発信にも積極的に取り組んでいる。ソロチンスキー見本市への出展や、ウクライナ・日本音楽祭（日本の音楽大学とウクライナ国立音楽大学の支援による音楽交流会）などのほか、日本大使館との共催による日本映画祭や日本文化紹介展などにも参画しており、ウクライナにおける日本の「止まり木」として、国内でその名を馳せている。なお、イベント実施回数を平均すると、毎週1.5件のプログラムが一般市民のために提供されたことになる。

さらに、単なる文化的な交流イベントだけでなく、ビジネスプログラムとの協働のもと、一般企業の商品開発など様々なプロジェクトの取り組みを紹介する「プロジェクトX上映会」も月に2～3回のペースで開催している。上映会終了後には毎回取り上げるテーマにそって関係者の講演を入れる（例えば、プロジェクトXのテーマがトヨタ自動車の場合、現地トヨタ自動車の現地支社もしくは現地ディーラーの代表が講演を行うなど）の工夫を行い、

ビジネス人材育成にも資する情報提供を行っている。なお、このような積極的な取り組みは、他の日本センターにも参考になる事例であると思われる。

<相互理解促進事業のイベント数（単位：回数）>

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年10月	合計
イベント	37	64	58	61	47	267
定期文化講座	15	14	11	15	9	64
UAJCフォーラム	3	8	9	4	1	25
合計	55	86	78	80	57	356

出典：プロジェクト、2010年12月

2) 指標3-2：参加者数、満足度

2010年10月末時点の定期文化講座（茶道、生け花、書道、囲碁、将棋）の受講者の総数は計765人である。実施後のアンケート調査結果からみると、受講者の97～100%がプログラムの内容に満足している。また、相互理解イベント（生け花デモンストレーション、プロジェクトX上映会、雅楽コンサートなど）やフォーラムの参加者数は計49,354であった。各イベント実施後のアンケート調査によると、参加者のうち、95～99%がプログラムの内容に満足していると回答している。

<相互理解促進事業の参加者数（単位：人）>

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年10月	合計
イベント	13,210	4,495	10,826	9,598	9,861	47,990
定期文化講座	157	172	133	189	114	765
UAJCフォーラム	290	434	314	196	130	1,364
合計	13,657	5,101	11,273	9,983	10,105	50,119

出典：プロジェクト、2010年12月

3) 指標3-3：日本・ウクライナ両国を紹介あるいは寄贈された資料や蔵書数

2010年11月末現在、UAJCの図書室の書籍数は合計10,235冊、また視聴覚資料の数は合計1,299点になる。UAJC図書室は独自に様々な日本関連の本をウクライナ市民に提供してきた。特に、キエフの各大学における日本語学習者がもつニーズ（外国語の背景にある文化への知識欲）を満たしてきたといえる。

また、2010年には日本の伝統文化の普及を行う団体から「和室キット」の寄贈を受け、相互理解促進事業の定期文化講座の場（茶道や生け花など）として活用されている。

4) 指標3-4：センター会員数、図書・視聴覚室利用者・入館者数

2010年11月末までの図書室利用者数は延べ36,468人、また図書室利用者登録数は延べ1,253人であった。

<UAJC図書室の蔵書数と利用者数>

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年11月
蔵書数（累計）	5,553	6,976	7,569	9,283	10,235
視聴覚資料の数（累計）	845	1,067	1,192	1,249	1,299
図書室利用者登録数（人）	310	238	260	231	214
図書室利用者数（人）	8,082	7,854	7,568	6,841	6,123

出典：プロジェクト、2010年12月

5) 指標3-5：同事業に関する外部機関からの問合せ及び支援の要請回数

少なくとも1週に1件程度の頻度で、小学校、NGO、マスメディア（テレビ、新聞及び雑誌等の出版社）及び民間会社のような外部の団体・組織から、本プロジェクトに対して、様々な種類の文化事業の実施に向けた打診・問い合わせがくると報告されている。イベント実施件数のうちで、外部機関の要請に応じて実施されたイベントの件数を以下に示す。

<イベントの件数及び外部機関からの要請>

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年10月	合計
イベント合計件数	37	64	58	61	47	267
要請に基づくもの	15	30	19	24	16	64

出典：プロジェクト、2010年12月

(4) 成果4：「日本・ウクライナ側関係機関の協力・支援のもと、UAJCが自立的に運営されることが可能な体制基盤が整備される。」

達成指標	4-1 合同調整委員会開催数・スタッフ定例会議などの開催数とその協議内容・結果 4-2 財務計画と事業財務指標（収入・支出、アカウント残高） 4-3 C/P及びセンター現地職員の人員配置状況、運営参加度 4-4 センター現地職員の運営能力水準
------	--

1) 指標4-1：合同調整委員会開催数・スタッフ定例会議などの開催数とその協議内容・結果

合同調整委員会（Joint Coordination Committee：JCC）は2010年12月時点までに合計4回開催されている。プロジェクトの管理運営上の課題を協議するために、スタッフ定例会議は毎週開かれている。また、C/PであるKPIとの間には、担当副学長との定例会が不定期ながらも頻繁に開催されており、KPIからの参画を促している。さらに、ほぼ毎月、ウクライナの日本大使館、日本の外務省、UAJCの日本人常勤職員及びJICA本部の間で、TV会議が開催されている。

2) 指標4-2：財務計画と事業財務指標（収入・支出、アカウント残高）

プログラムのうち、ほとんどの事業・イベントは有料で提供されている。日本語コースでは、2009年度においては3万米ドルを超える収益を上げており、現地講師やスタッフの給

与等の経費はプログラムからの収益により均衡可能と報告されている。ただし、UAJC全体では、すべてのスタッフの人件費を賄い、かつ十分な事業を実施するための収益を上げていないため、完全な独立採算にはいたっていない。しかしながら、もともとUAJCはKPIの一組織であり、UAJCが単体で収支改善を図るよりも、その存在意義による間接的な収益やメリットが大いに期待されるほどのステータスを築き上げており、KPIによるコントリビューションともあわせつつ、収支バランスの均衡を図ることが現実的である。UAJCの収支の詳細については付属資料3のAnnex 11を参照のこと。

### 3) 指標4-3：C/P及びセンター現地職員の人員配置状況、運営参加度

第3章の「3-1 投入」において述べているとおり、UAJC雇用のセンター職員が在外事業強化費で9名雇用されている（1名：業務調整、8名：センター職員）ほか、非常勤ベースで図書館業務1名と日本語コース講師が雇用されている。

他方、ウクライナ側からは、UAJC所長、副所長及び会計が任命されている。会計は常勤職員としてフルタイムで担当業務に従事しているほか、KPIの副学長とも定例的にUAJCが定例会を開催しており、KPIからの参画を最大限に図るための体制を整備している。

### 4) 指標4-4：センター現地職員の運営能力水準

これまでのプロジェクトによる協力の結果、センター職員は、プログラムの実施、事後のアンケート調査等のビジネスプログラム、日本語コース及び相互理解促進事業の実施におけるロジスティックな業務だけでなく、個々のプログラムの企画やウクライナのパートナー組織との調整など、サブスタンスにおける事業運営も担当できる能力を有するまでに育成されている。

## 3-3 プロジェクト目標の達成状況

(1) プロジェクト目標：UAJCが、「ウクライナの経済成長に資する人材の育成」と「日本・ウクライナ両国の社会・経済・文化面における交流関係促進」という統合的機能を果たすための体制が整備され、かつ、センターがその役割を果たすようになる。

達成指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスプログラムへの参加者と講師の満足度</li> <li>2. 日本語コース及びセミナーへの参加者の満足度</li> <li>3. ビジネスプログラムを通じ、両国間でビジネス連携、貿易投資及び大学・研究機関の学術交流を促進した事例数</li> <li>4. ウクライナにおける日本語教師ネットワークへの支援活動の事例数</li> <li>5. 両国間の相互理解活動への参加者の満足度と理解度</li> </ol>
------	--

### 1) 達成指標1：ビジネスプログラムへの参加者と講師の満足度

プロジェクト開始から中間評価調査実施までの間に実施されたビジネスプログラム受講者へのアンケート調査結果を以下に示す。

< 中間評価調査時（2008年11月）の分析 >

	ビジネスプログラム (全体)	ビジネスコースと フォーラム
実施されたビジネスプログラム	56回	18回
実施されたアンケート調査	20回	14回
満足した受講者の割合	91%	93%

出典：プロジェクト、2010年12月

2009年から2010年10月までの間に実施された事後アンケート調査の結果を次表に示す。この期間中のアンケート調査は主にオープン・セミナーの際に実施されているが、時により企業内セミナーについても実施されている。

< 中間評価以降の後半段階 >

	2009年の ビジネスプログラム	2010年の ビジネスプログラム
実施されたビジネスプログラム	50回	27回
実施されたアンケート調査	11回	13回
満足した受講者の割合	98%	95%

備考：本邦研修実施に伴うコース評価と帰国報告開催の回数は除外。「満足した受講者の割合」はサンプル抽出した事例について算定

出典：プロジェクト、2010年12月

2) 達成指標2：日本語コース及びセミナーへの参加者の満足度

日本語コース実施に伴う事後アンケート調査の結果を以下に示す。2007年と2008年の期間中の結果は中間評価調査に基づく。2009年のものは今回の調査においてサンプル抽出したクラスを対象に算定した。なお、2010年の事後アンケート調査は実施されていない。

	2007年と2008年	2009年
コース内容への満足	96%	93%
教科書と教材	93%	86%
講師	94%	93%
言語能力の上達	96%	N.A.

出典：プロジェクト、2010年12月

3) 達成指標3：ビジネスプログラムを通じ、両国間でビジネス連携、貿易投資及び大学・研究機関の学術交流を促進した事例数

- ・2008年11月の中間評価において、以下の事例が報告されている。
- ・UAJCビジネスコース及びセミナーから得た成果を経営改善のため取り込んだ企業の数：4社
- ・日本の企業と業務提携を実現した企業の数：2社

・日本の企業と業務提携に進捗あるいは一定の成果をみた企業の数：12社

ビジネスプログラム受講者の追跡調査が実施されていないので、本終了時評価では達成指標3を検討するための直接的な情報・データを入手していない。ただし、ビジネスプログラム受講者の近年の増加に伴って、セミナーなどからビジネスのアイデアを得ることができた企業、また本邦研修への参加を通して日本企業と業務連携の機会を特定することができた企業が増加している。

例えば、ウクライナ農業協会との連携協力による本邦研修「農産品生産管理」の実施に伴って、同協会と日本の総合商社との間でコンタクトが取られた。その結果として、ウクライナ産小麦の日本への輸出が契約にいたる可能性がある。また、UAJCの調整による新エネルギー・産業技術総合開発機構（New Energy and Industrial Technology Development Organization：NEDO）とウクライナ環境投資庁（National Environmental Investment Agency of Ukraine：NEIA）の引き合わせは、2009年3月の日本とウクライナ間の排出権取引の締結に貢献したと考えられる。

#### 4) 達成指標4：ウクライナにおける日本語教師ネットワークへの支援活動の事例数

本プロジェクトは、開始当初の段階からウクライナ日本語教師会を支援し、その活動の強化と組織の持続性の向上を図ってきている。例えば、本プロジェクトと日本語教師会は全国を対象とする「日本語スピーチコンテスト」あるいは「日本語教育セミナー」などを共催している。またUAJCではウェブサイトにおいて日本語教師会の活動を広報している。加えて、UAJC図書室はキエフ所在の日本語教師と学習者の便宜のために日本語教育のための様々な図書と教材を長期にわたり提供してきている。

#### 5) 達成指標5：両国間の相互理解活動への参加者の満足度と理解度

2010年10月末までの段階で、定期文化講座は64回実施された。また他の一般イベントは292回実施されている。これらの相互理解促進事業活動に対する参加者の評価は次表のとおりである。参加者のうち9割以上が満足しているとアンケート調査に回答しており、参加者の期待をほぼ満たす内容のイベントを実施してきたといえる。

定期文化講座	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年10月
定期文化講座の回数 (参加者数)	9 (650)	14 (989)	12 (513)	15 (189)	9 (114)
アンケートの回数 (満足レベル)	9 (100%)	8 (99%)	6 (100%)	1 (100%)	7 (97%)

他のイベント	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年10月
他のイベントの回数 (参加者数)	40 (13,500)	72 (4,929)	43 (9,636)	65 (9,794)	48 (9,991)
アンケートの回数 (満足レベル)	2 (99%)	21 (97%)	17 (90%)	15 (98%)	8 (95%)



### 3-4 上位目標達成の見込み

- (1) 上位目標：ウクライナ日本センターが、ウクライナの経済成長や様々な分野における日本・ウクライナ間の協力をより一層促進するための拠点となる。

達成指標	1. UAJCのビジネスマッチングを通じて、収益及び効率性が向上した個人、企業、組織の数 2. 両国の市民間連携・交流プログラムにつながった事例の数 3. UAJCの認知度
------	--

プロジェクト終了前の現段階では、上記のような達成指標の適用により、上位目標の達成状況を検討することは難しいが、UAJCがウクライナと日本間の相互理解を促進するうえで重要なセンターとして機能していることは既に見受けられる事実である。センターの活動以外にも、ボランティアベースで訪問する日本人がUAJCとともに文化イベントを行ったり、また文化事業に協賛する団体が現れるなど（例えば、日本の伝統文化の普及を行う団体からの茶室（和室キット）の寄贈があった）、UAJCが市民の文化交流の拠点として、「UAJCが人を集める」のでなく、「UAJCに人が集まる」ようになりつつある。また、2011年1月に予定されているウクライナ大統領の訪日にあたっては、成果文書の中でUAJCを両国の共有財産とし、更なる発展に双方が努力する旨の文言が記載される見込みであり、政府レベルからのUAJCに対する認知度も高い。このように、UAJCは既に一般市民から政府上層部までにその存在を認められるにいたっており、今後さらに、経済産業分野のみならず学術分野でも、両国の様々な組織の架け橋となることで、さらに高いステージ（組織連携など）に発展する可能性を有しているといえる。

## 第4章 評価5項目による評価

### 4-1 妥当性

高い。

1991年の独立以来、ウクライナは市場経済化に向けた経済改革に努力を傾注してきた。政府は、開発政策として「2005-2007年国際技術協力促進のための戦略」を掲げ、国家として重視すべき基本的方向性として、国民経済の競争力強化や中小企業振興を掲げ、経済成長に基づく貧困削減に向けた取り組みを行っている。なかでも、市場経済に対応する経営管理分野の人材開発を重要課題と位置づけ、経営管理研修の需要増加に対応してウクライナ全国でビジネス研修を提供する教育組織・機関を多数設置した。現在では、約1,200のビジネス教育組織・機関が存在しており、その中で20コースものMaster of Business Administration (MBA) プログラムが提供されるにいたっている。MBAプログラムのうち、5件はウクライナ国外の教育機関により運営されているといわれる。

ウクライナへの優先的な援助として、日本はその市場経済化を支援してきており、そのためUAJCの重点目的の一つに経営管理研修が置かれた。しかしながら、上述のように研修提供者間の競争が極めて大きい状況にあつては、単に経営研修の基礎コースを開設するだけでは、受講者を引き付けるには不十分であったと考えられる。2009年以降の段階で、UAJCは家具製造業者協会、プロジェクト管理協会等の業界団体との協力を通じてビジネスプログラムを多数開発し、これら業界団体のニーズに応える手段を講じてきた。また、SCURPEなどの関連組織からの支援のもとで、ビジネスプログラム講師を地方都市に送る努力も払ってきた。このような形で業界のニーズに応えることに成功した結果、UAJCのビジネスプログラムは有料セミナーを含め継続実施に成功している。

日本語コースと相互理解促進事業の活動を通して、UAJCは日本語と文化をウクライナ市民に普及し、日本の対市民外交 (public diplomacy) を成功裏に実現させてきた。同時に、ウクライナ市民と学生がもつ日本の社会と文化に対する強い知的関心に応えることができた。特に、ウクライナは新しい独立国であり、良好な外交関係をもつことは日本にとっても必要なため、相互理解を強化する文化事業は両国にとって極めて有益であったといえる。

### 4-2 有効性

高い。

必要な人材と組織制度に係る両方の見地から、UAJCは、ウクライナ市民への経営管理研修、日本語教育及び文化事業に係るサービスが提供可能な組織に成長するにいたった。これらの組織機能は、KPIがJICA、その他関係機関からの投入になお依存する部分はあるものの、プロジェクトが担当すべき範囲からみる限り、本プロジェクトはUAJC組織を育成することに成功したといえる。その結果として、UAJCは対象となる受益者のニーズによく合致する形でサービスの提供が繰り返しできるようになっている。以上の考えから、プロジェクト目標は達成されるものと判断できる。

ビジネスプログラムにおいては、ウクライナの製造業とサービス・セクターが求める経営管理のニーズを満たすことに対して一連の努力が払われてきた。そのような努力は、例えば、パート

ナーの業界団体との協力により開発された個々のプログラム、企業内研修、ウクライナから日本への観光客誘致のためのイニシアチブといったビジネスプログラムの活動に示されている。このようなアプローチを取ることで、ビジネスプログラムはプロジェクト目標の達成に貢献している。

相互理解促進事業の全活動は有料の定期文化講座とほぼ無料の他の一般的イベントに大別されている。この区分は意図的なもののように見える。その結果として、相互理解促進事業は知的関心に係る異なったニーズを満たし、多数のリピーターを生み出すことができたと考えられる。日本語コースにおいては、短期コースはキエフの各大学に在学する日本語履修学生に対し補修講義を与える一方で、長期コースは初心者向けの日本語教育を提供することができた。また、UAJCの日本語コース関係職員はウクライナの日本語教師会への支援も行った。以上のアプローチもまたそれぞれ成果を生み出しプロジェクト目標を達成するうえで貢献している。

#### 4-3 効率性

高い。

地方都市に向けてビジネスプログラムのセミナーを拡大実施するために、本プロジェクトはSCURPE及び他の関連組織の地方出張所などのネットワークを利用した。仮に、このようなネットワークがなかった場合、研修の場所や受講者の確保に困難を来したと思われる。また、パートナーの業界団体との協力を通して実際のニーズを満たすことができるセミナーが計画された結果、ビジネスプログラムの受講者が確保された。日本語コースと相互理解促進事業においては、センター職員はコースの管理に専念し、講師は通常パートタイムにより雇用されている。これにより総コストに占める固定費を低い水準に抑えることが可能となっている。2009年春以来、センター職員の人事査定は能力評価から業績評価に変更して行うこととなった。以上の活動や管理はすべてプロジェクトの効率性を上げたと考えられる。

なお、UAJCの新築建物はまだ利用可能な状態とはなっていないが、KPI中央図書館4階の使用可能な床面積を最大限に活用することにより、不便を抑制し、計画通りの活動ができたと考えられる。

#### 4-4 インパクト

大きいと見込まれる。

以下にあげる状況は現段階で見受けられるもので、本プロジェクトが与えた波及効果の事例としてあげられる。これらの状況はすべて長期にわたる性格を備えており、本プロジェクトが終了したあとも、ウクライナ側の組織のイニシアチブにより、関連活動が継続すると見込まれる。

##### (1) P2Mの適用

2009年以降、数回以上にわたり、UAJCは企業改革のための「P2M（プロジェクト&プログラムマネジメント）」に係るセミナーを開催した。これらの中には、2010年5月にウクライナ財務省職員約50人から80人を対象に2回実施されたセミナーが含まれる。その結果として、財務省は、その所掌下にある投資プロジェクト・プログラムを策定する際のツールとしてP2Mを採用するにいたった。2010年8月に公表された「ウクライナ大統領が定める国家プロジェク

ト」は、P2Mアプローチを適用することにより立案されたといわれる。

#### (2) 広島・長崎平和講座

UAJCが実施したKPI副学長の本邦研修等を契機として、2009年以降KPIは広島・長崎講座を第3学年の必修科目として正規のカリキュラムに導入した。KPIは、また教育科学省に対して本講座をウクライナの他の61大学も採用するよう働きかけている。

#### (3) カイゼンクラブの設立

本プロジェクトによって提供された本邦研修の成果に影響された結果、最初のカイゼンクラブが家具製造業協会により組織され、引き続き2010年12月には、全国の会員を対象としてカイゼン協会が設立された。これらのグループのメンバー企業の間では、日本に端を発している生産と経営管理に関する知識と経験を共有することが可能となったことが注目される。

#### (4) ドニプロペトロフスクでの活動

2010年6月に開催された第4回目のJCCに、ドニプロペトロフスク国立鉱山大学の代表が出席し、日本文化のドニプロペトロフスク市民への紹介を図るための独自の活動を報告している。同大学による以上の活動は、UAJCが2009年12月に同市で省エネのセミナーを開催したことを契機としている。この大学は、またUAJCの支所を同市に設立する構想をもつにいたってしている。現在では、文化事業の独自実施とともに、本プロジェクト終了後に設立が予定される運営委員会への参加を希望している。

### 4-5 持続性

中程度。

日本語コースと相互理解促進事業では、必要に応じて現地講師を確保することが可能であり、また講師報酬もプログラムの収益により補填することができると考えられる。しかしながら、ビジネスプログラムの研修事業は講師の供給源をJICAの短期派遣専門家に求めざるを得ない状況はなお続くと考えられる。これは、セミナーや研修に求められる相当に高水準の条件をまず満たす必要があるため、講師の現地化が難しい事情が存在するからである。

ウクライナ市民の間には日本文化への強い知的関心が存在していることは間違いないが、恐らくは電子書籍や他のデジタル媒体の普及を原因として、最近にいたりUAJC図書室の利用者及び相互理解促進事業の参加者の数は漸減の傾向を示している。そのような状況において、UAJCは、現在みられるような相互理解促進事業と日本語コースの活発な運営を継続し、また市民のニーズを一層特定するための努力を払ってきている。

現在のUAJCの組織制度は、JICAの技術協力を適切に実施することを主な目的として形成されているといえる。そのため、現行の組織制度は、2011年5月のプロジェクト終了前に見直し、再構築する必要がある。またUAJCの管理運営は、KPI、JICA及びその他外部機関からの財務上の投入になお依存する状況にある。UAJCが公共サービスに従事していることは明らかなので、外部資金への依存は妥当化できるが、現在みられるようなKPIとJICAからの運営経費の投入なしでは、特にビ

ジネスプログラムの運営を全面的に支えることは難しいように見受けられる。しかし、UAJC組織は既にわが国とウクライナ両国の共通財産と呼ばれるまでになっており、UAJCに資金提供を行い、UAJC組織を活用することに関心を示す機関がいくつか見受けられる。UAJCの持続性の確保は可能であり、過度に悲観的になる必要はないと考える。例えば、プロジェクト終了後、UAJCはKPIの一機関として引き継がれるが、JF及び日本貿易振興機構（Japan External Trade Organization：JETRO）がUAJCの事業に本格的に参入することが検討されており、これら新たなアクターによる新しい事業実施体制が実現すれば、UAJCの持続性はさらに高まると考えられる。

## 第5章 結論・提言・教訓

### 5-1 結論

本プロジェクトの開始以来、UAJCはビジネスプログラム、相互理解促進事業及び日本語コースの各プログラムに合計で約6万人の参加者を受け入れてきた。UAJCは、ウクライナの経済成長のために必要とされた人材開発に寄与し、また、ウクライナと日本の相互理解と協力を促進するうえで不可欠なセンターとして機能するにいたっている。関連の指標にみられる達成レベルからすると、プロジェクト終了時までにはプロジェクト目標は十分に達成されると判断できる。

さらに、本プロジェクトは公共・民間両セクターに大きなインパクトを与えると見込まれている。合同評価調査団は、特に企業によるカイゼンクラブの設立、KPIによる学生への広島・長崎講座の提供、財務省におけるP2Mの採用、地方都市でのUAJC支所設立の試みに注目した。これらの活動は本プロジェクトの投入以外のリソースにより成立しているため本プロジェクト終了後も継続可能な点に、インパクトの持続性が見出せるからである。

プロジェクト目標が達成されることは確実と考えられるが、プロジェクト終了後もUAJCの機能を維持するためには、UAJCに関与するウクライナ及び日本の関係機関により、UAJC存続に必要な手段の特定に向けた一層の努力が払われるべきである。求められるべき手段を提言として次節にあげる。

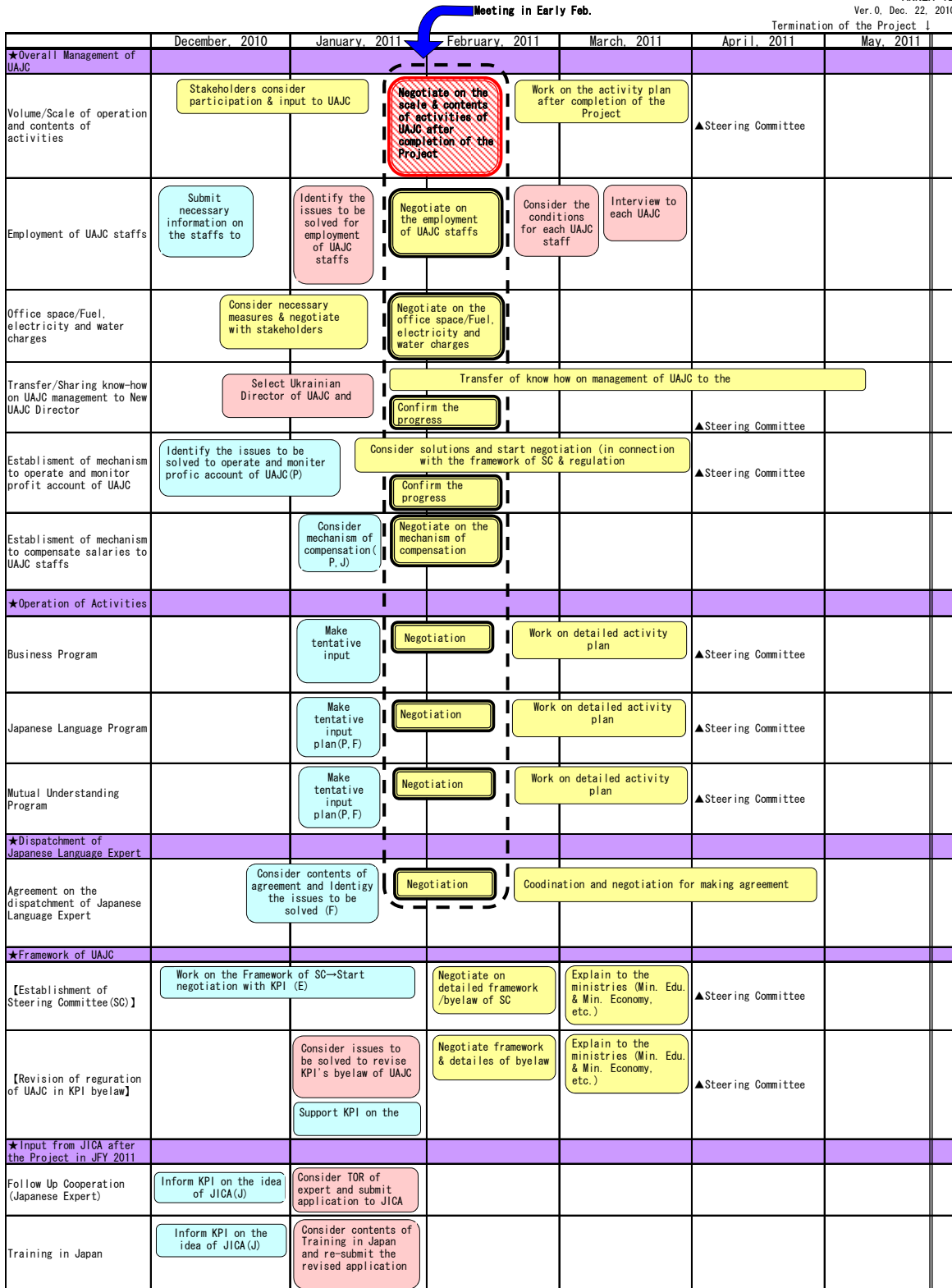
### 5-2 提言

本プロジェクト終了後に、UAJCの運営管理はKPIに引き渡される。しかしながら、UAJCがその機能を維持発展させ、ウクライナと日本との友好の象徴でありつづけるためには、両国の様々なステークホルダーの関与と貢献が必要である。そこで合同評価調査団は次のとおり両国の関係機関に提言する。

- (1) 第一に、各ステークホルダーは本プロジェクト終了後のUAJCへの関与と貢献を相互に確認し、遅くともプロジェクト終了4カ月前までに、将来的なUAJC活動の規模と範囲に係る合意を形成する。
- (2) 以上の合意に沿って、KPIは、プロジェクト終了3カ月前までに、UAJCの管理運営のための最適かつ実施可能な組織計画を策定する。同時にステークホルダーは、UAJCの引渡しに伴って生じる課題の特定と解決を図る。

上記のタスクを実施するためのロードマップ案は以下のとおり。(付属資料3のAnnex 12)

ANNEX 12  
Ver. 0, Dec. 22, 2010  
Termination of the Project



- : Japanese side (E=Embassy, J=JICA, F=Japan Foundation, T=JETRO, P=Project)
- : Ukrainian side (KPI)
- : Both (Ukrainian and Japanese) sides

ロードマップ案はあくまで現時点での想定であり、本プロジェクトの終了までの残り期間において、ステークホルダーがそれぞれの役割と分担を認識し、ロードマップとして落とし込み、これを参照しつつプロジェクト終了～UAJCの自立的運営に向け、円滑な移行を図ることが望ましい。

### 5-3 教訓

本プロジェクトの教訓は以下のとおりである。なお、日本センタープロジェクトは、8か国（ウクライナ、ウズベキスタン、カザフスタン、カンボジア、キルギス、ベトナム、モンゴル、ラオス）で展開されているが、本プロジェクトのみが5年間の協力をもってプロジェクトを終了する予定である（フェーズ2などの継続支援を想定していない）。

つまり、UAJCは、初期のプロジェクト目標を達成する見込みが高く、持続性も確保される見込みが高いことから、終了を迎えることになるが、本プロジェクトの経験は、他の日本センタープロジェクトの将来展開においても参考となるものであると考える。

#### (1) ビジネスプログラムにおける方向転換

本プロジェクトのビジネスプログラムでは、当初市場経済化に資する人材育成に主眼を置き、経営研修を中心に事業を行っていたが、ウクライナでは既に同様の活動を行う機関・組織の競合が激しく、単に経営研修の基礎コースを開設するだけでは、受講者を引き付けるには不十分であったため、産業界や業界団体と連携し、これらのニーズに即したビジネスプログラムの開発と実施を行うことに方針転換を行った結果、多くの受講生を集めることに成功した。現地の環境及びニーズに照らし、時宜にかなった活動を行うことが受講生の獲得につながったと考えられ、当初の計画に捉われずに柔軟に計画変更などの対応を行ったことが有効であったといえる。

#### (2) 組織としての自立発展性

UAJCを運営していくのはセンター職員である。本プロジェクトは、限られた期間において所期の目標を達成すべく、既に基礎知識や社会人経験もあり、潜在能力も高い人材をセンター職員として採用した。このことで、センターの運営管理はほとんどすべてを職員のイニシアチブで運営管理できる体制にまでいたっている。またスタッフのやる気も高く、積極的にUAJCの運営にかかわっており、人的な組織体制に憂慮する点はない。しかし、能力の高いスタッフであるゆえに、他からの引き合いなどにより、将来的に離職となる可能性も否定できないことからスタッフが代わっても活動を維持・発展できる体制を構築するよう（例えば業務マニュアルの整備等）、他の類似プロジェクトにおいても、プロジェクトの協力期間中から十分に認識しておく必要があると考える。



## 第6章 団長所感

### 6-1 評価結果

ビジネスプログラムについていえば、旧ソ連の崩壊により、共産体制から自由経済に移行するなか、市場経済化を後押しする人材のニーズは高かったものの、ウクライナ国民の技術・知的レベルの高さや、欧米のビジネス研修機関が多く存在したことから、他の日本センターで実施してきた広く一般向けに実施するタイプのビジネス研修は苦戦を強いられた。しかしながら、ビジネス研修をウクライナ内の業界団体（家具協会、農業協会、マーケティング協会など）と連携しつつ、より研修内容を一つ一つオーダーメイドで形成することにより、ウクライナ側からの評価を得ることができた。

日本語コース、相互理解促進事業では、本プロジェクトは、開始当初から技術協力プロジェクトとしては5年間に限定することを想定していたため、プロジェクト開始当初から、将来的な自立に向け、可能な限り現地リソースを活用しつつ、かつ独立採算で運営できるよう努力してきた。結果、現時点で、当該事業の多くが受講料などの収益と現地人材（講師）の活用により、実施できる体制が構築されたといえる。

よって、今次終了時評価調査団は5年間という限定的な期間の中で、所期のプロジェクト目標である「ウクライナ日本センターが『ウクライナの経済成長に資する人材の育成』と『日本・ウクライナ両国の社会・経済・文化面における交流関係促進』という総合的機能を果たすための体制が整備され、かつUAJCがその役割を果たすようになる」は達成されるものと結論づけた。

### 6-2 UAJC 5年間の成果

JICAの本プロジェクトは、2011年5月に終了する。しかし、これまでの活動により多くの波及効果がみられる。とりわけ、以下にあげる3点は、プロジェクト終了後も、ウクライナ側により活動が継続される可能性があるという点で特記すべきものである。

#### (1) カイゼンやP2Mという日本を代表する知識がウクライナ人により継承

家具協会に所属する者がUAJCのC/P研修に参加し、生産管理を本邦で学習し、帰国後に同協会内に有志でカイゼンクラブを設置した。同クラブはメンバー企業の経営改善のため、定期的にテーマを設定し、勉強会を開催している。また、本邦からのP2M専門家の指導により、P2Mのフィロソフィーを基に財務省改革指針スタンダードが作成されることとなった。

#### (2) 日本とウクライナ間のビジネスマッチング

ウクライナでは、現地日本大使館以外に、UAJC以外に日本に関係する情報を入手できる機関がない。また、ウクライナ側のみならず、本邦からも双方の国に対する照会が日本センターに寄せられ、日本センターが両国の関係機関の橋渡しを行ってきた。これにより、例えばNEDO関係者による省エネセミナーをKPIで実施したことに端を発し、「CTI（気候変動対応技術活動）セミナー」や「地球温暖化問題と低炭素社会セミナー」が実施され、日本・ウクライナ間の排出権取引につながったケースもある。さらに、わが国はとうもろこしや大豆といった穀物は輸入に依存しており、食料の安全保障の観点からも、安定的な穀物の輸入先の確保が不可欠であるが、ウクライナが輸入先の候補となった際に、UAJCが現地での情報収集を

支援することができた。

- (3) 独立国家として歩み始めたウクライナ市民の親日感情を醸成、国際社会で日本を支持する親日国家とすることに貢献

ウクライナは旧ソ連崩壊後に独立した比較的新しい国家であり、わが国との外交関係も新たに構築された。わが国にとっては、新たに国連の1票を投じることとなった同国との友好関係を構築することは、外交戦略上不可欠である。特に、欧州・旧ソ連地域の安定にとってウクライナの民主化推進が不可欠であり、確固たる民主国家である日本との関係強化は重要となっている。その観点から特に「対市民外交の拠点」として、広くウクライナ市民に対し日本理解を促進し、親日感情を醸成する活動を行ってきたUAJCは、わが国の国益にかなっているといえよう。特に、UAJCでは単なる文化イベントの実施のみならず、TV、ラジオ、マスコミ、ニューズレター等の広報媒体を通じた広報を積極的に行っており、その効果は計り知れない。

さらに、C/P研修に参加したKPI副学長のイニシアチブにより、KPIの学生向けに「広島・長崎講座」を開講し、すべての3年生の受講が義務づけられたことは、非核意識を浸透させ、かつ「平和国家日本」を今後も継続的にアピールすることができるものである。KPI側は、同講座を他の大学にも普及させようと、ウクライナ教育・科学・青年スポーツ省にも働きかけており、今後ウクライナ全土に波及する可能性を秘めている。なお、この取り組みは、「核のない世界」をリードするウクライナ国家の方針に合致しており、わが国はこれを支持していることを申し添えたい。

### 6-3 今後のロードマップ

これまでのウクライナ側との議論により、本プロジェクト終了後は、KPI側がUAJCの運営主体となることが合意されている。他方で、UAJCが日本・ウクライナの共通の財産であることにかんがみれば、日本からの投入が全く失われ、ウクライナ側からのみの投入によって活動が継続されることは想定しがたい。KPI側も今後のUAJCの体制を考えるうえで、本プロジェクト終了後にどれだけの活動が維持されるのかを知ることが不可欠である、としている。

JICAからの投入は、相当程度縮小される一方で、JFはJICAプロジェクト終了後も継続して日本語教育専門家をUAJCに派遣する用意があるとしている。現時点では、今後の日本からの投入の大半はJFからの投入となることが予想されるため、JF関係者を交えてウクライナ側と、技終了後の日本の投入と維持できる活動の範囲を確認する必要がある。その上で、活動を維持していくために、必要な体制を日本・ウクライナ双方で検討するのが現実的アプローチと考える。

なお、上記協議はなるべく早い段階が望ましく、2011年2月初旬が適当と考える。理由としては、1月下旬にウクライナ大統領の訪日が予定され、そのタイミングで、UAJCの成果に触れつつ、今後も日本・ウクライナ双方がUAJCを支えることに言及する可能性があり、今後の日本・ウクライナ双方の投入の確認を行うによいタイミングと考える。また、2月になれば、JICAやJFの2011年度予算も明らかになり、投入規模も想定しやすくなる。また、体制以外にも、KPI側がUAJCを維持するために必要としている国際協定に準ずるものや、収益金の取り扱いなども一つ一つ解決していく必要がある。加えて、本プロジェクト終了に向けての作業（資機材の譲渡、現地公金口座の閉鎖）とJFからの新規専門家派遣手続きなども確認する必要がある。

## 付 属 資 料

1. 主要面談者リスト
2. 面談録
3. ミニッツ
4. 評価グリッド
5. ウクライナ日本センター日本語教育事業 終了時評価報告書

## 1. 主要面談者リスト

### 1. ウクライナ側

- (1) 経済発展・貿易省  
Mr. Garmish 局次長
- (2) 教育科学省  
Mr. Sukholytkyi 国際協力・EU 統合局長
- (3) キエフ工科大学  
Prof. Zgurovsky 学長  
Prof. Yakimenko 第一副学長  
Prof. Sydrenko 副学長（国際関係担当）
- (4) UAJC  
Mr. Tsiganok UAJC 所長  
Mr. Ogorodnik UAJC 副所長

### 2. 日本側

- (1) UAJC  
水谷 修 チームリーダー  
平賀 達哉 日本語コース専門家  
古川 瑞穂 UAJC スタッフ（総務）
- (2) 在ウクライナ日本大使館  
佐藤 義晴 一等書記官  
岡本 佳子 一等書記官  
村井 真一 二等書記官  
高橋 佑輝 三等書記官

## 2. 面談録

### 面談記録

日時・場所	2010年12月8日、12:00～12:30、UAJC
聴取相手	Ms. Elena BZHOLA, Manager (MUP)
その他参加者	なし

2009年2月UAJC就職。

相互理解事業の9割は日本文化の紹介。残りの1割はキエフ在住の日本人に対するウクライナ文化（復活祭の彩色卵の作り方など）の紹介。文化事業は量的には十分であると思う。質的には、分野と講師にもよるが、十分ではないところもある。セミナーの事後評価で不満を見受けることがある。講義・セミナーの場合は全てアンケート調査を実施している。調査結果は集計されている。

相互理解事業の立案・実施は次のようになっている。

- 毎年3月中旬に4月以降の年間計画表を作成する。
- 日本からのボランティア団体の事業など臨時のイベントが入る場合はその都度計画に追加する。
- 計画立案は **project officer**（ウクライナ人職員）が行なう。有料コースを計画する際には、収支のバランスを検討する。今はフォーラムの有料化を検討中。
- 規模の大きなプロジェクトの場合は、スポンサー探しから仕事が始まる。例えば雅楽コンサート（1,100人参加）は **JTI**（ウクライナ支社、工場2箇所）に有り）が支援した。
- 上記の例では、UAJC が直接行なった活動は、各会場を無料にするための交渉、広報（集客）、交通手段の手配などであった。イベントの内容にもよるが、今は日本ブームなので、集客はさほど難しくない。特に書道などビジュアルなものは集客がそれほど難しいことはない。
- メディアを集める場合は、話題性を持たせることが難しい。話題性に乏しいと、目に見えて集まりが悪くなる。

JICA プロジェクト終了に伴い管理が移管されると、人件費や旅費の負担ができなくなる。現在の職員の9割が退職するのではないか。新人であれば続ける可能性が大きい。例えば、自分の同級生には、大学卒業後2年間無職の者がいる。条件が良くないとしても、就職したいはずである。

日時・場所	2010年12月8日、13:30～14:00、UAJC
聴取相手	Ms. Natalia PETROVSKA, Manager (JLC)
その他参加者	なし

2007年UAJC就職。当初から日本語コースを担当。

日本語教師は若い女性が多い。結婚、転職（英語分野）、国外転居など様々な理由により、来年も講師を続けてくれるか、分からない場合が多い。

毎年、日本語学科卒業生は相当数存在する。ただし日本語ができて、それだけではウクライナ国内では就職機会が少ない。(大学以外に)日本語学校があるが、UAJCの質が最も高い。UAJCの受講生数は大学の日本語学科(講座)の学生数にほぼ匹敵する。

日本語コースの事後評価について(注:毎年9月に開講し、翌年6月に終了する。アンケート調査はコース終了時の6月頃に実施する)。2009年分は実施しているが、2010年は未実施であった。

日時・場所	2010年12月8日、14:00~14:45、UAJC
聴取相手	Ms. Olga BRONDZYA, Manager (BP)
その他参加者	なし

2008年9月UAJC就職。

生産管理(家具業界、その他一般)、ニューズレター、カイゼン、マーケティングの分野におけるビジネスプログラムを担当。自分の前任者は産学官連携を担当していた。KPI採用職員のウラジミール氏は省エネとNTTを担当していたが2010年7月か8月に離職した。

過去2年間(2009年当初以降)で、BPの活動は極めて活発となった。具体的には、短期専門家の人数や家具協会、マーケティング協会、農業協会(Agriculture Association)などの組織に対するUAJCの活動内容の多様化(注:UAJCに派遣された日本PM協会理事長・田中弘氏の言う“事業ポートフォリオ多角化”と同じ)と活動件数の増加に見ることができる。なかでも、プロジェクト管理手法(P2M)の紹介のため、財務省で2回行なわれたセミナー(田中弘氏担当)は大いに成功を見せ、P2M手法を国の財政制度に適用する動きがあると言われている。

専門家のセミナー等の水準に対する要求の度合いは強い。ウクライナは欧州の一国家であり、求める知識・技術水準は相当に高い。これは忘れてはならない条件である。基本的な知識を伝えるだけでは不十分。2010年派遣の生産管理の専門家(本プロジェクトでは初めての公示により「生産管理」専門家をリクルート)は、英語による質疑応答ができないなど言語の問題もあったが、講義内容が基本の範囲を出ないもので、期待はずれであった(注:BP担当のもう一人、Mr. Ivan Sarwarも同意見)。

日時・場所	2010年12月8日、15:00~15:30、UAJC
聴取相手	Ms. Svitlana PASICHNYK, Manager (General Affairs)
その他参加者	なし

2008年6月UAJC就職。

視聴覚マテリアル一般の作成、広報、出版を担当。UAJCのウェブサイトの維持管理も行なっている。ウェブサイトで使用されている4言語(ウクライナ語、露語、英語、日本語)の内、日本語は古川氏が担当。来年のUAJCダイアリーの作成は終わった。New Year Card

は作成中。

(注：この他に JICA プロジェクト終了への対処について話があった。給与費の大幅削減に対して、ウクライナ人職員がどのように対応するかは個人により異なるが、何とかセンターに残された途を探るにしても、KPI からの提案がないと検討のしようがないとする意見が聞かれた)

日時・場所	2010年12月8日、15:30～16:00、UAJC
聴取相手	Ms. Iryna KITSA, Manager (BP)
その他参加者	なし

2009年10月UAJC就職。

採用当初は、ビジネス/プランの助手、貿易、融資関連を担当。現在は、マーケティング、本邦研修（生産管理）、ニューズレター（日本分野）の分野におけるビジネスプログラムを担当。

ビジネス分野のセミナーの立案・実施は次のようになっている。

- セミナーのトピックを決めて計画の素案を作成する。
- 関係組織（例えばマーケティング協会や地方の商工会議所）とトピックは何が良いか、何日行なうか、どの市で行なうか、対象グループは何かなどを討議する。その上で期間的な枠組みを計画する。
- 水谷所長の了解を得る。
- 必要なタスク、期限などをまとめた計画案を JICA 本部に送付する。
- 講師が決まった後は、地方の関係組織とコンタクトして情報を周知する。その後、講師の C/V や写真などを送付する。他に教材の翻訳、通訳の選定、国内旅行の予約など。
- ハンドアウトの印刷。地方であれば送付。セッション中のコーヒブレイクの手配
- 事後はコース評価と評価結果の集計

以上のプロセスの中で困難な事項

- 計画素案の作成（注：特にニーズの把握）
- 計画立案のアイデアを JICA 本部の担当職員に説明することが難しい。大抵理解できないと言われる。（注：ウクライナの各業界では、経営管理の基礎的知識は既に大学やビジネス学校で承知している人が多い。そのような人達の経営管理面でのニーズをきちんと把握すると、研修内容の焦点が絞られてくる。対象業界に沿いかつ実践的な内容が求められることとなる。その結果、ファイン・チューニングされた TOR に対応し得る講師をリクルートすることが課題となる。）
- 信頼性の高いパートナー組織（ウクライナ国内）を選定することが難しい。

日時・場所	2010年12月8日、16:00～16:30、UAJC
聴取相手	中村仁氏、図書室受付
その他参加者	なし

2010年6月UAJC就職。

キエフ市に8年在住。国立言語大学修士課程修了。KPIから誘われて現在の勤務に就いた。  
(注：現在、図書室受付の仕事は臨時雇用のポストとなっている。KPIへの移管後も図書室受付のポストに人員が配置される必要がある。書籍の相当部分が日本語書籍なので、日本語を解することが受付の資格要件となる。JICAのプロジェクトでは、このポストは臨時職で対処しているが、KPIの場合には、どう対処されることとなるか未定である)

日時・場所	2010年12月8日、18:00～18:30、UAJC
聴取相手	平賀達哉氏、日本語専門家 (JF)
その他参加者	なし

2010年度から日本語教師会支援の担当がUAJCからシェフチェンコ大学の三森先生 (JF 専門家) に変更された。これはUAJCには新規のJF 専門家が今後派遣されない見込みが  
かってあり、そのために取られた措置であった。シェフチェンコ大学に支援拠点が移動し  
たが、教材・書籍のストック場所の提供及びコピー作業が可能なことなど、UAJCは依然  
として事実上の支援拠点となっている (三森先生にはオフィスが無い)。

Natalia PETROVSKA 女史 (2007年採用、日本語コース担当者) は経験も積み、コース運  
営の状況も安定している。コース詳細についてなお改善点も見られるが、仕事の能力は満  
足できるレベルにある。

独立国家共同体 (CIS) の中では、日本語学習者数の多さは、ロシア、ポーランド、ウクラ  
イナの順である。

日時・場所	2010年12月9日、12:00～12:20、木造家屋建築展示会場、キエフ
聴取相手	Mr. Andriy GRUBSKY, KPI 卒業生、日本語・文化事業受講生
その他参加者	なし

日本語コースと文化事業 (茶道、料理など) の受講者

日本語や日本文化に関心を持つ理由。自分の専門分野はポリマー (重合体)。この分野では  
日本は高い技術を持つ。またナノ技術やロボテック等でも日本が最先端。

資源小国で海に囲まれているにもかかわらず、世界トップクラスにまで日本経済は発展し  
た。なぜ発展できたのか、その理由が知りたい。そのために文化を学んでいる。1970年代  
以降から資源リサイクル技術・事業が開発されている。この辺に注目して勉強している。



100km 余も離れた町から茶道に参加するためだけに UAJC に来ている人もいる。来館しても何も買わず、何も取らず、ただ見るだけのために来ている。

日時・場所	2010年12月9日、13:45～14:15、UAJC
聴取相手	Ms. Victoria MYRONCHUK, Manager (MUP, Library)
その他参加者	なし

2006年4月 UAJC 就職。

図書室の書籍管理。目録のメンテナンス。姉妹都市（キエフと京都は40周年、オデッサと横浜は45周年）との提携支援、ポスターのデザイン・制作などを担当。

プロジェクト当初（2006年5月）は、受付（自分）、図書係及び田宮氏の3人で業務を開始した。その後5年間で、職員が増え、またイベント数も増えた。最初は、日本語と文化事業から開始され、その後水谷所長が来てから、ビジネス・プログラムが（本格的に）始まった。田宮氏はBP分野外の人で、JICA本部に専門家を送ってくれと何度も頼んでいた。

日時・場所	2010年12月9日、14:20～14:50、UAJC
聴取相手	Mr. Igor TKACHUK, Manager (Driver)
その他参加者	なし

2006年6月 UAJC 就職。

公用車の運転手以外の業務として、イベントのビデオ撮影・編集、買い物、倉庫（地階と4階）の出し入れ、その他事務室の雑用一般を行なっている。地方都市での仕事にもロジ関係に従事する。

日時・場所	2010年12月9日、15:00～17:00、NTUU “KPI”本部
聴取相手	Prf. Sergey SYDORENKO, Vice-Rector, NTUU “KPI”
その他参加者	Ms. Kateryna LUGOVSKA, Ms. Alla（通訳）

NTUU “KPI”の国際協力担当副学長。

UAJC は日本とウクライナの架け橋の役割を持つ。様々な分野において広くその役割を持つべきもので、単に KPI の利益に限定された役割を追求するものではない。例えば、チェルノブイリ原発事故による被爆経験を契機とする KPI 主催の広島・長崎講座の実施（2009年9月、UAJC 支援）の例に見られるように、UAJC が果たし得る役割の範囲は広い。

KPI が関心を寄せる産学官連携事業、省エネ及び先進技術分野に対する UAJC 活動については、次の段階において、これらの分野に関連するプロジェクトが実施されること、その際には KPI の若い研究者が中核となること等を期待したい。

自分の専門分野は材料科学（特に薄膜素材）である。京都大学（今井教授）と学术交流を行なう予定である。交流には教授同士のコンタクトが必要である。

UAJC は、モスクワの日本センターよりも活発に事業を行なっている。KPI が UAJC に置く優先度は高い。JICA プロジェクトが終了しても事業を継続する意志を持つ。終了後日本がどのような投入を行なうか確認したい。できれば現在の体制を継続してほしいところである。そのように再度要求するつもりである。

UAJC が営利事業を行なうことについては経済省から許可を受けている。JICA プロジェクトが終了した後も許可の有効性は継続する。NTU“KPI”においては、UAJC は NTUU 国際部の一部門として組織的に位置付けられる。

UAJC 用の新棟（建物 No.35）建築工事予算確保について努力を続けてはいるが、何時移転可能になるかまだ不明。

日時・場所	2010年12月9日、19:15～20:00、UAJC
聴取相手	Mr. Ivan Sarwar (BP)
その他参加者	なし

2008年5月 UAJC 就職。

オデッサ大学で電子工学の学位取得。その後東北大学に留学。民間会社、NGO、英国大使館（3年間）などに勤務。転職する内に経営管理の分野に関心を持つようになった。

個別企業へのコンサルテーション（経営指導）事業は2008年以降開始。JICA 短期専門家の協力を得て、人材育成（HRD）と生産管理（PC）の二分野でサービスを提供。一日1,040米ドルの報酬を受ける。これまでに約20社に対して経営指導を実施済み。2010年派遣の生産管理の専門家の協力を得て、ある企業から二日間の経営指導を受注した。ところが一日目の経営指導が終わった段階で、二日目をキャンセルされた。これは指導内容の水準が低かったためである。（注：経営指導はコンサルタントやTAM/BASプログラムなど競合相手の多い業種。UAJC のブランド価値の低下につながりかねない問題であるが、担当者として対処が分からず困惑しているように見受けられた）

カイゼン協会の主な目的は UAJC が現在行なうビジネス・プログラム（BP）の実施にある。ここには、JICA プロジェクト終了後も BP 継続を可能にすることが念頭にある。理由の一つとして、KPI に移管されると UAJC は政府機関となる。一方、カイゼン協会は NGO である。両者の違いが BP 実施に影響を持つと考えている。

日時・場所	2010年12月10日、10:00～10:50、Taras Shevchenko Univ.
聴取相手	Dr. Ivan BONDARENKO, Vice-Director, Taras Shevchenko Univ.
その他参加者	片岡先生 (JF 専門家)

ウクライナにおける日本文化研究の第一人者。

ウクライナの日本文化に対する関心は強い。これに対しこの5年間UAJCは十分な貢献を果たしてきた。ブリティッシュ・カウンシル、孔子学院、ゲーテ学院などと比較して、格段に良い活動を行なってきた。

だが、なぜ工科大学 (KPI) を受け皿としたのか、ここが疑問である。KPIが提供している施設も狭い。シェフチェンコ大学では、もらった予算は自由に使える。KPIの予算は使途が決まっている (自由に使えない)。財政基盤が全く違う。

キエフ市5大学に日本語講座がある。他の5市 (オデッサ、ハリコフ、ニトロペトロフスク、クリミア、リボック) にも講座もしくはコースがある。キエフ市だけで1学年から5学年合わせて約500人が日本語講座に在学。この内300人がUAJCの日本語コースや文化事業に毎週参加している。文化事業は日本語の学生にとって大変有用である。また図書室の日本語書籍も卒論作成などに不可欠。

JICAプロジェクトが終了となると、UAJCは困難な時期を迎えることになる。市民参加者にとって難しい状況となる。孔子学院は共同所長制である。UAJCも日本人所長を継続して置かないと弱体化するのでは。

何故日本文化に関心があるか。ウクライナでは1991年の独立後、キリスト教などが復活し異なった宗教が併存している。日本でも仏教と神道がある。また独立直後の混乱により経済は急下降した。日本は敗戦後30年間で世界経済のトップクラスに成長した。どうしたら、そのようなことが可能なのか。ウクライナでも可能か。そのような関心がある。現在の日本経済の停滞は残念でならない。

日時・場所	2010年12月10日、11:50～12:50、UAJC
聴取相手	古川瑞穂氏、業務調整 (GA, MUP, 広報等)
その他参加者	なし

2008年6月UAJC就職。

排出量取引はNEIA (エネルギー関係の政府機関) が担当。2009年3月に日本とウクライナは政府間で京都議定書に基づく排出量取引に関する購入契約を締結。これで300億円のビジネスチャンスが生じ、そのため日本の総合商社各社がキエフに駐在員を置いていられる。

2010年8月に大統領が定める国家プロジェクト10件が公表された。計画策定の作業部長はカスキフ議員。UAJCの仲介により、2010年12月1日に日系企業を対象としたカスキフ議員による国家プロジェクトのセミナーを実施した。

文化事業に対する問い合わせ。小学校からは折り紙の授業へのUAJC支援を依頼するケースが多い。また日本関連のイベントでも支援の要請がある。このような件について問い合わせが多く来る。受付の記録を取ってはいないが、とにかく多い。水谷所長の方針として、収支均衡を図る事業では、センター職員は事業実施に直接携わるのではなく、事業の管理に専念することが求められている。外部からの問い合わせに対しては、実施効果の有無を見極めた上で支援（出張実施）を決めている。

JCC議事録。3回目も4回目も議事録はある。4回目の議事録提出が遅れているのは、JICAコメントをウクライナ語にしてKPIに提出しているが、KPIからまだ未返却のためである。

職員への賞与。以前は所長と専門家が能力評価（コミュニケーション能力など）を行ない賞与額に反映させていた。水谷所長着任後は能力評価は中止。2009年は一律支給。2010年分は各人の業績を評価しこれを反映させることになっている。2009年度から各人の担当業務が示される全体年間業務計画が作成されているので、業績評価が可能となっている。

以前はビジネス研修（セミナー）は一般的な分野（人材開発、生産管理、マーケティング等）別に行っていた。途中から業界別の研修に切り替えた。業界団体として、家具協会、マーケティング協会などがある。これらの協会をパートナーと称している。

日時・場所	2010年12月17日、13:00～13:20、ウクライナ農業・私的土地所有者協会
聴取相手	Mr.Mikola Stepanovich（ウクライナ農業・私的土地所有者協会会長）、Mr. Vitaiy Lvov（同協会第一副会長）、Garina Lozenko（コンサルタント）
我方参加者	伏見、水野、Yulia Zamorska（通訳）

（Mr.Mikola Stepanovich）

・ウクライナ農業・私的土地所有者協会について

4万2千の農家が会員となっており、各州に支部を有す。今年設立20周年。

（Mr. Vitaiy Lvov）

・UAJCとの協力関係

主に本邦研修での協力で、関係が開始されてから2年経つ。2009年度に実施された「農産物生産管理」には、第一副会長も参加した。

本研修では、全農の関係者から講義を受けたり、商社（丸紅、三井物産、三菱商事等）に会う機会があった。三菱商事については、ウクライナにある同社事務所と今もコンタクト

が続いており、ビジネスマッチングとして良い機会であった。  
 また、品質管理についても、農産品の品質管理を司る機関への訪問が大変参考になった。  
 日本とウクライナとではその方法は異なるものの、将来日本に輸出する場合、日本基準の  
 品質管理として心得るべきことを学んだ。

日時・場所	2010年12月17日、14:15～14:50、UAJC
聴取相手	Mr. Garmish (経済発展・貿易省局次長)、Mr. Tsiganok (UAJC ウクライナ側所長)
我方参加者	伏見、水野、Yulia Zamorska (通訳)

(Mr. Garmish)

2006年5月のプロジェクト開始から見ているが、プロジェクトに対する経済省の評価としては“良い”といえる。肯定的な評価である。

ビジネスコースでは、経済金融発展における講義が有用であった。また、日本語については日本語を学びたい人の数は年々増えている。さらに相互理解促進事業については、映画祭等に自分も参加し、大変興味深かった。

当省は、プロジェクトの機材の通関時における免税措置のための書類作成等で協力したが、プロジェクト終了後はその免税の枠組みがなくなるため、課税対象となることを理解いただきたい。センターがなくなるのは惜しい。ぜひ継続してほしい。特に日本語は日本人を配置すべき。

(伏見)

UAJCはなくなる。JICAのプロジェクトが終わるとのこと。日本語はJFが専門家の派遣を継続する予定である。

(Mr. Garmish)

JICAによる財政的な支援や機材の支援などはないのか。

(伏見)

JICAは短期専門家を1～2名派遣する程度となる見込み。

(Mr. Garmish)

来年5月にプロジェクトが終了した場合、何か機材を導入する場合は税金がかかることを理解してほしい。また日本センターが何かを購入する場合も付加価値税(VAT)がかかることになる。

(伏見)

JICA のプロジェクトが終わる＝無税措置が取れなくなる、ということは理解した。UAJC については、大使館が政府と話し合ってもらいたいと思う。

(Mr. Tsiganok)

JCC で日ウ双方が同意したのは、新しい基盤を設ける必要がある、ということ。プロジェクトの残り期間でその基盤整備を行う予定。プロジェクト終了後は UAJC はスペースの借料や光熱水費を支払う必要が出てくる。もし支払いが不可能となった場合はスペースの面積を減らすということも仕方がない。なお、光熱水費は実際には教育科学省が負担している。

(Mr. Garmish)

経済省の名称が Ministry of Economic Development and Trade に変更となった。29 あった省庁が 20 に減る。職員数も今後 6 ヶ月をかけて 30%削減される予定。

日時・場所	2010年12月17日、15:15～15:50、教育科学省
聴取相手	Mr. Melyan Sukholytkyi (教育科学省国際協力・EU 統合局長)、Mr. B. Tsiganok (UAJC ウクライナ側所長)
我方参加者	伏見、水野、Yulia Zamorska (通訳)

(Mr. Sukholytkyi)

教育科学省は省庁改変により、「教育科学・青年スポーツ省」となり、職員数も 30%削減される予定。日本センタープロジェクトを高く評価しており、ぜひ継続してほしい。UAJC はウクライナ・日本の人道分野において大きな役割を果たした。ソ連時代には日本の文化や情報に触れる機会はほとんどなく、あってもモスクワ経由で部分的に得るだけであった。日本に関する知識がまったくなかったが、UAJC の活動により、日本に関して関心を持つようになった。UAJC は一般の人々のコミュニケーションとして、また、ビジネスの架け橋として重要であり、ウクライナ側の予算措置がもしできるようになれば、日本についてウクライナ全土に広げたい。

(伏見)

JICA のプロジェクトは終了するが、センターは継続する。これまで貴省が光熱水費を負担してくれたおかげで活動ができた。これをプロジェクト終了後も継続いただくにはどのような対応が必要か？

(Sukholytkyi)

政府間の国際協定が必要である。これがあれば負担する根拠となりえる。必要であれば責任者に会わせ具体的な必要書類の準備など話しあってもらうことも可能である。政府間合意となるので、ウクライナ側は当省、財務省、経済省、法務省からの承認は必要であると考ええる。

(伏見)

大使館を交えて議論したい。

(Sukholytkyi)

日本においてもウクライナのことを宣伝することは重要であり、将来的にはウクライナセンターを日本に作りたい。両国の交流がさらに活発となることを期待する。

(伏見)

来年3月にUAJCにて留学フェアを開催予定である。日本の大学が何校かウクライナに来る予定であり、留学生の交流が広がることを期待したい。

日時・場所	2010年12月17日、16:15~17:00、UAJC
聴取相手	Mr. Ivan Sarwar
我方参加者	伏見、水野

ビジネスプログラムのIvan Sarwar氏に「カイゼン・クラブ」について聴取したところ以下のとおり。

- ・ 「カイゼン・クラブ」は業界の中にもカイゼン・クラブ（例えば、家具協会の中のカイゼン・クラブなど）が作られているが、本「カイゼン・クラブ」は全業種を対象としウクライナ全土での展開を予定している。
- ・ 「カイゼン・クラブ」はNGOとして発足予定。先日発足イベントを行ったばかりである。とりあえず代表は水谷所長となっているが、事務局は自分（Ivan氏）が代表となる予定。
- ・ 「カイゼン・クラブ」では、カイゼン、5S、TPS、TQM等に関するセミナーの実施、企業内研修の実施、コンサルティング、研修等のサービスを行う予定。
- ・ メンバーフィーは100ドル（年間）。基本的にサービスは有料であるが、オープンセミナーは無料で実施したいと考えている。
- ・ 年間予算（試算）は5.6万ドルを想定（事務局の人件費等の固定費。JTIから年間5万ドルの援助を受ける予定。その他EBRDのBASプログラムへの参加やECからの援助なども想定している。
- ・ もともと構想は、プロジェクト終了後はKPIに職員の雇用が引き継がれる予定であるが、KPIの給与は非常に低いため、それを補填するための事業として「カイゼン・クラブ」の案があがった。「カイゼン・クラブ」については、KPI側も合意している。

日時・場所	2010年12月20日、13:30～14:10、KPI
聴取相手	Dr. Yakimenko (KPI 第一副学長)、Mr. Ogorodnik (UAJC ウクライナ側副所長)、Ms. Lugovska (KPI 側 UAJC 調整担当)
我方参加者	伏見、水野、寺尾、Yulia Zamorska (通訳)

冒頭、伏見課長より中間レビューの実施方法及びMM署名について説明。

(Dr. Yakimenko)

UAJC が KPI の中に設立されたこと自体が大きな成果であったと評価したい。KPI は旧ソ連の中でも最も大きな大学であり、4 万人の学生と、1 万人の職員を有す。これらが全て UAJC のことをよく知っているだけでなく、何らかの形で関与している。具体的な成果としては、日本語講座の実施では多くの受講生が日本語を学ぶ機会を得、また、経済の面ではウクライナ全土が様々な観点から裨益した。日本文化の行事も活発に実施された。また、なんといっても、UAJC のお陰で日本のハイレベルの研究者とコネクションを持つことができたことは大きい。東京大学の岩田教授等、今も常に連絡を取り合っている。また、広島長崎平和講座や京都市との姉妹都市 40 周年記念行事の実施、ウクライナ全土における日本センター支所の設置など、多くの効果を生んだ。

(伏見)

大変高い評価をいただけたと考える。本調査団の調査結果では、本プロジェクトは初期の目標を達成したと考えている。現在、日本側関係者がプロジェクト終了後 UAJC に対してどのような投入ができるのかを検討している状況にある。プロジェクト終了後の UAJC の体制については、投入に見合った体制を構築するべきと考える。

(Dr. Yakimenko)

UAJC が KPI に運営体制を移管するに当たっての問題として、財務的な問題（光熱水費及びスペースの借料）があげられる。これまでのように国家予算が使えないので、大学で受けている基金等を充てる必要がある。また、人事の面でも UAJC 職員に対し給与を支払う用意はあるが、他の職員と同様のレベルとなる。もちろん、UAJC が独自に事業を行いその収益で職員の給与の補填を行えるのであればよいが。そもそも UAJC は「日本」ということで関心を生んでおり、日本側が今後も参加することは不可欠。

これまで、日本センターを運営するに当たって、KPI としては、143 万グリブナを支出している（光熱水費、スペース、掃除要員、電話代等）。これらは国際約束に基づき確保したものであるが今後どうなるかは未だ不明である。

KPI が運営に対し責任を持つに当たっていろいろと課題があることを理解いただきたい。

(ここで途中退席)



(Mr. Ogorodnik)

UAJC のスタッフが KPI 職員の給与レベルとなって果たして残るのか。UAJC の職員が今の給与を維持するには事業で稼ぐしかない。また、ウクライナ国籍ではない、日本国籍の者の扱いなどの問題もある。なお、国立大学には定員制度があり、現在で定員はいっぱい。これを増やす必要があるがそう簡単ではない（2009 年の新規採用はゼロ）。

(Ms. Lugovska)

UAJC は日本の組織であり、UAJC 所長は日本人でなければならない。ぜひ日本人の専門家派遣の継続を希望する。

日時・場所	2010 年 12 月 21 日、KPI
聴取相手	Dr. Yakimenko (KPI 第一副学長)、Mr. Ogorodnik (UAJC ウクライナ側副所長)、Ms. Lugovska (KPI 側 UAJC 調整担当)
我方参加者	高橋 (大使館)、伏見、水野、寺尾、Yulia Zamorska (通訳)

冒頭、伏見課長よりミニッツの内容の説明を行った。

(Dr. Yakimenko)

評価ミッションの調査に感謝する。ご報告いただいた内容に合意する。プロジェクトの活動や成果について、特段のコメントはない。結論及び提言についてのみじっくり読ませていただき、何か追記等あれば明日連絡する。

なお、今後のことであるが、現時点でわかることについてのコメントは次の通り；

- ・ KPI 内の UAJC 規程：UAJC は KPI の一部署として位置づけられている。今後の活動に見合った形に修正する必要がある。
- ・ 政府間協定：政府間の話に KPI が口を出すことはできないが、提案はできると思う。大統領訪日にあたり、UAJC に関する情報を KPI 側からも政府に提供している。
- ・ UAJC の活動の規模及びレベルを維持するためにも、今後も日本側の何らかの投入は必要。KPI 側もちろん努力するが、日本側にもぜひ検討をお願いしたい。
- ・ JICA については、市場経済化支援の枠組みの中で今後も何らかの協力をお願いできれば幸い。
- ・ JICA が日本の他の機関を巻き込んでいただけるとありがたい。

日時・場所	2010年12月22日、14:40-15:20 KPI
聴取相手	Dr. Zugrovsky (KPI 学長)、Dr. Yakimenko (KPI 第一副学長)、Mr. Tsiganok (UAJC ウクライナ側所長)、Mr. Ogorodnik (UAJC ウクライナ側副所長)、Ms. Lugovska (KPI 側 UAJC 調整担当)
我方参加者	高橋 (大使館)、伏見、水野、村上、古川、寺尾、Yulia Zamorska (通訳)

(Dr. Zugrovsky)

これまでの JICA と KPI の協力関係に大変満足している。評価調査のミニッツについても同意するので今般署名したい。

今回の調査団の UAJC に対する高い評価に改めて感謝する。UAJC の文化事業はまさに両国の架け橋となった。また、本邦研修では、50 名を超えるウクライナ人が日本を訪問する機会を得、ウクライナ人の人材育成に大きく貢献した。広島・長崎平和講座を通して、ウクライナの青年が平和の価値観を持つようになったと思われる。これについては、ウクライナの全ての大学に導入したいと考える。

将来の UAJC の活動に必要なものは新たな建物（建設中）であるが、残念ながらプロジェクト期間中に完成できなかった。プロジェクト終了後も日本側からも働きかけをお願いできれば幸い。

(伏見)

建物の件につき、KPI が努力していることについては承知している。プロジェクト終了後は関係機関に働きかけたい。また、2月上旬をメドに、日本側関係者とプロジェクト終了後にどのように UAJC を活用し、どのような協力ができるか、話し合いたいと考えている。

(Dr. Zugrovsky)

2月の協議には関心をもって参加したい。将来的な戦略が必要であり、ぜひその際に話し合いたい。

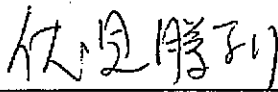
以 上

**MINUTES OF MEETING BETWEEN  
THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM AND  
THE NATIONAL TECHNICAL UNIVERSITY OF UKRAINE  
《KYIV POLYTECHNIC INSTITUTE》  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR  
THE UKRAINE-JAPAN CENTER PROJECT**

The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) was organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), headed by Mr. Katsutoshi FUSHIMI, to visit Ukraine from the 7<sup>th</sup> to the 23<sup>rd</sup> of December, 2010, and had discussions with the Ukrainian authorities for the purpose of conducting the terminal evaluation of the achievement and identifying issues of “Technical Cooperation Project of Ukraine-Japan Center” (hereinafter referred to as “the Project”).

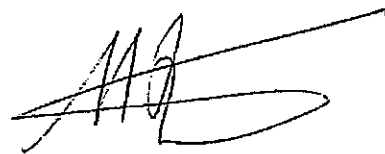
Through a series of discussions, the Team and the Ukrainian authorities exchanged views on the evaluation and future directions of cooperation during the Project period, and both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Kyiv, the 22<sup>nd</sup> of December 2010



---

Mr. Katsutoshi FUSHIMI  
Team Leader  
Terminal Evaluation Team  
Japan International Cooperation Agency



---

Dr. Mikhail Z. ZGUROVSKY  
Rector  
National Technical University of Ukraine  
《Kyiv Polytechnic Institute》

ATTACHED DOCUMENT

TERMINAL EVALUATION REPORT

ON

“TECHNICAL COOPERATION PROJECT OF UKRAINE-JAPAN CENTER”

*Handwritten initials/signature*

## TABLE OF CONTENTS

### 1. INTRODUCTION

- 1-1 Objectives of the Terminal Evaluation
- 1-2 Members of the Terminal Evaluation Team
- 1-3 Schedule of the Terminal Evaluation
- 1-4 Methodology of Evaluation

### 2. BACKGROUND AND SUMMARY OF THE PROJECT

- 2-1 Background of the Project
- 2-2 Summary of the Project

### 3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT

- 3-1 Inputs
- 3-2 Outputs
- 3-3 Achievement of the Project Purpose
- 3-4 Prospects to Achieve the Overall Goal

### 4. RESULTS OF EVALUATION

- 4-1 Relevance
- 4-2 Effectiveness
- 4-3 Efficiency
- 4-4 Impact
- 4-5 Sustainability

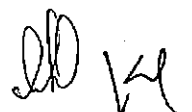
### 5. CONCLUSION

### 6. RECOMMENDATIONS

*Handwritten signature/initials*

List of Annexes

Annex 1	Schedule of the Terminal Evaluation
Annex 2	Dispatch of Japanese Experts
Annex 3	Provision of Equipment by Japanese Side
Annex 4	Training in Japan
Annex 5	Assignment of the Counterpart Personnel and UAJC's staff by Ukrainian Side
Annex 6	Achievement of Business Programs
Annex 7	Achievement of Japanese Language Courses
Annex 8	Achievement of Mutual Understanding Promotion Activities
Annex 9	Organization Scheme of UAJC in 2010
Annex 10	Project Design Matrix
Annex 11	Cost and Revenue of UAJC
Annex 12	Tentative Road Map (as of Dec.22, 2010)



## 1. Introduction

### 1-1 Objectives of the Terminal Evaluation

- (1) To review achievements in the inputs and project activities, performance of operation and management of the Ukraine-Japan Center (hereinafter referred to as "UAJC"), progress in technical transfer to the project counterpart personnel and local staff of UAJC, situation of the important conditions listed in the PDM and others, through comparison with the original plan and results of the mid-term evaluation conducted in December 2008.
- (2) To assess the project performance in terms of the five evaluation criteria (relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability) in accordance with the JICA Project Evaluation Guideline.
- (3) After reviewing achievements of the Project purpose, to identify remaining challenges of the Project jointly with parties of Ukraine and Japan involved in the Project, to discuss on measures against the challenges faced with National Technical University of Ukraine «Kyiv Polytechnic Institute» (hereinafter referred to as NTUU«KPI»), and to record outcomes of the discussion in the Minutes of Meeting.

### 1-2 Members of the Terminal Evaluation Team

The Project was evaluated jointly by the Ukrainian and Japanese terminal evaluation teams (hereinafter referred to as "the Joint Evaluation Team") in accordance with the "Record of Discussions between Japanese Implementation Study Team and National Technical University of Ukraine on Japanese Technical Cooperation for the Ukraine-Japan Center Project (hereinafter referred to as "R/D"). The Joint Evaluation Team was composed of 3 members from the Ukrainian side and 5 members from the Japanese side as follows;

#### [Ukrainian Side]

Dr. Mikhail Z. ZGUROVSKY	Rector	National Technical University of Ukraine «Kyiv Polytechnic Institute»
Dr. Yuriy I. YAKIMENKO	First Vice Rector	National Technical University of Ukraine «Kyiv Polytechnic Institute»
Dr. Sergiy I. SYDORENKO	Vice Rector	National Technical University of Ukraine «Kyiv Polytechnic Institute»

[Japanese Side]

Mr. Katsutoshi FUSHIMI	Team Leader	Director, Japan Center Program Division, Governance Group, Public Policy Department, JICA
Mr. Ben SUZUKI	Japanese Course Evaluation	Director, Teachers and Institutional Support Dept, Japanese-Language Group, The Japan Foundation
Ms. Yoko ABE	Japanese Course Evaluation	Director, Teachers Training Section, The Japan Foundation
Ms. Yukiko MIZUNO	Cooperation Planning	Deputy Director, Japan Center Program Division, Governance Group, Public Policy Department, JICA
Mr. Toyomitsu TERAO	Evaluation and Analysis	Consultant, Fisheries Engineering Co., Ltd.

### 1-3 Schedule of the Terminal Evaluation

The schedule of the Terminal Evaluation is attached as Annex 1.

### 1-4 Methodology of evaluation

#### 1-4-1 Method of Evaluation

The evaluation activities included report analysis, field survey, and interview with staff of the UAJC, Japanese experts, and other concerned persons in the Project. The evaluation was conducted based on the following five evaluation criteria.

#### 1-4-2 Five evaluation criteria

##### (1) Relevance

To assess whether the project purpose and the overall goal are consistent with the development policies of the Government of Ukraine, as well as with needs of the implementation agency (NTUU“KPI”) and target beneficiaries

##### (2) Effectiveness

To assess an extent of achievements of the project purpose, and to study on contribution of the outputs for generating such achievements of the project purpose



(3) Efficiency

To assess an extent of achievements of the outputs, and to study on whether the inputs and resources can generate the outputs efficiently in terms of timing, quantity and quality

(4) Impact

To assess long-term, direct and indirect, positive and negative effects generated through implementation of the project, including an extent to which the overall goal is achieved

(5) Sustainability

To assess whether benefits the project is to leave can be sustained under state policies, institutional and financial conditions of the implementation agency, and technical capacities of the human resources engaged in the project

1-4-3 PDM for the Terminal Evaluation

The Terminal Evaluation has been done based on the PDM that was revised in the Mid-Term evaluation and agreed on December 1, 2008. The revised PDM is attached as Annex 10.

2. Background and Summary of the Project

2-1 Background of the Project

In August 1991, Ukraine became an independent country from the Soviet Union. Despite having entered the market economy soon after the independence, Ukraine suffered from the hyperinflation and downturn in the international financial market. Main national economic developments in Ukraine in the last two decades are summarized as follows;

1992 Joined to IMF

1994 Economic programs assisted by the World Bank and IMF started.

1996 Denomination and introduction of Hryvnia

1998 Russian financial crisis

2000 The first positive growth of GDP since the independence. High economic growth started.

2008 Joined to WTO. Global financial crisis

After the year 2000, as with Russian and other CIS countries, economic reconstruction was

made and the high economic development was achieved in the key industrial sectors such as steel and agriculture. In the view of transition to the market economy, Ukraine is still on the way and has been implementing various reforms.

On the other hand, as a part of Japan's Official Development Assistance, a concept of "Japan Center for Human Development" (commonly referred to as "Japan Center") was introduced. The objective of the Japan Center was to render support to the countries of mainly Asian region, that were facing transition from socialistic planned economy to market economy. The Japan Center is mandated to provide human resources development programs, building necessary resources for the transition to market economy and making use of "Japanese" experience and expertise.

In 2004, the Government of Ukraine submitted an application to the Government of Japan for implementation of Ukraine-Japan Center Project. Since then, the Project started on May 22, 2006 for 5 years until May 21, 2011.

## 2-2 Summary of the Project

Project summary described in R/D is as follows.

### (1) Overall Goal

UAJC is established for further promotion of economic growth of Ukraine and Japan-Ukraine cooperation in various areas.

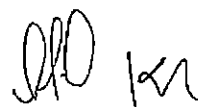
### (2) Project Purpose

The system is developed to ensure that UAJC carried out both functions of "human resource development for economic growth of Ukraine" and "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects" and UAJC exercises its responsibility.

### (3) Outputs

Output 1: Framework and know-how are developed to implement the Business Programs that meets the needs of Ukrainian universities and industries. In addition to it, certain parts of the program to develop human resources serving economic growth in Ukraine are implemented.

Output 2: Framework of key center of Japanese Language Education in Ukraine to promote of exchange between Ukraine and Japan on social, economic, academic and culture aspects is established.



- Output 3: Framework and know-how for collection and interactive dissemination of the information and knowledge necessary for social, economic, academic and cultural aspects of Ukraine and Japan are developed. In addition to it, the interactive transmission and exchange of information and knowledge on above-mentioned area are implemented.
- Output 4: With cooperation and support of parties concerned both in Ukraine and Japan, structural basis is set up for sustainable operation of UAJC.

### 3. Achievement of the Project

#### 3-1 Inputs

##### 3-1-1 Input by Japanese organizations

###### (1) Dispatch of Japanese experts

Since the beginning of the Project in 2006, six (6) long-term Japanese experts have been dispatched in total by the end of November 2010. Their assignments include Team Leader, Project Coordinator/Support for Business Programs Management, and Japanese Language Course (JLC) Management. Total inputs of the long term experts will be of 129.0 person months by the end of the Project. Short-term Japanese experts have also been dispatched in total of 41 persons by the end of November 2010. They have been assigned for conducting seminars or trainings in the Business Program (BP) in the field of human resource development, energy saving, agriculture products, industry-academia-government collaboration (IAGC), program and project management, and others. For more details, see Annex 2.

###### (2) Employment of local staff

In the initial stage of the Project, only two persons were employed as local staff for reception and library. In a course to develop the BP, JLC and Mutual Understanding Promotion (MUP), the staff for working with these programs has been increased from year to year gradually. Presently, a project coordinator and 8 project staffs are being employed by JICA project. In addition, three persons are assigned as temporal staff to operation of the UAJC library and JLC.

###### (3) Training in Japan

Since 2007, trainings in Japan have been conducted 15 times and 47 persons in total have participated in the training courses such as production control, production management for agriculture products, training course management and others. For details see Annex 4.

(4) Provision of Equipment

Audio-visual equipment, personal computers and peripheral devices and software, books related to Japanese culture and literature, vehicles and other various equipment and materials mainly for the MUP and JLC have been delivered to UAJC. Such equipment and materials have cost 342,613 US dollars by the end of October 2010. See Annex 3 for the main equipment.

(5) Local operation cost disbursed by JICA

For operating local activities of the Project, JICA has borne a total amount of 880 thousands US\$ by the end of September 2010. The local operation cost includes salaries for the above 12 staff locally employed.

JFY	2006	2007	2008	2009	Sept. 2010	Total
US\$	145,026	139,457	184,769	304,466	105,794	879,512

JFY: Fiscal year in Japan

3-1-2 Input by Ukrainian organizations

(1) Assignment of counterpart personnel

In accordance with the R/D dated on 22 May 2006, the Director, Deputy Director and Accountant for the UAJC were assigned by NTUU "KPI". For details, see Annex 5.

(2) Lecturers

Nine lecturers for JLC and seven for MUP are working for conducting these two programs under management by the project staff, as well as by the JF (The Japan Foundation) expert in case of JLC. Salaries for these lecturers have been paid from revenue of the two programs.

(3) Facilities and buildings provided by NTUU "KPI"

At present, an office, two seminar rooms, library and storages have been provided on the 4<sup>th</sup> floor in the main library building of NTUU "KPI" for exclusive use of the UAJC. In addition, a new building for the UAJC is under construction in the main campus of NTUU "KPI".

(4) Operating Cost

The NTUU "KPI" and Government of Ukraine have borne the costs for electricity and water charge, rents for floor space, maintenance for building and associated electrical/mechanical facilities, and telecommunication. Total amounts of these costs are summarized below.

JFY	2006	2007	2008	2009	Sept. 2010	Total
US\$	98,469	99,467	147,515	162,626	58,768	566,845

### 3-2 Outputs

Output 1: “Framework and know-how are developed to implement the Business Programs that meet the needs of Ukrainian universities and industries. In addition to that, certain parts of the program to develop human resources serving economic growth in Ukraine are implemented.”

Indicator	
	1-1: Annual implementation plan for Business Programs formulated
	1-2: Number of Business Programs implemented
	1-3: Number of participants, satisfaction rate, management skills
	1-4: Number and qualification of local lecturers
	1-5: Number of program done in cooperation with Industrial association such as Chamber of Commerce and Industries
	1-6: Number of initiatives to provide assistance to external organizations
	1-7: Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities

1-1: The annual operation plan had been formulated since the beginning of the Project. Since April 2009, the UAJC annual plan has come to show persons in charge of “activity” explicitly. The “activity” is a set of individual activities for performing seminars or events and scheduled to complete by the end of March in the next year. The annual plan includes all of the BP, JLC and MUP, and also covers supports for Japanese Language Teacher’s Association, information services (library, newsletters, desk diary and others). Each “activity” is assigned respectively to one of the project staff.

The Newsletter of UAJC has been published since April 2010. The Ukrainian and Japanese version are being released bimonthly to introduce society and culture in both countries. As of mid of December 2010, subscribers of 1,542 in total receive the Newsletter.

1-2: Numbers of the BP conducted are 8 events in 2006, 19 in 2007, 31 in 2008, 52 in 2009, and 30 by November 2010. Total number of the BP conducted is thus 140 as shown in the table below. The year 2009 has outstanding numbers of times of the programs. This was favored by a supplemental budget from JICA that was allocated for coping with the global financial crisis caused in that year.

Number of Business Programs Conducted (Unit: times)

Year	2006	2007	2008	2009	Nov. 2010	Total
Business Courses		4	7			11
Open Seminars	6	9	3	30	16	64
Corporate Seminars		1	1	9	10	21
Forums			9	2	1	12
Investment & Trade		2	3	2		7
Energy Saving				7		7
IAGC activities	2	3	8			13
TIJ Evaluation				2	3	5
Total	8	19	31	52	30	140

IAGC: Industry-academia-government collaboration

TIJ Evaluation: Evaluation on results of the training in Japan conducted, accompanied with information sharing with those who did not participate in the training

- 1-3: Number of participants in the BP has reached to 6,379 by November 2010, showing a remarkable increase from 2,136 participants in total at time of the mid-term evaluation in November 2008. According to the recent post-course questionnaire surveys of 5 rating, participants who answered “very good” or “good” were 88 to 98% in average. Similarly, a tendency of high appreciation (86% to 97%) of participants is observed for management of the course.

Number of Business Programs Participants (Unit: persons)

Year	2006	2007	2008	2009	Nov. 2010	Total
Business Courses		53	120			173
Open Seminars	154	415	65	1,162	1,050	2,846
Corporate Seminars		25	3	214	664	906
Forums			369	60	150	579
Investment & Trade		65	620	120		805
Energy Saving				88		88
IAGC activities	250	325	344			919
TIJ Evaluation				22	41	63
Total	404	883	1,521	1,666	1,905	6,379

- 1-4: Followings give examples of the seminars that have been conducted by Ukrainian lecturer.
- Best Practice of Innovation Projects and Programs Management Application. Business game “Reloading of the state finance system”, November 2010

*Handwritten initials/signature*

- P2M as Innovation Platform: Gaining Ukrainian Practice with Japanese Experience, May 2010

1-5: More than 20 seminars were conducted in cooperation with various associations that include Association for Furniture Manufacturers, Association for Project Management, Kyiv Chamber of Commerce, Ukrainian Association of Quality, Union of Small and Medium-sized Enterprise Promotion, Ministry of Finance, State Committee of Ukraine for Regulatory Policy and Entrepreneurship (SCURPE), and others.

1-6: More than 5 seminars were conducted with the UAJC's initiatives for the outer organizations.

1-7: Twenty one (21) seminars were conducted for responding to requests from the enterprises that include VAB Bank in Kiev, Rolling Plant and Electro Steel in Donetsk and others.

Output 2: "Framework of key center of Japanese Language Education in Ukraine to promote exchange between Ukraine and Japan on social, economic, academic and culture aspects is established."

Indicator	2-1: Annual implementation plan for Japanese Language Courses formulated 2-2: Number of Japanese Language Courses implemented 2-3: Number of applicants and participants, satisfaction rate, management skills 2-4: Number of regular meeting among Universities and Japanese Language Teachers Association 2-5: Number of special events like Japanese language debate contest 2-6: Number of textbook and teaching materials produced for Japanese language courses
-----------	--

2-1: See achievement in the indicator 1-1 of the Output 1.

2-2: For the academic year from 2010 to 2011, 9 long-term courses and 3 short-term courses are being conducted.

2-3: The number of applicants and participants in the last 3 years is shown in the table below. According to the recent post-course questionnaire surveys of 5 rating, participants who answered "very good" or "good" were almost 100% in average. Similar tendency is observed for management of the course.

	Beginners	Intermediate	Advanced	Children	Total
2008: Applicants	267	37	31	16	351
Enrolled	120	22	25	16	183
2009: Applicants	340	48	37	8	433

Enrolled	133	36	20	8	197
2010: Applicants	264	53	16	2	333
Enrolled	153	40	11	0	204

- 2-4: Regular meeting between Universities and Japanese Language Teachers Association was held periodically. The general meeting among members of the Teacher Association is scheduled to hold 6 times a year in 2010.
- 2-5: The Project co-hosted 4 times "Japanese Language Pedagogical Seminar", 5 times "Japanese Language Speech Contest", and 5 times "Japanese Language Proficiency Test".
- 2-6: Before the Project started, two volumes of Japanese language textbook were compiled in Ukrainian by the JF. These are available to learners at present for nominal price. In this Project, another version of Japanese language textbooks in Ukrainian has been tried to make.

Output 3: "Framework and know-how for collection and interactive dissemination of information and knowledge on social, economic, academic and cultural aspects of Ukraine and Japan are developed. In addition to it, the interactive transmission and exchange of information and knowledge on above-mentioned area are implemented."

Indicator	<p>3-1: Number of events, programs implemented for Mutual understanding promotion activities</p> <p>3-2: Number of participants, their satisfaction rate</p> <p>3-3: Number of materials and library books for introducing each country</p> <p>3-4: Number of UAJC membership and utilization for library and audio visuals</p> <p>3-5: Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p>
-----------	--

- 3-1: The events and others implemented for the MUP were summarized as following. A total of 356 programs have been conducted by the end of October 2010. In average, 1.5 programs have been offered for the public every week.

Number of events of the MUP

Year	2006	2007	2008	2009	Oct. 2010	Total
Events	37	64	58	61	47	267
Regular courses	15	14	11	15	9	64
UAJC Forums	3	8	9	4	1	25
Total	55	86	78	80	57	356



Remarks: "Regular courses" are comprised of five Japanese arts – Shogi, Go, Tea Ceremony, Ikebana and Calligraphy. All these are a charged course.

- 3-2: Total number of participants for the regular courses is 765. Average level of their satisfaction showed 97% to 100%. The number of participants for events and forums was 49,354. Average of their satisfaction level showed 95% to 99%.

Number of participants of the MUP

Year	2006	2007	2008	2009	Oct. 2010	Total
Events	13,210	4,495	10,826	9,598	9,861	47,990
Regular courses	157	172	133	189	114	765
UAJC Forums	290	434	314	196	130	1,364
Total	13,657	5,101	11,273	9,983	10,105	50,119

- 3-3: At present, number of books in the library of UAJC totals 10,235. The number of audio-visual materials totals 1,299. The UAJC library has uniquely offered the Ukrainian citizens a variety of Japan-related books, and filled needs especially for the Japanese language learners in universities in Kiev.

- 3-4: Users of library amounts to 6,123 in November 2010 and new membership holders amounts to 214 as well, as shown below.

UAJC Library Stock and Users

	2006	2007	2008	2009	Nov.2010
Number of books	5,553	6,976	7,569	9,283	10,235
Number of audio-visual media	845	1,067	1,192	1,249	1,299
New library members	310	238	260	231	214
Number of users of library	8,082	7,854	7,568	6,841	6,123

- 3-5: It is reported that at least once per week, the Project was asked to conduct MUP by external organizations that include elementary schools, NGOs, mass media of TV, newspaper and magazine publishers, and private companies for holding various activities. Ratio of "those conducted upon request/total events conducted" are summarized as follows; 16/47 in 2010(by November), 24/61 in 2009, 19/58 in 2008, 30/64 in 2007, 15/37 in 2006.

Output 4: "With cooperation and support of parties concerned both in Ukraine and Japan, structural basis is set up for sustainable operation of UAJC."

Indicator	4-1: Number and content of JCC meeting and regular staff meeting held 4-2: Balance of Income and Expenditure of UAJC 4-3: Assignment of counterparts and UAJC staff 4-4: Operational level and management capacity of UAJC staff
-----------	---

4-1: Joint Coordination Committee (JCC) has been held 4 times so far. Regular staff meeting of the Project has been once a week to discuss operation and management of the Project activities. In addition, TV meeting among the Embassy of Japan in Ukraine, Ministry of Foreign Affairs in Japan, UAJC project, and JICA Headquarters has been held regularly almost every month.

4-2: Selected programs are collecting a certain amount of fee. It is reported that salaries for local lecturers in MUP and JLC can be balanced with revenues of fee. Refer to Annex 11 for details.

4-3: See Section "3-1 Inputs".

4-4: Necessary tasks to conduct BP, MUP and JLC that include design of individual programs, coordination with partner organizations in Ukraine, implementation of program including associated support, and post-course evaluation can now be executed by the project staffs.

### 3-3 Achievements of the Project Purpose

Project Purpose: "The system is developed to ensure that UAJC carries out both functions of "human resource development for economic growth in Ukraine" and "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects," and UAJC exercises its responsibility."

Indicator	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Satisfaction level of participants and lecturers in Business Programs</li> <li>2. Satisfaction level of participants in Japanese language courses</li> <li>3. Number of cases which UAJC lead to facilitating roles on business promotion, trade/investment and academic exchange cooperation with universities and research institutes among the two countries through Business programs</li> <li>4. Number of cases which lead to supporting activities for the Japanese language lecturers network in Ukraine</li> <li>5. Satisfaction and Understanding level of participants in Mutual understanding promotion activities between Japan and Ukraine</li> </ol>
-----------	---

Indicator 1: Satisfaction level of participants and lecturers in Business Programs

Results of the post-course questionnaire surveys on the BP before the mid-term evaluation conducted in November 2008 are summarized as below.

2006 to 2008	Business programs (as a whole)	Business courses and Forums
The BP conducted	56 times	18 times
Questionnaire survey conducted	20 times	14 times
Satisfaction of participants	91%	93 %

Results of the post-course questionnaire surveys conducted during 2009 to October 2010 are summarized as follows. The questionnaire surveys in this term have been conducted mainly for the open seminars but occasionally also covered the corporate seminars.

2009 to 2010	Business programs in 2009	Business programs in 2010
The BP conducted (*)	50 times	27 times
Questionnaire survey conducted	11 times	13 times
Satisfaction of participants, based on extracted samples	98%	95%

Remarks (\*): Times of evaluation and information sharing on the training in Japan are excluded from counting in this table.

Indicator 2: Satisfaction level of participants in Japanese language courses

Results of the post-course questionnaire surveys on the JLC conducted in 2007 and 2008 are summarized as below in comparison with another survey conducted in June 2009.

2006 to 2008	2007 and 2008	2009
Satisfaction with the course	96%	93%
Textbooks and materials	93%	86%
Lecturers	94%	93%
Improvement language ability	96%	N.A.

Remarks: Target class in 2009 was extracted as sample.

Indicator 3: Number of cases which UAJC lead to facilitating roles on business promotion, trade/investment and academic exchange cooperation with universities and research institutes among the two countries through Business programs

At time of the mid-term evaluation in November 2008, it was observed that;

- Four (4) enterprises had reflected contributions of business courses and seminars to improvement of their business,
- Two (2) enterprises materialized business matching with Japanese companies, and
- Twelve (12) enterprises had gained either of progress or outcomes through the business matching assisted by the Project.

Since follow-up survey for participants of the BP has not been conducted, data to assess the indicators 3 are not available for this terminal evaluation. However, accompanied with the recent increase of the participants in the BP, it is considered that numbers of enterprises that could obtain business idea from the seminars and identify opportunities of business affiliation with Japanese enterprises through training in Japan seemingly have increased.

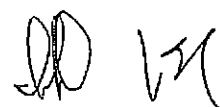
For an example, the training in Japan for Farmers' Association in Ukraine could lead business contact between them and a general trading enterprise in Japan, for a sake of which, export of wheat from Ukraine to Japan may be contracted. In another case, the UAJC's coordination for NEDO and NEIA (National Environmental Investment Agency of Ukraine) could assist conclusion of the emission trading between Japan and Ukraine in March 2009.

Indicator 4: Number of cases which lead to supporting activities for the Japanese language lecturers network in Ukraine

Since the initial stage, the Project has supported Japanese Language Teachers Association in Ukraine in order to enhance the association's activities and strengthen its institutional sustainability. For instance, the Project and Japanese Language Teachers Association co-hosted nationwide events such as "Japanese speech contest", and "Japanese language educational seminar". The Project has also been publicizing brief activities of Japanese Language Teachers Association on its website. In addition, for a long time, the UAJC library has offered a variety of books and many teaching materials for Japanese language education for use of teachers and learners in Kiev.

Indicator 5: Satisfaction and Understanding level of participants in Mutual understanding promotion activities between Japan and Ukraine

Until end of October 2010, 64 the regular courses for Japanese art have been conducted, and other general events of the MUP have also been conducted 292 times in total. Satisfaction level



of participants for these MUP are summarized as below.

Regular course	2006	2007	2008	2009	Oct. 2010
Number of regular courses (Number of participants)	9 (650)	14 (989)	12 (513)	15 (189)	9 (114)
Number of questionnaire (Satisfaction level)	9 (100%)	8 (99%)	6 (100%)	1 (100 %)	7 (97 %)

Other events	2006	2007	2008	2009	Oct. 2010
Number of other events (Number of participants)	40 (13,500)	72 (4,929)	43 (9,636)	65 (9,794)	48 (9,991)
Number of questionnaire (Satisfaction level)	2 (99%)	21 (97%)	17 (90%)	15 (98 %)	8 (95 %)

### 3-4 Prospects to Achieve the Overall Goal

Overall Goal: "UAJC is established for further promotion of economic growth of Ukraine and Japan-Ukraine cooperation in various areas."

Indicator	
	1. Number of People, Enterprise and Organization which lead to rise of benefits and efficiency by the matching activities through the UAJC
	2. Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries
	3. Degree of recognition of UAJC

At this stage, it is still difficult to assess an achievement of the Overall Goal by applying the pre-described indicators as above. However, it is being observed even at present that UAJC has already been functioning as a focal center to promote mutual understanding between Ukraine and Japan. In addition, there exists a strong potential that UAJC will be able to overarch various institutions beyond national borders and to develop opportunities of affiliation not only in economic and industrial but also in academic sector between both countries.

### 4. Results of Five Criteria Evaluation

#### 4-1 Relevance: High

Since its independence in 1991, Ukraine has focused on the economic reform towards market

oriented economy. One of challenges was to develop human resources in field of business management in new economic system. During the first decade of the 2000s, for responding to increased demand for business management training, many business training providers have been founded nationwide in Ukraine. At present there exist around 1,200 training providers and twenty MBA programs are being offered. Among which, five programs are operated by foreign schools.

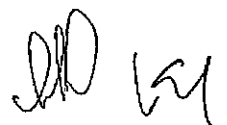
As priority assistance for Ukraine, Japan has supported its transition to market economy. One of the main objectives of the UAJC was thus placed on training for business management. In such a highly competitive circumstance, however, only a basic course for business training would not be enough for attracting participants. Since 2009, the UAJC has developed many of the BP in collaboration with trade organizations such as Association for Furniture Manufacturers, Project Management Association and others, and could well meet their needs when these were conducted. With support of SCURPE and other institutions, the UAJC has also paid significant efforts to send the BP lecturers (Japanese experts and local lecturers) to regional cities.

Through the JLC and MUP, the UAJC has been promoting Japanese language and culture to the citizens of Ukraine and thus succeeded in filling considerable requirements of the Japan's public diplomacy in Ukraine. Meanwhile, the JLC and MUP have also been able to respond to a strong intellectual concern paid by the citizens and students in Ukraine to the Japanese society and culture. Above all, since Ukraine is a newly independent state and having good diplomatic relation is indispensable for Japan, the cultural exchange which enhances mutual understanding has been beneficial to the both countries to a great extent.

#### 4-2 Effectiveness: High

In all aspects of human resources and institutional system, the UAJC has been developed to an organization that is capable of functioning as a service provider for business management training and Japanese language and culture programs for the Ukrainian citizens. Though these functions have to still depend on inputs from the external organizations (NTUU "KPI" and JICA), the Project has performed to raise the UAJC, so far as in its scope, so that the UAJC can provide these services regularly in such a manner to well meet needs of the target recipients. Thus, it can be judged that the Project Purpose has been achieved.

In the BP, a series of efforts has been paid for meeting demands of the industrial and services sector of Ukraine. Such efforts are shown in the individual programs developed in collaboration



with the partner trade organizations, corporate seminars, initiatives for outbound tourism (from Ukraine to Japan) and others. These approaches could contribute to achieve the Project Purpose.

All the activities of the MUP have been intentionally divided into the regular course (charged) and general events (mostly free of charge). Thus the MUP could meet different needs and keep repeaters as many as possible. In the JLC, the short-term course could supplement lectures for students of the Japanese language course in the universities in Kiev, while the long-term course could offer lectures for beginners. The JLC could also continued supports for Japanese Language Teachers Association in Ukraine. These approaches have also contributed to achieve the Project Purpose.

#### 4-3 Efficiency: High

For extending seminars of the BP in regional cities, the Project has utilized networks of branch offices of SCURPE and other institutions. Through collaboration with the partner trade organizations, seminars that can meet actual needs have been planned and thus participants for the BP have been secured without failures. In the JLC and MUP, the project staff is engaged only in course management and lecturers have been assigned in part-time basis always so that fixed costs can be kept in a lower level. Since 2009, efficiency rating of the project staff is planned to conduct in performance basis not in capacity basis. All these intentional actions have increased the efficiency of the Project.

Meanwhile, although the new building has not been made available to the UAJC yet, the Project could avoid inconvenience by maximized utilization of floor space available in the 4<sup>th</sup> floor of the NTUU "KPI" Library.

#### 4-4 Impact: Expected to be high

Following actions can be counted as one of the spillover effects of the Project. All these actions have a longstanding nature and are expected to be continued by initiatives of the Ukrainian institutions respectively even after the Project is terminated.

##### (1) Application of P2M

Since 2009, the UAJC has held seminars for the Project & Program Management for Enterprise Innovation (P2M) more than a few times. Among these, the seminars were conducted for around 50 to 80 officers of the Ministry of Finance in Ukraine two times in May 2010. As a result, the

ministry has adopted P2M as a tool for formulating investment projects and programs under its mandate. It is said that "National Projects under President of Ukraine" in August 2010 has been drafted by applying P2M approach.

(2) Hiroshima-Nagasaki Peace Study Course

As a result of coordination by the UAJC that include training in Japan for the Vice-Rector of NTUU "KPI" in responsible of the Project, NTUU "KPI" has incorporated this course into the compulsory subjects of curriculum for their 3<sup>rd</sup> Grade students since 2009. NTUU "KPI" has also promoted to the Ministry of Education and Science so that the course can be adopted by all other relevant universities in Ukraine.

(3) Organizing KAIZEN clubs:

Affected with contribution by the training in Japan provided by the Project, the first KAIZEN club has been organized in Association of Furniture Manufacturers. In December 2010, the KAIZEN Institute has been established with members from nationwide. These groups can utilize knowledge and experience of the production and business management originating in Japan among members of the groups.

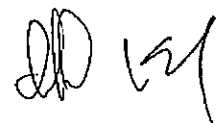
(4) Activities in Dnipropetrovsk

A representative from the National Mining University in Dnipropetrovsk attended the 4th Joint Coordination Committee in June 2010 to report their independent activities for introducing Japanese culture to citizens in Dnipropetrovsk. After UAJC held the seminar on energy saving in the city in December 2009, the National Mining University had come to have an idea to establish a branch of the UAJC. At present, they intend independent operation of culture programs but request their continued participation in the Steering Committee which will be established after termination of the Project.

4-5 Sustainability: Intermediate

The JLC and MUP will likely be able to secure lectures locally as needed, and their salaries can also be covered with program revenues. Lectures for the BP have to be sourced however still from short-term experts sent by JICA. Localization of BP lectures seems to have been difficult as their ability needs to meet first rather high requirements of seminars or trainings.

There exists a strong intellectual concern on the Japanese culture among the citizens in Ukraine. However, numbers of users of the UAJC library and participants of the MUP have been





gradually declined recently, possibly because of developments of digital book and other digitized media. In such a situation, the UAJC has paid efforts to continue the present active operation of the MUP and JLC and to identify further needs of the public.

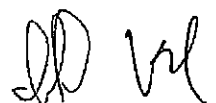
The current institutional system of the UAJC is featured mainly in a way to implement the technical cooperation of JICA. The institutional system has hence to be reviewed and rearranged before termination of the Project in May 2011. Those need to be restructured will include personnel management, accounting and decision making line. Since all these systems will greatly affect the sustainability of the programs, a close review will have to be needed.

Operation of the UAJC has to depend still on financial input from the external organizations (NTUU "KPI" and JICA). Such dependency on external funds can be justified as the UAJC is oriented clearly to public service. However, this financial dependency certainly gives a considerably weak sustainability to the UAJC. Without present inputs of the local operation cost from NTUU "KPI" and JICA, it seems to be difficult to sustain operation of the BP in its full scale. However, since UAJC has been already established as a valuable asset, there are some organizations which show their interest to utilize UAJC and finance UAJC activities. In this sense, it is not necessary to be too pessimistic about its sustainability.

## 5. Conclusion

Since the beginning of the Project, BP, MUP and JLC have received around 60,000 participants in total. UAJC has been contributing to the development of human resources needed for the economic growth of Ukraine. At the same time, UAJC has been functioning as an indispensable center for promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan. As mentioned in the previous sections, achievement levels of relevant indicators are high enough to conclude that the Project purpose will be achieved by the end of the Project.

In addition, it is expected that the Project will leave several significant impacts in both of the public and private sectors in Ukraine. Especially, the Joint Evaluation Team underlines the achievements emerged from the Project activities, such as establishment of Kaizen club, newly offering of Hiroshima-Nagasaki Peace Study Course to NTUU"KPI" students, adaptation of P2M to the Ministry of Finance's "Guidebook of projects and program management for enterprise innovation", establishment of Japan Center Branch in a regional city. Since these activities can be continued after the termination of the Project by utilizing the resources other than those from the Project, the sustainability of these activities are likely secured.



Although it is certain that the project purpose will be achieved, in order to maintain the function of UAJC after the termination of the Project as they are, all the Ukrainian and Japanese parties involved in UAJC should hence make effective efforts to identify every necessary measure. Details are given in the following section.

## 6. Recommendation

As mentioned above in the section of “Conclusion”, the Joint Evaluation Team concluded that UAJC has been fulfilling its expected role, and the objective of the Project will be achieved in the project period.

After completion of the Project, operational management of UAJC will be handed over to KPI. However, in order that the UAJC maintains and develops its functions and continues to be a symbol of friendship between Ukraine and Japan, necessary engagement and contributions from a variety of stakeholders of both countries should be maintained. Therefore, the Joint Evaluation Team delivers its recommendations to the stakeholders of both countries as follows;

(1) In order that UAJC remains as a mutual asset of Ukraine and Japan and as a platform of intercommunication between the two countries, all stakeholders should make their commitment. To begin with, each stakeholder should confirm their engagement and contribution to UAJC after completion of the Project. Then, mutual consensus among stakeholders on the volume and contents of UAJC’s activities after the Project should be made. (by 4 months before the termination of the Project)

(2) Considering the volume and contents of the activities possibly offered by UAJC after completion of the Project, the most appropriate and feasible management system and operational mechanism of UAJC should be formulated by NTUU”KPI”. At the same time, all issues and problems remained to realize handing over of UAJC to KPI should be identified and solved by the stakeholders. (by 3 months before the termination of the Project).

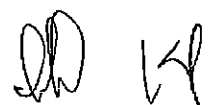
Tentative Road Map for above mentioned task is attached as Annex 12. The Joint Evaluation Team agrees to refine the Tentative Road Map and follow the tasks described in the Map.

END



## ANNEX

Annex 1	Schedule of the Terminal Evaluation
Annex 2	Dispatch of Japanese Experts
Annex 3	Provision of Equipment by Japanese Side
Annex 4	Training in Japan
Annex 5	Assignment of the Counterpart Personnel and UAJC's staff by Ukrainian Side
Annex 6	Achievement of Business Programs
Annex 7	Achievement of Japanese Language Courses
Annex 8	Achievement of Mutual Understanding Promotion Activities
Annex 9	Organization Scheme of UAJC in 2010
Annex 10	Project Design Matrix
Annex 11	Cost and Revenue of UAJC
Annex 12	Tentative Road Map (as of Dec.22, 2010)



Annex 1 : Schedule of the Terminal Evaluation

	Date			Schedule
1	Dec.	8	Wed	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Meeting and interview with Japanese experts</li> <li>• Interview with project staffs</li> </ul>
2	Dec.	9	Thu	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Interview with project staffs</li> <li>• Interview with ex-participants of Japanese language and culture courses</li> <li>• Observe mutual understanding promotion activities</li> <li>• Meeting and Interview with NTUU&lt;KPI&gt;</li> </ul>
3	Dec.	10	Fri	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Interview with a partner of mutual understanding promotion activities</li> </ul>
4	Dec.	11	Sat	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Data analysis and preparation of draft evaluation report</li> <li>• Observe Japanese language courses and Japanese culture courses</li> </ul>
5	Dec.	12	Sun	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Data analysis and preparation of draft evaluation report</li> <li>• Observe mutual understanding promotion activities</li> </ul>
6	Dec.	13	Mon	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Observe business program activities (Kaizen club opening event)</li> <li>• Interview with teachers and students of Japanese language courses</li> <li>• Data collection and analysis, preparation of draft evaluation report</li> </ul>
7	Dec.	14	Tue	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Interview with teachers and students of Japanese language courses</li> <li>• Data collection and analysis, preparation of draft evaluation report</li> </ul>
8	Dec.	15	Wed	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Observe business program activities (Japanese Tourism seminar)</li> <li>• Interview with experts of Japanese language education</li> <li>• Data collection and analysis, preparation of draft evaluation report</li> </ul>
9	Dec.	16	Thu	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Meeting with Embassy of Japan, Japanese experts, Japan Foundation and NTUU&lt;KPI&gt;</li> <li>• Discussion on draft evaluation report with Embassy of Japan and Japanese experts</li> <li>• Meeting with partners of Business Program</li> </ul>
10	Dec.	17	Fri	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Meeting with partners of Business Program</li> <li>• Visit to Japanese company in Kiev</li> <li>• Observe business program activity (Evaluation Meeting of Training in Japan)</li> <li>• Meeting with a representative of Ministry of Economy</li> <li>• Visit to Ministry of Education and Science</li> <li>• Preparation of a draft evaluation report</li> </ul>
11	Dec.	18	Sat	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Preparation of a draft evaluation report</li> <li>• Observe mutual understanding promotion activities</li> </ul>
12	Dec.	19	Sun	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Preparation of a draft evaluation report</li> </ul>
13	Dec.	20	Mon	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Discussion on draft evaluation report with Embassy of Japan and Japanese experts</li> <li>• Meeting with NTUU&lt;KPI&gt;</li> <li>• Preparation of a draft evaluation report</li> </ul>
14	Dec.	21	Tue	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Discussion on draft evaluation report with NTUU&lt;KPI&gt;</li> <li>• Finalization of evaluation report</li> </ul>
15	Dec.	22	Wed	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Finalization of evaluation report</li> <li>• Signing to the Minutes of Meeting</li> <li>• Report to the Embassy of Japan</li> </ul>

210 14

**Annex 2: Dispatch of Japanese Experts**

**<Long-term Experts>**

	Name	Official position	Duration of dispatch
1	Ms. Tomoe Tamiya	Team Leader Project Director	2005/12/20 - 2009/01/19
2	Ms. Noriko Morito	Manager of Japanese Language course	2006/07/01 - 2008/07/11
3	Ms. Reiko Nakano	Project Coordinator / Support for Business Program Management	2008/01/17 - 2008/07/16
4	Mr. Atsuhiko Ohara	Manager of Japanese Language course	2008/06/29 - 2010/06/28
5	Mr. Osamu MIZUTANI	Team Leader Project Director	2009/01/15 - 2011/01/14
6	Mr. Tatsuya Hiraga	Manager of Japanese Language course	2010/06/16 - 2011/05/22

Total 6

**<Short-term Experts>**

	Name	Subject	Duration of dispatch
<b>Business Program</b>			
1	Mr. Kimihiko Kato	Business Program Planning	2006/10/24 - 2006/12/22
2	Mr. Takeo Kawageo	SME Promotion	2006/11/13 - 2006/12/22
3	Mr. Haruki Shimizu	Business course management	2007/03/05 - 2007/03/26
4	Mr. Yuzuru Shimamura	Production Management	2007/03/17 - 2007/03/26
5	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	2007/06/20 - 2007/06/25
6	Mr. Masahiko Tamai	Business course management	2007/07/02 - 2007/11/13
7	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	2007/10/30 - 2007/11/15
8	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	2008/06/18 - 2008/06/29
9	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	2008/09/19 - 2008/11/14
10	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	2009/02/08 - 2009/03/19

Total 10

**<Project Consultation Team>**

	Name	Subject	Duration of dispatch
<b>Business Program</b>			
1	Mr. Shigeru Mizuno	Panasonic and UAJC Joint Seminar	2008/10/15 - 2008/10/20
2	Mr. Shinsuke KUROSAWA	Human Resources Management, TRIZ	2009/06/09 - 2009/06/17
3	Ms. Yuriko NOZAKI	Human Resources Management	2009/06/09 - 2009/06/17

### Annex 3 : Provision of Equipment by Japanese Side

\*The table shows Equipment for Project and Equipment for Expert only. Other items equal to or less than 500 USD are not calculated on this table.

Fiscal Year	Name of Equipment (Manufacturer/Model Number)	Unit Price (USD)	Q'ty	Total Price (USD)	Place of Installation
2005	Floor tatami mat set without drawer(big)	163	10	1,630	Library, Front of Office,Storage
2005	Red and white curtain	106	6	636	Shelf No.4 in Seminar Room
2005	Paper hanger	445	2	890	Library
2005	Dolls for the Girls' Festival decoration set	1,620	1	1,620	Storage
2005	Samurai dolls for the Boys' Festival	1,830	1	1,830	Storage
2005	Iron kettle (Tea Cerem.)	360	2	720	Shelf in Seminar Room
2005	YUKATA 10items set for women	242	6	1,452	Shelf in Seminar Room
2005	Carp streamer for garden	520	1	520	Storage
2005	Notebook computer HP	759	1	759	Library
2005	Computer (System Block/Monitor)	2,544	4	10,177	Library
2005	Burglarproof gate set	2,988	1	2,988	Library
2005	Car / Hundai	24,538	1	24,538	Garage
2005	Copy Machine	16,354	1	16,354	Reception
2006	Notebook computer <sup>d</sup>	661	7	4,628	Office
2006	MS windows XP home edition OEM Rus.	75	7	524	Reception
2006	Projector BENQ	1,423	1	1,423	Storage
2006	Sofa Ultra (reception)	493	2	987	Reception
2006	SHARP TV	555	1	555	Library
2006	TV TOSHIBA	1,001	1	1,001	Sminar Room
2006	Notebook computer	632	2	1,264	Administrative Room
2006	Microphone	405	2	810	Storage
2006	Speaker, Amplifier, Cables	761	1	761	Seminar Room
2006	Microphone(for hand), Microphone stand, Feedback destroyer, Cable	1,003	1	1,003	Seminar Room
2006	KIMONO FURISODE Set	964	1	964	Shelf in Seminar Room
2006	KIMONO Set (for male and female)	858	1	858	Shelf in Seminar Room
2006	DVD Recorder	489	2	977	Administrative Office
2006	Notebook Computer	632	1	632	Administrative Office
2006	Sony HDD Handycam	807	2	1,615	Administrative Office
2006	PLAZMA TV	8,802	1	8,802	Seminar Room
2006	Colour Copy Machine	5,774	1	5,774	Administrative Office
2006	Projecter, Screen, Cables	7,144	1	7,144	Seminar Room
2006	Furniture (Drawer) <sup>d</sup>	499	4	1,998	Office
2006	Notebook computer	3,424	1	3,424	Administrative Office
2006	Furniture (Desk)	762	3	2,287	Office
2006	Umbrella red	624	1	624	Library
2006	Golden panel	3,473	1	3,473	Storage
2007	Stand for a throwing-game set	747	1	747	Storage
2007	MOCHITSUKI set	2,903	1	2,903	Storage
2007	Steamer set (for MOCHITSUKI set)	611	1	611	Storage
2007	Japanese paper set	10	60	610	Office
2007	YUKATA 10items set for women	224	4	894	Shelf in Seminar Room
2007	YUKATA set for men	177	5	885	Shelf in Seminar Room
2007	New year's pine and bamboo decoration	575	2	1,151	Storage
2007	TATAMI	278	9	2,502	Seminar Room
2007	Visual presenter	2,786	1	2,786	Administrative Room
2007	Visual presenter	694	2	1,388	Seminar Room
2007	Microsoft Window XP home edition SP2	227	11	2,497	Office
2007	Cross Panel set	530	8	4,240	Frot of Seminar Room
2007	Panaboard(Electric board)	2,529	1	2,529	Seminar Room
2007	NOTEBOOK AMILO (Ukraine)	663	1	663	Office
2007	Projector	1,446	1	1,446	Storage
2007	Notebook Computer	629	6	3,774	Business Course
2007	TV	700	1	700	Library
2007	Degital Camera	1,312	1	1,312	Director's Room

	Name	Subject	Duration of dispatch
4	Ms. Tomoe TAMIYA	Activities for Mutual Understanding	2009/08/25 - 2009/09/04
5	Mr. Shinichi HOSAKA	Agriculture	2009/09/12 - 2009/09/20
6	Mr. Atsushi CHITOSE	Agriculture	2009/09/07 - 2009/09/20
7	Mr. Tadashi HIRASAWA	Agriculture	2009/09/07 - 2009/09/13
8	Mr. Haruo TANAKA	Agriculture	2009/09/07 - 2009/09/13
9	Mr. Shinichi KIMURA	Agriculture	2009/09/07 - 2009/09/20
10	Mr. Hiroshi TANAKA	P2M	2009/11/29 - 2009/12/18
11	Mr. Toshiya YUBA	International Trade	2009/12/02 - 2009/12/20
12	Mr. Toshio YAMAMOTO	Marketing	2010/02/22 - 2010/03/13
13	Mr. Masayuki IMBE	Energy Saving	2010/03/20 - 2010/03/29
14	Mr. Hiroshi TANAKA	P2M	2010/05/18 - 2010/06/06
15	Mr. Hiroshi TANAKA	P2M	2010/11/07 - 2010/11/26
16	Mr. Naoya NISHIGAKI	Production Management	2010/10/04 - 2010/11/07
17	Mr. Kazukimi NAMIE	Marketing	2010/11/06 - 2010/11/21
<b>Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration</b>			
18	Mr. Masayuki Kondo	Industry-Academia-Government Collaboration(Japanese policy)	2006/06/18 - 2006/07/02
19	Mr.Hosono Mitsuaki	Industry-Academia-Government Collaboration	2006/06/18 - 2006/06/24
20	Mr.Morihiro Kurushina	Industry-Academia-Government Collaboration(Energy-Saving)	2007/03/03 - 2007/03/07
21	Mr. Masayuki Kondo	Industry-Academia-Government Collaboration(Japanese policy)	2007/09/17 - 2007/09/22
22	Mr. Kawabata Kazuaki	Industry-Academia-Government Collaboration	2007/09/17 - 2007/09/22
23	Mr.Kazuhiro Chiba	Industry-Academia-Government Collaboration	2008/09/27 - 2008/10/05
24	Mr. Shinichi Hosaka	Industry-Academia-Government Collaboration(Role of Coordinator)	2008/09/27 - 2008/10/05
<b>Project General Management Support</b>			
25	Ms. Reiko Otaguro	Management Support	2009/01/14 - 2010/03/30
26	Ms. Reiko Otaguro	Management Support	2010/01/12 - 2010/03/30

Total 26

*Handwritten signature/initials*

Fiscal Year	Name of Equipment (Manufacturer/Model Number)	Unit Price (USD)	Q'ty	Total Price (USD)	Place of Installation
2008	Loon Head (set)	1,030	1	1,030	Storage
2008	Japanese Drum	550	1	550	Seminar Room
2008	YUKATA- Women	195	20	3,900	Shelf No.3/4/5 in Seminar Room
2008	YUKATA- Men	155	5	775	Shelf No.3/4/5 in Seminar Room
2008	Panel screen	295	7	2,067	Storage
2008	Pillar Pole	119	5	595	Storage
2008	Partition stands	189	4	757	Storage
2008	Books (Business)		10	638	Office
2008	Books (Japanese language)		184	3,842	Office/Library/Lector's room
2008	Complex for internet server			1,623	Library 3rd floor
2008	Summer tires	141	4	563	will be hand-overed to KPI
2009	DVD (Documentary films)	4,911	8	39,286	Office
2009	DVD (Documentary films)	1,810	5	9,048	Office
2009	DVD (Documentary films)	2,976	4	11,905	Office
2009	DVD (Documentary films)	5,893	1	5,893	Office
2009	DVD (Documentary films)	131	300	39,285	Office
2009	Tea ceremony shelf	1,774	1	1,774	Storage
2009	Teakettle	676	1	676	Storage
2009	Teacup set	307	2	614	Storage
2009	Electric Hearth (Square)	923	1	923	Storage
2009	Teakettle	633	1	633	Storage
2009	Curtain (Office)			913	Office
2009	Curtain (Library)			629	Library
2009	Doors (Office/Library)			1,312	Office/Library
2009	Poster frames	75	9	675	Outside of office
2009	Polycom HDX 6004 IP Video conference system			6,706	Office
2009	LCD Panel Panasonic TX-LR32X10	584	1	584	Office
2010	Project car (Honda "Pilot")	31,995	1	31,995	-
2010	Side steps (for the Project car)			1,081	-
<b>Total :</b>				<b>317,551</b>	

<b>Total :</b>		<b>342,613</b>	
(Including the amount of the equipment equal to or less than 500 USD)			



## Annex 4: Training in Japan

&lt; 2010 &gt;

	Number of Participants	Name of Participants	Position / Organization, Company	Duration	Purpose
1	8	1) Mr. Iarovenko Valerii 2) Mr. Pruzhan Mykhailo 3) Mr. Hvozdozov Serhii 4) Ms. Pryshchokko Viktoriia 5) Mr. Politorak Mykhailo 6) Ms. Muralova Iryna 7) Ms. Lugovska Kateryna 8) Ms. Klysa Iryna	1) Development Director / Avangard LTD 2) Chief Executive Officer / MKD Consulting LLC 3) Trainer / FINART Smart Solutions 4) Chairman of the Board, CEO / Kievo-Sviatohirskaya Pharmacy #5 5) Founder, President / Compass LTD 6) Deputy Head of the Division -- Head of the Department of Corporate Social Responsibility / SCURPE 7) Coordinator of "KPI" UAJC / NTUU "KPI" 8) Manager of Business Program / JICA UAJC Project	26/9/2010 - 9/10/2010	- Learn the experience with Kaizen and the specific techniques of production management in Japanese Manufacturers, which produce the high-quality products. - Utilize the knowledge from the training for the Ukrainian manufacturing, so that it can make the high quality products with international competitiveness.  - Improve the operational ability to make a plan and manage the business course. - Learn the practice of Industry-Academia collaboration in Japanese universities, and create a network with them.
2	2	1) Ms. Lagovska Kateryna 2) Ms. Klysa Iryna	1) Coordinator of "KPI" Ukraine-Japan Centre / NTUU "KPI" 2) Manager of Business Program / JICA UAJC Project	26/9/2010 - 2/11/2010	- Obtain the knowledge needed to improve the business operation and strengthen the organization.
3	1	1) Mr. Yakymenko Yuriy	1) First Vice-Rector / NTUU "KPI"	11/10/2010 - 23/10/2010	- Deepen the understanding of Japanese society, Japan's ODA policy and JICA activities (Japan Center Project).

&lt; 2009 &gt;

	Number of Participants	Name of Participants	Position / Organization, Company	Duration	Purpose
4	1	1) Mr. Sydorenko Sergii	1) Vice-Rector / NTUU "KPI"	26/6/2009 - 7/7/2009	- Deepen the understanding of Japanese society, Japan's ODA policy and JICA activities (Japan Center Project). - Find potential collaborators for the "Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development" project.
5	4	1) Mr. Maisroshyn Volodymyr 2) Mr. Obotov Volodymyr 3) Mr. Lukyanenko Artur 4) Mr. Pavlov Viacheslav	1) Senior Advisor for Economical Activity / Tekhnogas Ltd. 2) Project Director / Industrial & Production Plant "TOR" 3) Deputy Director / Snahresurs-Yug 4) Execut	23/9/2009 - 9/10/2009	- Learn the experience with Kaizen and the specific techniques of production management in Japanese Manufacturers, which produce the high-quality products. - Utilize the knowledge from the training for the Ukrainian manufacturing, so that it can make the high quality products with international competitiveness.
6	1	1) Ms. Brondzin Olga	1) Manager of Business Program / JICA UAJC Project	25/9/2009 - 22/10/2009	- Acquire the skills for Japan Center management, especially the business program management after completion of the Project.
7	3	1) Mr. Bykovets Viacheslav 2) Ms. Svytsheva Svitlana 3) Ms. Prodan Oksana	1) General Director / The Union of the Entrepreneurs of Small, Medium-sized and Privatized Enterprises of Ukraine 2) Deputy Head / SCURPE 3) The Head of the Council / The Council of Entrepreneurs of The Cabinet of Ministers of Ukraine	3/11/2009 - 22/11/2009	- Learn the secret of Japanese company's activeness and visit the actual sites of production and sales to reach the better understanding of Japanese style business and Japanese production management (5S, Kaizen, TQC etc.).

8	5	Administration of Japanese language course	1	1) Ms. PETROVSKA Nataliia	1) Manager of Japanese language course, UAJC	9/12/2009 - 25/12/2009	- Comprehensively understand the JICA and Japan Center activities. - Visit the related organization and collect the information about Japanese Language Course management, and improve the practical skills (ex. making curriculum). - Learn the activities of other Japan Centers and find the practice, which may be useful for Ukraine-Japan Center.
9	6	Japanese-Style Business Management	14	1) Mr. Denisuk Oleg 2) Mr. Ljeposhkin Volodymyr 3) Ms. Pysiazyniak Nataliia 4) Mr. Sukov Maksym 5) Mr. Sliwyder Artur 6) Mr. Afibuh Anatolii 7) Mr. Kopynsky Iuri 8) Mr. Golovenko Volodymyr 9) Ms. Kravchenko Olga 10) Mr. Janshevskyi Oleksandr 11) Mr. Odokitenko Igor 12) Mr. Mamatenko Sergii 13) Mr. Podybochev Stanislav 14) Ms. Myronchuk Viktoriia	1) President / New Technologies of Business Ltd 2) General Director / Information Research Center 3) Director / GrandRailing 4) Director / NIKMZ 5) Director / NIKMZ 6) Director / ADM Ltd. 7) Director / OZKI Ltd. 8) Head of Information Dept. / SCURPE 9) Chief Specialist / Cabinet Ministers of Ukraine 10) Professor / State HR Institute for Industries 11) General Director / Company Elevator 12) Deputy Gen. Director / Company Elevator 13) President / Sigma Sport 14) Manager of AKU / JICA UAJC Project	19/1/2010 - 7/2/2010	- Learn the secret of Japanese company's activities and visit the actual sites of production and sales to reach the better understanding of Japanese style business and Japanese production management (5S, Kaizen, TQC etc.)
10	7	Energy Saving Seminar	12	1) Mr. Pechayk Mykola 2) Mr. Beshta Oleksandr 3) Mr. Bulkevych Oleksandr 4) Mr. Demydov Oleksii 5) Mr. Dolosenko Oleksandr 6) Mr. Ivanov Oleksandr 7) Mr. Kosmalt Stefan 8) Mr. Kovalechuk Alen 9) Mr. Nekply Dmytro 10) Ms. Olinevych Nataliia 11) Mr. Tymchuk Andrii 12) Mr. Zakrevskyi Anatolii	1) Vice-Rector / NTUU "KPI" 2) Professor, Head of Electrical Department / National Mining University 3) Chief Researcher of Power Systems and Objects Modeling / National Academy of Sciences of Ukraine 4) Head of the Main Department of Fuel, Energy and Energy Saving / Kyiv City State Administration 5) Manager of the Energy Saving Department / West Industrial, Ltd 6) Professor, Director of the Institute of Electrical Power Engineering / National Mining University 7) Director / Private Energy Saving Laboratory 8) Associate Professor, Head of the Scientific and Technical Center / NTUU "KPI" 9) Deputy Director of the Directorate / JSC "Vercon" 10) Leading engineer of the Scientific and Technical Center / NTUU "KPI" 11) Head of the Principal Industry Department / Dnipropetrovsk Region State Administration 12) Chief Energy Specialist / CJSC "Obolon"	21/2/2010 - 9/3/2010	Based on the results of energy conservation seminars and diagnosis held on December, organize the seminar in Japan, which can help to realize the introduction of Japanese energy conservation technology and products to Ukraine. (ex. the seminar, which gives us possibility to make more individual and concrete presentations of the Japanese energy conservation technology and products to the Ukrainian companies and government officials, who considers their introduction to Ukraine.)
11	8	Production Management for Agricultural Products	13	1) Mr. Lvov Vitalii 2) Mr. Zagorodny Volodymyr 3) Ms. Barciuk Iryna 4) Mr. Dykun Mykola 5) Mr. Konov Yuriy 6) Mr. Styrzhak Mykola 7) Ms. Peloshtky Yuliyia 8) Ms. Vasylyeva Larysa 9) Mr. Korinec Roman 10) Mr. Kravchenko Iuri 11) Mr. Thachuk Vadym 12) Ms. Gurasymiv Tamara 13) Mr. Samozhenko Serhiy	1) General Director / Ukrainian Association of Farmers & Private Land Owners 2) First Deputy Head / SCURPE 3) Deputy Director of Department / SCURPE 4) Director / Private Farming Enterprise "Dykan" 5) Vice President / Farmers Association 6) Councilor / Farmers Association 7) Farmer / Farm "GORIZONT" 8) Executive Director / NCID UA** Vitology Association 9) Deputy Director / Institute of Agricultural Market 10) Deputy Director / National Agricultural University 11) Vice-Rector / National Agricultural University 12) Director / Agricultural Industrial Company ATOL 13) Director / Private Enterprise VIMAL	1/3/2010 - 12/3/2010	- Learn the agricultural production technology and quality control. - Learn the agricultural system in Japan for export of the Ukrainian products to Japan.

< 2008 >

	Number of Participants	Name of Participants	Position / Organization, Company	Duration	Purpose
12	1	1) Mr. Ievgen Ogorodnyk	1) Deputy Director of "KPI" UAIC/NTUU "KPI"	11/12/2008 - 1/3/2009	- Comprehensively understand the JICA and Japan Center activities, and carry out the activities according to its significance on the basis of CP organization KPI "UAIC". - Consider the future aspects of KPI "UAIC" and make a draft of its activities and management system for a smooth implementation of supports and coordination of the Project.
13	5	1) Mr. Viraikov Genadii 2) Ms. Veronika Nina 3) Mr. Prusak Yasyi 4) Mr. Petrusenko Dimiro 5) Mr. Demediuk Vadym	1) Company owner / Genadii 2) Head / The Fitness-club "Tzsa" 3) General Director / Clisum Factory LLC 4) Head / Representative of SCURPE in Kiev Region 5) Head / Economy facilitating Center of SCURPE in Borodyansk Region	1/3/2009 - 15/3/2009	- Understand the actual situation of Japanese production management, and improve the skills for project management in Ukraine. - Visit some Japanese companies to learn their management and production management systems.

< 2007 >

	Number of Participants	Name of Participants	Position / Organization, Company	Duration	Purpose
14	1	1) Ms. Iazvinska Nadezhda	1) Associate professor of industrial marketing department / NTUU "KPI"	17/02/2008 - 01/03/2008	- Learn the current situation of Japanese industry, and gain the knowledge, which would be useful for planning and management of the UAIC "KPI" business course. - Obtain the knowledge of Japanese latest "Marketing Skills" as an expert on Marketing, and after returning to Ukraine make use of it for own lecture in UAIC "KPI" business course.

< 2006 >

	Number of Participants	Name of Participants	Position / Organization, Company	Duration	Purpose
15	2	1) Mr. Tsygmonok Borys 2) Ms. Kestija A. Kravsova	1) Director of "KPI" UAIC/NTUU "KPI" 2) Administration staff / JICA UAIC Project	07/03/2007 - 21/03/2007	- Understand Japanese society, Japan's ODA policy and JICA activities. - Obtain the knowledge of industry-university-government cooperation system in Japan and its actual practice. - Understand the Japanese protection system of intellectual property rights and concerning legal infrastructure.

Total Number of Participants: 69

**Annex 5 Assignment of Counterpart Personnel and UAJC Staff in Ukrainian Side**

Name:	Occupation	KPI	NTUU KPI "UAJC" (Administrator) ②	NTUU KPI "UAJC" (Lecturer) ③	
SYDORENKO Sergiy	Vice-Rector of NTUU KPI	Δ			
TSYGANOK Boris	Director of NTUU KPI "UAJC"	Δ			
OGORODNYK Evgen	Vice-Director of NTUU KPI "UAJC"	Δ			
LUGOVSKA Kateryna	Coordinator	▲	▲		
YAZVINSKA Nadejda	Staff for B.C.Operation	Δ			
GUBAR Oksana	Accountant	Δ(2people)	●		
-	Accountant	Δ			
-	Guards	Δ			
-	Cleaning Staff	Δ(2people)			
-	Electric Mechanic	Δ			
-	Janitor	Δ			
-	Person in charge of Key	Δ			
-	Person in charge of Elevator	Δ			
-	Engineer	Δ(2people)			
NADBBREZHNA Tatiana	Lecturer of Culture Course			★	
KAPRANOVA Oleana				★	
SILNITSKA Olga				★	
SHEVTSOVA Galyna				★	
PLYUSCH Yuriy				★	
SHERBINA Aleksandr				★	
PARKHOMENKO Yulia				★	
EGAWA Hiroyuki				★	
TEN Shimichi				★	
KATAOKA Hiroshi				★	
MAEJIMA Tomoko	Lecturer of Japanese Language Course			★	
CHERMALYKH Natalia				★	
GORNOVSKA Olga				★	
FEDOTOVA Yulia				★	
VESTEL Tatiana				★	
BUKRIENKO Andriy				★	
<b>Total:</b>			<b>16</b>	<b>2</b>	<b>16</b>

Remarks:

- Full time / ▲ Part time / Δ in occasion / ★ Lecturer
- ① Salary is paid by KPI
- ② ③ Salary is paid by income of NTUU KPI "UAJC"

Annex 6 Business Program Performance

<2010>

<Open Seminars>

Course name	Date	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Best Practice of Innovation Projects and Programs Management Application. Business game "Reloading of the state finance system"	2010.11.22 - 23	116	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Kyiv
Best Practice of Innovation Projects and Programs Management in the context of the state finance system of Ukraine reformation. Business game "Reloading of the state finance system"	2010.11.11 - 12	196	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Kyiv
Best Practice of Innovation Projects and Programs Management in the context of the state finance system of Ukraine reformation. Business game "Reloading of the state finance system"	2010.11.09 - 10	164	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Kharkiv
Marketing for Retail Business	2010.11.18 - 19	36	Kazukimi NAMIE	491 USD	Venue: Donetsk
Marketing for Retail Business	2010.11.15 - 16	15	Kazukimi NAMIE	453 USD	Venue: Lviv
Marketing for Retail Business	2010.11.12 - 13	24	Kazukimi NAMIE	183 USD	Venue: Kyiv
Marketing for Retail Business	2010.11.09 - 10	41	Kazukimi NAMIE	793 USD	Venue: Donetsk
Production Management (Outline)	2010.11.01 - 02	96	Naoya NISHIGAKI	2,388 USD	Venue: Donetsk
Production Management (Outline)	2010.10.27 - 28	52	Naoya NISHIGAKI	756 USD	Venue: Dnipropetrovsk
Production Management (Outline)	2010.10.20 - 21	44	Naoya NISHIGAKI	1,134 USD	Venue: Lviv
Production Management for Furniture Manufacturers	2010.10.18 - 19	26	Naoya NISHIGAKI	605 USD	Venue: Lviv
Production Management: General Outline	2010.10.14 - 15	44	Naoya NISHIGAKI	680 USD	Venue: Lviv
Production Management: General Outline	2010.10.11 - 12	49	Naoya NISHIGAKI	Free of charge	Venue: Ivano-Frankivsk
P2M as Innovation Platform: Gaining Ukrainian Practice with Japanese Experience	2010.06.03	44	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Nikolaev
P2M as Innovation Platform: Gaining Ukrainian Practice with Japanese Experience	2010.05.31 - 06.01	78	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	497 USD	Venue: Lviv
P2M as Innovation Platform: Gaining Ukrainian Practice with Japanese Experience	2010.05.25	25	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	441 USD	Venue: Kyiv
<b>Sub Total 16 cases</b>	<b>30 days</b>	<b>1,050 participants</b>	<b>22 people</b>	<b>8,421 USD</b>	

<Consultation & Corporate Seminars>

Content	Date	No. of Participants	Instructor	Consultation Fee	Remarks
Best Practice of Innovation Projects and Programs Management Application. Business game "Reloading of the state finance system"	2010.11.18 - 19	20	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Kyiv, Ministry of Finance
Best Practice of Innovation Projects and Programs Management Application. Business game "Development of Enterprise Management System"	2010.11.15 - 16	94	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	-	Venue: Kyiv, Ministry of Finance
Marketing for Retail Business	2010.11.18	60	Kazukimi NAMIE	Free of charge	Venue: Kharkiv Object: Students of Kharkiv Aviation University
Marketing for Retail Business	2010.11.12	50	Kazukimi NAMIE	Free of charge	Venue: Lviv Object: Students of Lviv Commercial Academy
Marketing for Retail Business	2010.11.09	80	Kazukimi NAMIE	Free of charge	Venue: Kyiv Object: Students of KPI

Production Management (Closed Seminar for "Donetsk Rolling Plant" and "Electro Steel")	2010.11.04 - 05	44	Naoya NISHIGAKI	2,072 USD	Venue: Donetsk Object: "Donetsk Rolling Plant" and "Electro Steel"
Production Management for Furniture Manufacturers	2010.10.25 - 26	32	Naoya NISHIGAKI	605 USD	Venue: Dnipropetrovsk Object: Furniture Manufacturers
Production Management (Closed Seminar for "INTERSTYLE")	2010.10.22	22	Naoya NISHIGAKI	-	Venue: Zhytomir Object: "Interstyle"
P2M as Innovation Platform: Gaining Ukrainian Practice with Japanese Experience. Innovations for the State Financial System	2010.05.27 - 28	94	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Kyiv, Ministry of Finance
P2M as Innovation Platform: Gaining Ukrainian Practice with Japanese Experience. Innovations for the State Financial System	2010.05.26, 28	168	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Kyiv, Ministry of Finance
<b>Sub Total 10 cases</b>	<b>16 days</b>	<b>664 participants</b>	<b>14 people</b>	<b>2,677 USD</b>	

<Evaluation Meeting of Study Trip to Japan>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Evaluation meeting on «Japanese Style Production Management»	2010.11.03		-	-	
Evaluation meeting on «Energy Saving»	2010.06.18	10	-	-	
Evaluation meeting on «Japanese Style Production Management for Agricultural Products»	2010.04.16	31	-	-	
<b>Sub Total 3 cases</b>	<b>3 days</b>	<b>41 participants</b>		<b>0</b>	

<Conference, forums, etc.>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
7 <sup>th</sup> International Conference on «Project Management in Society Development»	2010.05.20-21	150	Hiroshi TANAKA	-	Organizer: UAJC, Project Management Association of Japan, Ukrainian Project Management Association Venue: Kyiv National University of Construction and Architecture
<b>Sub Total 1 case</b>	<b>2 days</b>	<b>150 participants</b>		<b>0</b>	

<2009>

<Open Seminars>

Course name	Date	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Marketing Strategy in Global Economic Crisis	2010.03.09 - 10	6	Toshio YAMAMOTO	1517 USD	Venue: Kyiv
Marketing Strategy in Global Economic Crisis	2010.03.01 - 02	21	Toshio YAMAMOTO		Venue: Kharkiv
Marketing Strategy in Global Economic Crisis	2010.02.25 - 26	20	Toshio YAMAMOTO		Venue: Kyiv
Over Coming Economic Crisis for Non-Manufacturing Sector: Japanese Experience	2010.01.27 - 28	24	Tetsuo YASUI	379 USD	Venue: Kyiv
Final Seminar on Energy Saving	2009.12.18	25	Toshimitsu KURUMIZAWA Masayuki IMBE Shuji TANIGUCHI	Free of charge	Venue: Dnipropetrovsk
Policy of Energy Saving	2009.12.17	11	Toshimitsu KURUMIZAWA	Free of charge	Venue: Dnipropetrovsk
International Trade: Export-Import Operations and Procedures	2009.12.16 - 17	33	Toshiya YUBA	76 USD	Venue: Odessa
Project Management and Programs as Innovation Platform	2009.12.14 - 15	48	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Nikolaev
Policy of Energy Saving. Diagnostics. Energy Saving. Energy Savings Technology.	2009.12.14	34	Toshimitsu KURUMIZAWA Masayuki IMBE Shuji TANIGUCHI	Free of charge	Venue: Dnipropetrovsk
Seminar for Tax Administration of Ukraine on International Trade: Export-Import Operations and Procedures	2009.12.11	9	Toshiya YUBA	Free of charge	Venue: Kyiv, State Tax Administration
Seminar for Customs Service of Ukraine on International Trade: Export-Import Operations and Procedures	2009.12.11	13	Toshiya YUBA	Free of charge	Venue: Kyiv, State Customs Service of Ukraine
Final Seminar on Energy Saving	2009.12.11	20	Toshimitsu KURUMIZAWA Masayuki IMBE Shuji TANIGUCHI	Free of charge	Venue: Kyiv
Project of Management and Program as Innovation Platform	2009.12.10 - 11	45	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHUYEV	Free of charge	Venue: Dnipropetrovsk

International Trade: Export-Import Operations * Procedures	2009.12.09 - 10	39	Toshiya YUBA	190 USD	Venue: Kyiv
Project of Management and Program as Innovation Platform	2009.12.08	116	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHYEV	Free of charge	Venue: Kharkiv
Project of Management and Program as Innovation Platform	2009.12.07 - 08	50	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHYEV	Free of charge	Venue: Kharkiv
International Trade: Export-Import Operations and Procedures	2009.12.07 - 08	31	Toshiya YUBA	Free of charge	Venue: Kyiv
Policy of Energy Saving, Diagnostics, Energy Saving, Energy Savings Technology.	2009.12.07	46	Toshimitsu KURUMIZAWA Masayuki IMBE Shuji TANIGUCHI	Free of charge	Venue: Kyiv
Project of Management and Program as Innovation Platform	2009.12.03 - 04	42	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHYEV	Free of charge	Venue: Kyiv
Project of Management and Program as Innovation Platform	2009.12.01 - 02	39	Hiroshi TANAKA Sergey BUSHYEV	Free of charge	Venue: Kyiv
Global Economical Crisis and Industrial Production	2009.11.17 - 18	42	Jun NISHIDA	Free of charge	Venue: Dnipropetrovsk
Recommendations to Examine Loan Applications	2009.10.28 - 29	35	Masataka IMAMURA	228 USD	Venue: Kyiv
Making and Revising Business Plan	2009.10.26 - 27	57	Maxoro TAKEI	1707 USD	Venue: Kyiv
Japanese Experiences on Agricultural Sector for the representatives of Agri Business Club	2009.09.16	20	Shinichi KIMURA Shinichi HOSAKA Asushi CHITOSE	Free of charge	Venue: Kyiv
Japanese Experiences on Agricultural Sector for National Agricultural University of Ukraine	2009.09.15	60	Shinichi KIMURA Shinichi HOSAKA Asushi CHITOSE	Free of charge	Venue: Kyiv
Japanese Experiences on Agricultural Sector	2009.09.09 - 12	68	Shinichi KIMURA Haruo TANAKA Tadashi HIRASAWA Shinichi HOSAKA	Free of charge	Venue: Alushta (Crimea)
Policy of Credit System Stabilization in the Region of New Independent Countries and Strategy of Reforms	2009.09.09	59	Fumikazu SUGIURA	51 USD	Venue: Kyiv
Human Resources and Management Development (HRMD)	2009.06.09 - 18	63	Shinsuke KUROSAWA Yuriko HOZAKI	379 USD	Venue: Kyiv, Odessa
Lessons from Japan's Financial Crisis in the Late 1990s	2009.05.07	52	Yasuhiro MAEHARA	Free of charge	Venue: Kyiv
The Role of Financial System in Japan's Economic Development	2009.05.07	34	Yasuhiro MAEHARA	Free of charge	Venue: Kyiv
<b>Sub Total 30 cases</b>	<b>57 days</b>	<b>1,162 participants</b>	<b>52 people</b>	<b>4,527 USD</b>	

<Consultation & Corporate Seminars >

Content	Date	No. of Participants	Instructor	Consultation Fee	Remarks
Consultation for Ukrainian Association of Furniture Manufacturers	2010.01.29	5	Tetsuo YASUI	Free of charge	Object: Kyiv Ukrainian Association of Furniture Manufacturers
Recommendations to Examine Loan Applications	2010.01.29	10	Masataka IMAMURA	Free of charge	Venue: Kyiv Object: «Svodbank»
Recommendations to Examine Loan Applications	2010.01.28	11	Masataka IMAMURA	Free of charge	Venue: Kyiv Object: «VAB Bank»
Recommendations to Examine Loan Applications	2010.01.27	20	Masataka IMAMURA	Free of charge	Venue: Kyiv Object: «Oshadnyy Bank»
Recommendations to Examine Loan Applications	2010.01.26	5	Masataka IMAMURA	Free of charge	Venue: Kyiv Object: «Agrakombank»
Recommendations to Examine Loan Applications	2010.01.25	24	Masataka IMAMURA	Free of charge	Venue: Kyiv Object: CreditPromBank
Policy of Energy Saving	2009.12.16	13	Toshimitsu KURUMIZAWA	Free of charge	Venue: Dnepropetrovsk Object: Corporation «WESTA»
Consultation for INTERPIPE on Global Economical Crisis and Industrial Production	2009.11.19	38	Jun NISHIDA	Free of charge	Object: Dnepropetrovsk INTERPIPE
Seminar on Global Economical Crisis and Industrial Production	2009.11.20 - 21	88	Jun NISHIDA	2101 USD	Venue: Donetsk Region Object: NKMZ, Kramatorsk
<b>Sub Total 9 cases</b>	<b>10 days</b>	<b>214 participants</b>	<b>9</b>	<b>2,101 USD</b>	

DD Kf

<Business Forums & Joint Seminars>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Joint Seminar: Company NTT & NTUU «KPI» on «Research in Wireless Telecommunications»	2009.11.03	27	Yuchi KADO Makoto KASU	Free of charge	
Joint Seminar: Company NTT & NTUU «KPI» on «Thin Film Material Science»	2009.11.02	33	Yuchi KADO Makoto KASU Tadao NAGATSUMA	Free of charge	
<b>Sub Total 2 cases</b>	<b>2 days</b>	<b>60 participants</b>	<b>5 people</b>	<b>0</b>	

<Activities on Investment and Trade Promotion>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Ukraine-Japan Business Forum: Ukraine - Undiscovered Investment Destination for Japanese Business	2009.12.09	50	Takahashi FUNAKI Igor KHARCHENKO Olena HANTSYAK-KASKIV Oleksandra KUZHEL Osamu MIZUTANI	-	Venue: London, UK Organizer: JETRO, UAJC
Business Mission of JETRO: Japanese Companies in Europe and Russia visit to Ukraine	2009.06.21 - 24	70		-	Organizer: UAJC, InvestUkraine, JETRO Moscow
<b>Sub Total 2cases</b>	<b>5 days</b>	<b>120 participants</b>	<b>5 person</b>	<b>0</b>	

<Energy Saving Diagnostics>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Energy Diagnostics for Enterprise «Industrial Services»	2010.03.25 - 26	6	Masayuki IMBE	Free of charge	Object: Nikopol Enterprises «Industrial Services»
Energy Diagnostics for Mine after Hero of Space	2010.03.22	7	Masayuki IMBE	Free of charge	Venue: Pavlograd Object: Mine «Hero of Space»
Energy Diagnostics for Corporation «VESTA»	2009.12.16 - 17	20	Masayuki IMBE	Free of charge	Venue: Dnipropetrovsk Object: Corp. «VESTA»
Energy Diagnostics for National Mining University	2009.12.15	10	Masayuki IMBE	Free of charge	Venue: Dnipropetrovsk Object: National Mining University
Energy Diagnostics for JSC «VERKON»	2009.12.10	15	Masayuki IMBE	Free of charge	Venue: Kyiv Object: OJSC «VERKON»
Energy Diagnostics for CJSC «OBOLON»	2009.12.09	20	Masayuki IMBE	Free of charge	Venue: Kyiv Object: CJSC «OBOLON»
Energy Saving Diagnostics NTUU «KPI»	2009.12.08	10	Masayuki IMBE	Free of charge	Venue: Kyiv Object: IEE NTUU «KPI»
<b>Sub Total 7cases</b>	<b>9 days</b>	<b>88 participants</b>	<b>7 people</b>	<b>0</b>	

<Evaluation Meeting of Study Trip to Japan>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Evaluation meeting on «Japanese Style Business Management» in Shikoku	2010.03.26	12	-	-	
Evaluation meeting on «Japanese Style Production Management» in Hokkaido	2010.01.22	10	-	-	
<b>Sub Total 2 cases</b>	<b>2 days</b>	<b>22 participants</b>		<b>0</b>	

<2008>

<Business Courses>

Course name	Date	No. of Trainees	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Strategic Human Resource Management & Development (HRMD)	2009.02.19 - 02.21	20	Schinichiro Kawaguchi	2080 USD (per company)	Object company: Zhytomir Furniture Company
Strategic Human Resource Management & Development	2008.10.17-18	24	Schinichiro KAWAGUCHI	2080 USD (per company)	Object company: Concern GalNaftoGas
Strategic Human Resource Management & Development-Follow up Training	2008.10.06-08	16	Schinichiro KAWAGUCHI	3120 USD (per company)	Object company: "Rostok Grifon"
Strategic Human Resource Management & Development-Follow up Training	2008.09.29-10.01	20	Schinichiro KAWAGUCHI	2640 USD (per company)	Object company: PromInfoMediaGroup
Strategic Human Resource Management & Development	2008.06.25-27	16	Schinichiro KAWAGUCHI	1753 USD (per company)	Object company: "Rostok Grifon"
Strategic Human Resource Management & Development	2008.06.08	14	Schinichiro KAWAGUCHI	891 USD (per company)	Object company: PromInfoMediaGroup
Strategic Human Resource Management & Development Open Training Seminar	2008.06.19-21	10	Schinichiro KAWAGUCHI	1196 USD (per company)	Object: Ukrainian Businessmen and Top Management
<b>Sub Total 7 cases</b>	<b>18 days</b>	<b>120 trainees</b>	<b>7 people</b>	<b>13,760 USD</b>	<b>7 companies</b>

*Handwritten signatures and initials.*



<Open Seminars>

Course name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
The Basic Consulting Framework for Management Consultant	2009.03.13	26	Schinichiro Kawaguchi	Free of charge	Object: UAMC and other Ukrainian Consultants
Human Resource Management & Development	2008.10.25	27	Schinichiro KAWAGUCHI	Free of charge	Object: Businessmen, professors and staffs of Nikolaev University
Human Resource Management & Development	2008.06.20	12	Schinichiro KAWAGUCHI	Free of charge	Object: Chernobyl Recovery and Development Program (CRDP) staffs, businessmen
Sub Total 3cases	3 days	65 participants	3 people	0	

<Consultation & Corporate Seminars>

Content	Date	No. of Participants	Instructor	Consultation fee	Remarks
HRMD Consultation for PromInfoMediaGroup	2008.10.04	3	Schinichiro KAWAGUCHI	Free of Charge	Consultation was included in Follow-up training fee.
Sub Total 1case	1 day	3 participants	1	0	

<Needs Survey>

Content	Date	No. of Companies	Person in charge	Tuition Fee	Remarks
Visit of companies & Interview in Mikolaev	2008.10.24	5	Schinichiro KAWAGUCHI	-	
Visit of companies & Interview in Zhytomir	2008.10.21-22	5	Schinichiro KAWAGUCHI	-	
Visit of companies & Interview in Kiev	2008.10.14-16,20	4	Schinichiro KAWAGUCHI	-	
Visit of companies & Interview in Cherkassy	2008.10.09-10	4	Schinichiro KAWAGUCHI	-	
Visit of companies & Interview in Lviv	2008.10.02-03	5	Schinichiro KAWAGUCHI	-	
Sub Total 5cities 23cases	11 days	23 companies	Total 5	0	

<Business Forums & Joint Seminars>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
UAJC-KPI Joint Seminar "How to Overcome Economic Crisis in Ukraine"	2009.03.05	26	Schinichiro Kawaguchi Irina Krelidich	Free of charge	Object: KPI Staffs
Panasonic and UAJC Joint Seminar: Management & marketing of Panasonic Company	2008.10.18	16	Exel International Co.Ltd. Mr.MIZUNO Panasonic Kiev Office Mr.TAKAHAMA	379 USD	Object: Businessmen & Students
Panasonic and UAJC Joint Seminar: Management & marketing of Panasonic Company	2008.10.17	200	Exel International Co.Ltd. Mr.MIZUNO Panasonic Kiev Office Mr.TAKAHAMA	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Panasonic and KPI Matching Meeting	2008.10.17	31	Panasonic Moscow office Mr.HATANAKA	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists & Students
Business Forum: The Japanese Experiences in the Ukrainian Industries	2008.10.08	17	NTB Co., Ltd Mr.UEDA Chairman	2412USD	Object: Ukrainian and Japanese Businessmen, Students and other
Business Forum: How to Survive Japanese Company Director in Ukraine	2008.10.01	17	Toyota Ukraine Mr. RONDO General Director		
Business Forum: Management & Global Strategy of Panasonic	2008.09.20	20	Panasonic Kiev Office Mr.TAKAHAMA General Director		
Business Forum: The Philosophy and Management Methods of Honda Motor	2008.09.20	22	Honda Ukraine Mr.MIYASHITA General Director		
Business Forum: The Japanese Business in Environment Protection Sphere of Ukraine	2008.09.13	20	Sumitomo Corporation Kiev Office Mr.EGUCHI General Manager		
Sub Total 9 cases	9 days	369 participants	12 people	2,791 USD	

<Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Seminar on Global Warming & Low Carbon Society	2008.10.31	39	Toyo University Prof.KURUSHIMA Reisaku University Prof.MADONDO JCF Mr.NORIMOTO	Free of charge	Object: Staff of Japanese companies, Energy savings specialists, KPI Energy saving instituc
Seminar on Data Science and Design Science on Materials (Kyiv School)	2008.10.04	40	UAJC Tokyo University NTUU "KPI"	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists from Foreign Universities
Seminar on Data Science and Design Science on Materials (Kyiv School)	2008.10.03	51	UAJC Tokyo University NTUU "KPI"	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Industry-Academia-Government Collaboration Business Matching	2008.10.02	1	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	Free of charge	Object:Nestle Ukraine

Industry-Academia-Government Collaboration Scientists Matching	2008.10.01	10	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	Free of Charge	Object:Academy of Technology & Science
Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration	2008.09.30	78	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration	2008.09.29	50	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Series of Lessons: Assessment of Health and Environmental Impacts from Energy Systems'	2008.06.06-10.16 13days	75	Yoshio MATSUKI Local Lecturer	Free of Charge	Object: KPI Students (IEE)
<b>Sub Total 8 cases</b>	<b>20 days</b>	<b>344 participants</b>	<b>16 people</b>	<b>0</b>	

<Activities on Investment and Trade Promotion>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Participation in First International Invest Forum in Nikolayev	2008.12.18	600	Ukraine Japan Center Ivan Sarwar	Free of charge	Venue: Businessmen, foreign countries representative, enterprises. Find 3 clients for UAJC BC
Database and HP "Gateway to Ukraine Business"	Start on November 2008				www.bizpartners-ukraine.org
Presentation in International Economic Forum "Ukraine: New opportunities"	2008.08.20-21	20	Ukraine Japan Center Tomoe TAMIYA	Free of Charge	Venue: Expo Center of Ukraine Organizer: Ministry of Economy Object: Businessmen, Representative of local government
<b>Sub Total 3 cases</b>	<b>3 days - 1 item</b>	<b>620 participants</b>	<b>2 person</b>	<b>0</b>	

<2007>

<Business Courses>

Course name	Time	No. of trainees	Instructor	Tuition fee	Remarks
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.10.31 - 11.13	10 (No. of completion: 10)	Shinichiro KAWAGUCHI	1160USD	Participants (paid) 2people x 400USD, 1person x 360USD
Japanese Style Problem-Solving Techniques	2007.10.15-19	12 (No. of completion: 10)	Masahiko TAMAI	980USD	Participants (paid) 4people x 200USD, 1person x 180USD
Strategic Management System Policy Management & Balanced Scorecard	2007.10.01-05	13 (No. of completion: 10)	Masahiko TAMAI	600USD	Participants (paid) 3people x 200USD
Human Resources Management & Development	2007.06.22-23	18	Shinichiro KAWAGUCHI	804USD	First Anniversary Seminar for the Project
<b>Sub Total 4 cases</b>	<b>26 days</b>	<b>53 trainees</b>	<b>Total 4</b>	<b>3544USD</b>	<b>Total in UAH - 18299.05UAH</b>

<Open Seminars>

Course name	Time	No. of participants	Instructor	Tuition fee	Remarks
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.12	27	Shinichiro KAWAGUCHI	Free of Charge	Venue: Ukraine Center for Enterprise Restructuring & Private Sector Development
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.09	33	Shinichiro KAWAGUCHI	Free of Charge	Venue: Ukrainian Association for Quality (UAQ)
Historical Transition of Japanese Quality Management & Economic Development in Japan	2007.11.08	27	Masahiko TAMAI	Free of Charge	Venue: Ukrainian School of Political Study (Odessa)
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.07	19	Shinichiro KAWAGUCHI	Free of Charge	Venue: International Center TOP
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.01	35	Shinichiro KAWAGUCHI	Free of Charge	Venue: National Technical University of Ukraine "Kyiv Polytechnic Institute"
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.10.12	14	Masahiko TAMAI	Free of Charge	Venue: Chamber of Commerce of Kiev
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.09.28	26	Masahiko TAMAI	Free of Charge	Venue: Chemigov Employers' League
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.09.26	27	Masahiko TAMAI	Free of Charge	Venue: Ukrainian Association for Quality (UAQ)
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.09.25	207	Masahiko TAMAI	Free of Charge	Venue: National Technical University of Ukraine "Kyiv Polytechnic Institute"
<b>Sub Total 9 cases</b>	<b>9 days</b>	<b>415 participants</b>	<b>Total 9</b>	<b>0</b>	

<Consultation & Corporate Seminars>

Course name	Time	No. of participants	Instructor	Attendance fee	Remarks
Management Consulting (International Center TOP)	07.11.05 - 11.06	25	Shinichiro KAWAGUCHI	Free of Charge	
<b>Sub Total 1 case</b>	<b>2 days</b>	<b>25 participants</b>	<b>1 person</b>	<b>0</b>	

Handwritten initials/signature.

<Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
International seminar on energy-saving and power-efficient technologies	2007.09.28-29	150	NEDO Mr.KURUSHIMA 4 other instructors	Free of Charge	Organized by NEDO's budget
Industry-Academia-Government Collaboration Business Matching	2007.09.19	45	Yokohama National University Prof.KATO Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.KAWABATA	Free of Charge	Object: KPI, Local Universitys
Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration	2007.09.18	130		Free of Charge	Object:KPI staffs, students
Sub Total 3 cases	4 days	325 participants	Total 8	0	

<Activities on Investment and Trade Promotion>

Course/events name	Time	No. of Participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Investment Seminar: Japanese investments attraction: successful experience of Poland	2008.02.08	55	JETRO Mr.MAEDA InvestUkraine Mr.KANAYAMA	Free of Charge	Object: Businessmen, Executive Officers
Presentation of JETRO <TTPP>	2008.03.31	10	JETRO Planning Department Mr.TANAKA	Free of Charge	Venue: Invest Ukraine
Sub Total 2 cases	2 days	65 participants	3 people	0	

<2006>

<Open Seminars>

Course name	Time	No. of participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Personnel Management	2007.03.23	34	Haruki SHIMIZU	Free of Charge	Zhytomyr Entrepreneur Union
Production Management	2007.03.22	36	Yuzuru SHIMAMURA	Free of Charge	Zhytomyr Entrepreneur Union
Personnel Management	2007.03.21	20	Haruki SHIMIZU	Free of Charge	NTUU KPI Library 6th fl.
Production Management	2007.03.20	21	Yuzuru SHIMAMURA	Free of Charge	NTUU KPI Library 6th fl.
Small and medium scale enterprise promotion	2006.12.14	10	Takeo KAWAGOE	Free of Charge	UAJC seminar room
Small and medium scale enterprise promotion	2006.11.24	33	Takeo KAWAGOE	Free of Charge	UAJC seminar room
Sub Total 6 cases	6 days	154 participants	Total 6	0	

<Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration>

Course name	Time	No. of participants	Instructor	Tuition Fee	Remarks
Seminar on Japanese energy saving policy	2007.03.06	50	NEDO Mr.KURUSHIMA	Free of Charge	Object: KPI Energy saving institute, students
Introduction Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration Example in Japan	2006.05.22	200	Yokohama National University Prof.KATO Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.HOSONO	Free of Charge	Object: KPI staffs, students
Sub Total 2 cases	2 days	250 participants	3 people	0	

DD 14

## Annex 7 Achievement of Japanese Language Courses

### 2010-2011 academic year, long-term groups schedule (UAJC JLC results by the end of December, 2010.)

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Beginners 1a	20. Sep. 2010-	Chermalykh Natalia Vestel Tetiana	1st semester : 21	2,000UAH	Date: Mon.& Thu.17:00-18:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 1b	20. Sep. 2010-	Chermalykh Natalia Vestel Tetiana	1st semester : 23	2,000UAH	Date: Mon.& Thu.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 1c	21. Sep. 2010-	Fedotova Yulia Hiraga Tatsuya	1st semester : 21	2,000UAH	Date: Tue.& Fri.17:00-18:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 2a	20. Sep. 2010-	Gornovska Olga Egawa Hiroyuki	1st semester : 23	2,000UAH	Date: Mon.& Thu.17:00-18:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 2b	20. Sep. 2010-	Gornovska Olga Egawa Hiroyuki	1st semester : 27	2,000UAH	Date: Mon. & Thu.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 3a	21. Sep. 2010-	Filonova Victoria Shepelska Irina	1st semester : 13	2,000UAH	Date: Tue.& Fri.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 3b	21. Sep. 2010-	Filonova Victoria Shepelska Irina	1st semester : 25	2,000UAH	Date: Tue.& Fri.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Intermediate 1	21. Sep. 2010-	Fedotova Yulia Petrovska Natalia	1st semester : 23	2,000UAH	Date: Tue. & Fri.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Intermediate 2	2. Oct. 2010-	Ten Shin-ichi Hiraga Tatsuya	1st semester : 17	2,000UAH	Date: Sat.10:30-13:30 Learning time: 3 hrs ×1×16weeks

### 2010-2011 academic year, short-term groups schedule (UAJC JLC results by the end of December, 2010.)

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Advanced 2 (JLPT 1lev. Measures)	02.Oct.2010- 02.Nov.2010	Hiraga Tatsuya Kataoka Hiroshi	10	360UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time:1.5hrs×2×5weeks
Advanced 3 ( Monbushou exam)	18.Jan.2011- 17.Feb.2011	Hiraga Tatsuya Kataoka Hiroshi	not registered	360UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time:1.5hrs×2×5weeks
Advanced 4 (Japanese from topics)	8.Mar.2011- 19.May2011	Hiraga Tatsuya Kataoka Hiroshi	not registered	720UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time:1.5hrs×2×10weeks

### 2009-2010 academic year, long-term groups schedule

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Beginners 1a	22. Sep. 2009-	Bukrienko Andrii Fedotova Yulia	1st semester : 22 2nd semester : 19	1,500UAH	Date: Tue. & Fri.17:00-18:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 1b	22. Sep. 2009-	Bukrienko Andrii Fedotova Yulia	1st semester : 20 2nd semester : 15	1,500UAH	Date: Tue. & Fri.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 1c	03. Oct. 2009-	Chermalykh Natalia Vestel Tetiana	1st semester : 21 2nd semester : 16	1,500UAH	Date: Sat.10:30-13:30 Learning time: 3 hrs ×1×16weeks
Beginners 2a	24. Sep. 2009-	Bukrienko Andrii Egawa Hiroyuki	1st semester : 20 2nd semester : 20	1,500UAH	Date: Mon.& Thu.17:00-18:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 2b	24. Sep. 2009-	Bukrienko Andrii Egawa Hiroyuki	1st semester : 28 2nd semester : 28	1,500UAH	Date: Mon. & Thu.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 3a	24. Sep. 2009-	Gornovska Olga Petrovska Natalia	1st semester : 10 2nd semester : 9	1,500UAH	Date: Tue.& Fri.17:00-18:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Beginners 3b	24. Sep. 2009-	Gornovska Olga Petrovska Natalia	1st semester : 17 2nd semester : 17	1,500UAH	Date: Tue.& Fri.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Intermediate 1	22. Sep. 2009-	Ten Shin-ichi Ohara Atsuhiko	1st semester : 20 2nd semester : 15	1,500UAH	Date: Tue.& Fri.19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs ×2×32weeks
Intermediate 3	03. Oct. 2009-	Maejima Tomoko	1st semester : 16 2nd semester : 9	1,500UAH	Date: Sat.10:30-13:30 Learning time: 3 hrs ×1×16weeks

### 2009-2010 academic year, short-term groups schedule

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Advanced 1 (JLPT 2lev. Measures)	29.Sep.2009- 29.Oct.2009	Fedotova Yulia Petrovska Natalia	12	270UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time:1.5hrs×2×5weeks
Advanced 2 (JLPT 1lev. Measures)	03.Nov.2009- 03.Dec.2009	Ohara Atsuhiko Kataoka Hiroshi	7	270UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time:1.5hrs×2×5weeks
Advanced 3 ( Monbushou exam)	19.Jan.2010- 23.Feb.2010	Ohara Atsuhiko Kataoka Hiroshi	8	270UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time:1.5hrs×2×5weeks
Advanced 4 (Japanese from topics)	09.Mar.2010- 20.May2010	Ohara Atsuhiko Kataoka Hiroshi	8	540UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time:1.5hrs×2×10weeks
Class for children 2	23.Sep.2009- 20.Jan.2010	Vestel Tetiana	5	670UAH	Date: 15:00 - 17:00 Learning time:2hrs×1×15weeks

### 2008-2009 academic year, long-term groups schedule

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Beginners 1a	23. Sep. 2008-	Petrovska Natalya Bukrienko Andriy	1st semester : 25 2nd semester : 22	1,000UAH	Date: Tue.& Fri.17:00-18:30 Learning time:1,5 hrs ×2×32weeks

Beginners 1b	23. Sep. 2008	Petrovska Natalya Bukurienko Andoryi	1st semester : 25 2nd semester : 24	1,000UAH	Date: Tue. & Fri 19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs x 2x32weeks
Beginners 2a	22. Sep. 2008	Gornovska Olga Egawa Hiroyuki	1st semester : 21 2nd semester : 16	1,000UAH	Date: Mon. & Thu. 17:00-18:30 Learning time: 1,5 hrs x 2x32weeks
Beginners 2b	22. Sep. 2008	Gornovska Olga Egawa Hiroyuki	1st semester : 26 2nd semester : 20	1,000UAH	Date: Mon. & Thu. 19:00-20:30 Learning time: 1.5 hrs x 2x32weeks
Beginners 3	22. Sep. 2008	Umebayashi Masaki Ohara Atsuhiro	1st semester : 26 2nd semester : 23	1,000UAH	Date: Mon. & Thu. 19:00-20:30 Learning time: 1.5 hrs x 2x32weeks
Intermediate 1	23. Sep. 2008	Morozova Antonina ( Ohara ) Ten Shin-ichi	1st semester : 13 2nd semester : 7	1,000UAH	Date: Tue. & Fri. 19:00-20:30 Learning time: 1,5 hrs x 2x32weeks
Intermediate 2	4. Oct. 2008	Ten Shin-ichi Ohara Atsuhiro	1st semester : 18 2nd semester : 9	1,000UAH	Date: Sat. 10:30-13:30 Learning time: 3 hrs x 1x16weeks

#### 2008-2009 academic year, short-term groups schedule

Advanced 1( JLPT 2lev. Measures )	30.Sep.2008	Morozova Antonina Petrovska Natalya		180 16 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2x5weeks
Advanced 2( JLPT 1lev. Measures )	30.Sep.2008	Egawa Hiroyuki Ohara Atsuhiro		180 9 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2x5weeks
Advanced 3 ( Interpretation )	26.Dec.2008	Egawa Hiroyuki & few others		400 9 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2x10weeks
Advanced 4 (Japanese for business)	31.Mar.2009	not fixed		360 10 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2x10weeks
Class for children 2	4.Oct.2008	Gryn Tetiana		10 450UAH	Date: Sat. 14:30 - 16:30 Learning time: 2hrs x 1x15weeks
Class for children 1	1.Oct.2008	Vestel Tetiana		8 450UAH	Date: 15:00 - 17:00 Learning time: 2hrs x 1x15weeks
Class for children 1	7.Feb.2009	Vestel Tetiana		5 450UAH	Date: 14:30 - 16:30 Learning time: 2hrs x 1x15weeks
Class for children 2	18.Feb.2009	Vestel Tetiana		5 450UAH	Date: 15:00 - 17:00 Learning time: 2hrs x 1x15weeks

#### 2007-2008 academic year, long-term groups schedule

Beginners 1a	24.09.2007 - 19.06.2008	Egawa Hiroyuki, Bukrienko Andryi	1st semester: 27, 2nd semester: 22	700UAH	Date: Mon/Thur 17:00-18:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 1b	24.09.2007 - 19.06.2008	Egawa Hiroyuki, Bukrienko Andryi	1st semester: 27, 2nd semester: 26	700UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 2a	25.09.2007 - 17.06.2008	Godai Hiroki, Petrovska Natalya	1st semester: 17, 2nd semester: 12	700UAH	Date: Tue/Fri 17:00-18:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 2b	25.09.2007 - 17.06.2008	Godai Hiroki, Petrovska Natalya	1st semester: 23, 2nd semester: 18	700UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 3	24.09.2007 - 19.06.2008	Morito Noriko, Tamkova Svitlana	1st semester: 17, 2nd semester: 12	700UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Intermediate	25.09.2007 - 17.06.2008	Morito Noriko, Gornovska Olga, Ten Shin-ichi	1st semester: 12, 2nd semester: 9	700UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Advanced	6.10.2007 - 14.06.2008	Morito Noriko, Takeuchi Takaaki, Gornovska Olga, Ten Shin-ichi	1st semester: 9, 2nd semester: 8	700UAH	Date: Sat 10:30-13:30 Learning time: 32wks x 1/wk x 3hrs = 96hrs

#### 2007-2008 academic year, short-term groups schedule

Advanced 3 (Japanese for business)	25.03.2008 - 5.06.2008	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	10	250UAH	Date: Tue/Thur 19:00-20:30 Learning time: 10wks x 2/wk x 1.5hrs = 30hrs
Class for children 1-2	20.02.2008 - 28.05.2008	Gryn Tetiana	5	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Class for children 2	16.02.2008 - 7.06.2008	Gryn Tetiana	13	300UAH	Date: Sat 14:30-16:30 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs

Advanced 2 (Interpretation)	11.12.2007 - 28.02.2008	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki, and others	9	300UAH	Date: Tue/Thur 19:00-20:30 Learning time: 10wks x 2/wk x 1.5hrs = 30hrs
Class for children 2-2	6.10.2007 - 26.01.2008	Gryn Tetiana	8	300UAH	Date: Sat 14:30-16:30 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Class for children 1	3.10.2007 - 30.01.2008	Gryn Tetiana	5	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Advanced 1 (preparatory course for Japanese-language proficiency Test, 1st level)	2.10.2007 - 22.11.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	12	200UAH	Date: Tue/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs

#### 2006-2007 academic year, long-term groups schedule

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Introductory class B	3.10.2006 - 5.06.2007	Morito Noriko, Godai Hiroki	1st semester: 29, 2nd semester: 26	600UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs
Introductory class A	3.10.2006 - 5.06.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	1st semester: 27, 2nd semester: 20	600UAH	Date: Tue/Fri 17:00-18:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs
Intermediate-Advanced	3.10.2006 - 5.06.2007	Morito Noriko, Ten Shin-ichi	1st semester: 26, 2nd semester: 19	600UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs
Beginners	2.10.2006 - 14.06.2007	Godai Hiroki, Tamkova Svitlana	1st semester: 25, 2nd semester: 19	600UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs

#### 2006-2007 academic year, short-term groups schedule

Class name	Time	Teacher(s)	No. of students	Tuition fee	Remarks
Advanced 4 (Japanese for business)	30.04.2007 - 25.06.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	13	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs
Class for children 2	24.02.2007 - 16.06.2007	Nikolska Olga	6	300UAH	Date: Sat 14:30-16:30 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Class for children 1-2	21.02.2007 - 20.06.2007	Lenok Katerina	6	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Advanced 3 (Learning Japanese through the media)	19.02.2007 - 23.04.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	11	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs
Advanced 2 (Basic interpretation)	4.12.2006 - 8.02.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki, Zamorska Yuliya	15	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs
Class for children 1	4.10.2006 - 31.01.2007	Lenok Katerina, Nikolska Olga	7	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Advanced 1 (preparatory course for Japanese-language proficiency Test, 1st level)	2.10.2006 - 23.11.2006	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	13	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs

DD VL

Annex 8 Achievement of Mutual Understanding Program

<2010>

▽ Cultural events

Event Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Origami workshop	2010.10.28	Ukraine-Japan Center	12	Lector: Elena Bzhela Venue: Gymnasium of politics, economy and foreign languages	Free	0
The series of documentary films. Film 12 «Sony - Transistor radio»	2010.10.27	Ukraine-Japan Center	70		Free	0
Ikebana exhibition	2010.10.15-17	Ukraine-Japan Center	1030	Venue: Kharenko Art Museum	-	0
The series of documentary films. Film 11 «Kasumigasaki Buildings»	2010.10.13	Ukraine-Japan Center	36		Free	0
Demonstration of Japanese culture	2010.10.11	Ukraine-Japan Center	80	Ikebana, kimono, Japanese fashion Lector: Miyashiro Emiko Venue: National Linguistic University	Free	0
Demonstration of Japanese culture	2010.10.11	Ukraine-Japan Center	140	Ikebana, kimono, Japanese fashion Lector: Miyashiro Emiko Venue: National Taras Shevchenko University	Free	0
Ikebana workshop	2010.10.09	Ukraine-Japan Center	12	Lector: Miyashiro Emiko Venue: National Mining University (Dnepropetrovsk)	4	48
Calligraphy workshop	2010.10.09	Ukraine-Japan Center	28	Lector: Miyashiro Emiko Venue: National Mining University (Dnepropetrovsk)	4	112
Demonstration of Japanese culture	2010.10.09	Ukraine-Japan Center	90	Calligraphy, Ikebana, kimono Lector: Miyashiro Emiko Venue: National Mining University (Dnepropetrovsk)	Free	0
Demonstration of Japanese culture	2010.10.07	Ukraine-Japan Center	55	Calligraphy, Ikebana, kimono Lector: Miyashiro Emiko Venue: National Odessa University	Free	0
Furoshiki and Ikeno nambiki workshop	2010.10.07	Ukraine-Japan Center	20	Lector: Miyashiro Emiko Venue: National Odessa University	Free	0
The series of documentary films. «Haida - the ear, that surprised the world»	2010.10.04	Ukraine-Japan Center Honda Ukraine	70	Venue: Honda Ukraine	Free	0
Lecture: Japanese Hospitality	2010.10.04	Ukraine-Japan Center Toyota Ukraine	65	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Toyota Ukraine	Free	0
Lecture: Japanese Hospitality	2010.10.03	Ukraine-Japan Center	82	Lector: Miyashiro Emiko	Free	0
Origami workshop	2010.10.02	Ukraine-Japan Center Toyota Ukraine	15	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Toyota Ukraine Show room	Free	0
Ukraine-Japan Forum	2010.10.01	Ukraine-Japan Center Japanese cultural club "Daruma" (Ternopol)	100	Quiz about Japan, presentation of economical situation of Japan Venue: Ternopil technical university named after Puliy	Free	0
Anime festival "Diobe 2010"	2010.10.01-03	Ukraine-Japan Center Anime Line Club	500	Shogi lecture, Lecture about Japanese modern fashion (Lector: Miyashiro Emiko), calligraphy demonstration, masju workshop Venue: Zhevetin cinema	1	208
The series of documentary films. Film 10 «Izanda - the ear, that surprised the world»	2010.09.29	Ukraine-Japan Center	63		Free	0
Japanese film festival, Japanese culture exhibition	2010.09.23-26	Ukraine-Japan Center Embassy of Japan	1640	Venue: Kinopanorama cinema	Free	0
Shogi demonstration	2010.09.22	Ukraine-Japan Center	82	Lector: Shorobin Aleksandr Venue: National Linguistic University	Free	0
Shogi demonstration	2010.09.22	Ukraine-Japan Center	53	Lector: Shorobin Aleksandr Venue: National Taras Shevchenko University	Free	0
The series of documentary films. Film 9 «Japanese express train Shinkansen»	2010.09.15	Ukraine-Japan Center	92		Free	0
Ukraine-Japan traditional music concert	2010.09.13	Ukraine-Japan Center Togo Gakuen Music College (Japan)	120	Participants: Togo Gakuen Music College, Musical groups of culture and arts center of NTUU "KPI" Venue: Assembly Hall of 1st build NTUU "KPI"	Free	0
Japanese-Ukrainian Music exchange events	2010.09.13	Ukraine-Japan Center Togo Gakuen Music College (Japan)	15	Participants: Togo Gakuen Music College, National Pair Chalkovskiy Music Academy	Free	0
International exhibition "World of Gifts"	2010.09.08-11	Ukraine-Japan Center Parus Facts Media	168	Hazamutsubi, Ikebana, furoshiki, kimono and manjyu workshops	Free	0
Master-class "Makizushi"	2010.08.27	Ukraine-Japan Center Sushi.com.ua	21	Lector: Nakamura Hitoshi, Sergey Bazaliyskiy	13	273
Calligraphy demonstration	2010.08.25	Ukraine-Japan Center		Lector: Saafida Takafusa, Jiroe Shoko Venue: JTI	Free	0
Japanese culture workshops in the "Sorochintsy yarmarek" Fair	2010.08.17-22	Ukraine-Japan Center "Sorochintsy yarmarek" agency	1500	Venue: village Velyki Sorochintsy (Poltava region)	1	662
The series of documentary films. Film 8 «The truck delivery revolution has begun»	2010.07.23	Ukraine-Japan Center	34		Free	0
The series of documentary films. Film 7 «Seiko - the first quartz wristwatch»	2010.07.14	Ukraine-Japan Center	35		Free	0
Japanese culture workshops and demonstrations in "Kraina Mriy festival"	2010.07.10-11	Ukraine-Japan Center Oleg Skripka	1000	Venue: Spivochi Pole	1	662
The series of documentary films. "The challenge of Toyota"	2010.07.09	Ukraine-Japan Center Toyota Ukraine	200	Venue: Dealer of Toyota Ukraine	Free	0
Japanese culture workshops in "Tripliske Kolo festival"	2010.07.01-02	Ukraine-Japan Center "Echo sound" agency	500	Venue: Rzhyshev (Kyiv region)	1	101
The series of documentary films. Film 6 "The battle of 47 engineers"	2010.06.30	Ukraine-Japan Center	39		Free	0
The series of documentary films. Film 5 "New Haneda airport"	2010.06.16	Ukraine-Japan Center	46		Free	0
Petliivka workshop	2010.06.09	Ukraine-Japan Center	39	Lector: Volenko Natalia	10	394
Gagaku concert	2010.06.07	Ukraine-Japan Center	1200	"Oronokai" group Sponsor: JTI Venue: Center of Culture and arts NTUU "KPI"	Free	0
The series of documentary films. Film 4 "Japan's first highway"	2010.06.02	Ukraine-Japan Center	54		Free	0

Japan related books presentation "Japan: walking upon poetic paths"	2010.05.26	Ukraine-Japan Center Publishing agency "Gran-T"	32	Lector: Bondarenko Ivan	Free	0
Tea event "Chinkai"	2010.05.22	Ukraine-Japan Center	132	Venue: O.V.Fomin botanical garden	13 / 19	2,184
The series of documentary films. Film 3 "Tuna - ocean diamond"	2010.05.12	Ukraine-Japan Center	23		Free	0
The series of documentary films. "The challenge of Toyota"	2010.04.28	Ukraine-Japan Center Toyota Ukraine	140	Venue: Toyota Ukraine	Free	0
The series of documentary films. Film 2 "Japanese word processor"	2010.04.28	Ukraine-Japan Center	28		Free	0
The series of documentary films. Film 1 "The challenge of Toyota"	2010.04.14	Ukraine-Japan Center	65		Free	0
Demonstration of calligraphy	2010.04.01	Ukraine-Japan Center	20	Lector: Sashida Takefusa, Hirose Shoko Venue: School for deaf children JSS	Free	0
Demonstration of calligraphy	2010.04.01	Ukraine-Japan Center	80	Lector: Sashida Takefusa, Hirose Shoko Venue: Building and architecture university	Free	0
Demonstration of calligraphy	2010.04.01	Ukraine-Japan Center Atika-Karate Club	25	Lector: Sashida Takefusa, Hirose Shoko Venue: Atika-Karate Club	Free	0
<b>Total number of events</b>	<b>47</b>		<b>9861</b>			<b>4,930</b>

▼ Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of students	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Shogi	2010.10.04 - 2010.12.20 Weekly	Ukraine-Japan Center	3		44	132
Go	2010.10.04 - 2010.12.12 Weekly	Ukraine-Japan Center	15		25	375
Tea ceremony	2010.10.02 - 2010.12.18 Weekly	Ukraine-Japan Center	10		107	1,070
Tea ceremony (short-term)	2010.05.15 - 2010.06.19 Weekly	Ukraine-Japan Center	8		54	432
Calligraphy (A)	2010.10.16 - 2010.12.11 Biweekly	Ukraine-Japan Center	20		51	1,020
Calligraphy (B)	2010.10.16 - 2010.12.11 Biweekly	Ukraine-Japan Center	19		51	969
Ikebana (A)	2010.10.09 - 2010.12.11 Biweekly	Ukraine-Japan Center	16		51	816
Ikebana (B)	2010.10.02 - 2010.12.04 Biweekly	Ukraine-Japan Center	12		51	612
Ikebana (short-term)	2010.04.10 - 2010.04.24 Biweekly	Ukraine-Japan Center	11		25	275
<b>Total number of courses</b>	<b>9</b>		<b>114</b>			<b>5,701</b>

▼ UAJC Forums

Event title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
25th UAJC Forum "Mythic Japan"	2010.04.07	Ukraine-Japan Center	130	Lector: Shevtsova Galina	1	164
<b>Total number of forums</b>	<b>1</b>		<b>130</b>			<b>164</b>

<2009>

▼ Cultural events

Event Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Master-class "Pysaniv"	2010.03.31	Ukraine-Japan Center	47	Lector: Stashuk Zoya	6	297
Demonstration of calligraphy and concert of "Koto"	2010.03.31	Ukraine-Japan Center Karate club "Atika-Karate"	35	Lector: Sashida Takefusa, Kusama Michiyo and 3 persons	Free	0
Demonstration of calligraphy and concert of "Koto"	2010.03.31	Ukraine-Japan Center Kyiv National Shevchenko University	110	Lector: Sashida Takefusa, Kusama Michiyo and 3 persons Venue: Kyiv National Shevchenko University	Free	0
Demonstration of calligraphy and concert of "Koto"	2010.03.30	Ukraine-Japan Center Art Family "Karas"	60	Lector: Sashida Takefusa, Kusama Michiyo and 3 persons Venue: Art Family "Karas"	Free	0
Concert of "Koto"	2010.03.29	Ukraine-Japan Center Association of composers in Ukraine	120	Lector: Kusama Michiyo and 3 persons Venue: Association of composers in Ukraine	Free	0
Demonstration of calligraphy	2010.03.29	Ukraine-Japan Center Kyiv art university	150	Lector: Sashida Takefusa, Hirose Shoko Venue: Kyiv art university	Free	0
Demonstration of tea ceremony	2010.03.13	Ukraine-Japan Center Japanese cultural center in Nikolaeiv "Tachikaze"	31	Lector: Silinitska Olga Venue: Nikolaeiv city	9	0
Presentation of Japan-related books "Japanese architecture"	2010.03.10	Ukraine-Japan Center Publishing company "Gran-T"	75	Lector: Shevtsova Galina	Free	0
Ikebana exhibition	2010.05.05-07	Ukraine-Japan Center	1570	Venue: Hanenko Museum		0
Master-class "Japanese sweets"	06.03.2010 03.03.2010	Ukraine-Japan Center	71	Lector: Silinitska Olga	6	449
Japanese culture workshops in the exhibition "World of Gifts"	2010.02.02-04	Parus Expo Media Ukraine-Japan Center	269	Venue: Kyiv International Exhibition Center	Free	0
Demonstration of tea ceremony	2010.01.23	Embassy of Japan in Ukraine Ukraine-Japan Center	154	Venue: Ukraine Palace	Free	0
Master-class on making Japanese new-year cards	2009.12.19	Ukraine-Japan Center	26	Lector: Myroshchuk Victoria	1	66
32nd Film Demonstration "The Witch of the West"	2009.12.16	Ukraine-Japan Center	7		Free	0
Participation in "Chio Chio Sar" video clip presentation	2009.12.03	Oleg Skripka Ukraine-Japan Center	100	Venue: Intercontinental Hotel	Free	0
Participation in "Tolerance Day"	2009.11.16	Inter Cultural Agency Ukraine-Japan Center	100	Venue: Independence square	Free	0
Master-class "accessory by Hananurubiz"	2009.10.17	Ukraine-Japan Center Japanese cultural center in Nikolaeiv "Tachikaze"	35	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Nikolaeiv	4	133
Master-class "Ikebana"	2009.10.17	Ukraine-Japan Center Japanese cultural center in Nikolaeiv "Tachikaze"	55	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Nikolaeiv	Free	0
Lecture-demonstration "Japan and Ukraine: history of national costume"	2009.10.16	Ukraine-Japan Center Japanese cultural center in Nikolaeiv "Tachikaze"	80	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Nikolaeiv	Free	0
Lecture-demonstration "Japan and Ukraine: history of national costume"	2009.10.15	Ukraine-Japan Center Toyota Ukraine	35	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Summit Motors	Free	0

DD 154



Lecture-demonstration "Japan and Ukraine: history of national costume"	2009.10.14	Ukraine-Japan Center	55	Lector: Miyashiro Emiko	Free	0
Master-class "Calligraphy"	2009.10.14	Ukraine-Japan Center Kyiv art university	40	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Kyiv art university	4	102
Lecture-demonstration "Japan and Ukraine: history of national costume"	2009.10.13	Ukraine-Japan Center Kyiv National Shevchenko University	150	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Kyiv National Shevchenko University	Free	0
Lecture-demonstration "Japan and Ukraine: history of national costume"	2009.10.12	Anime Line Group Ukraine-Japan Center	60	Venue: Toyota Ukraine	Free	0
One-day Japanese culture course	2009.10.11	Ukraine-Japan Center	8	Lector: Miyashiro Emiko	21	172
Japanese film festival and Exhibition of Japanese culture	2009.10.15-18	Embassy of Japan in Ukraine Ukraine-Japan Center JTI Cinema theater "Kyiv"	1800	Venue: Cinema Theater "Kyiv"	Free	0
Kimono demonstration and concert of Oleg Skripka (Lightning equipment handover ceremony)	2009.10.10	Embassy of Japan in Ukraine Ukraine-Japan Center Oleg Skripka JTI	1000	Lector and performer: Miyashiro Emiko, Oleg Skripka Venue: Culture and art center of NTUU "KPI"	Free	0
Performance of Japanese theatre "Mari-Mari"	2009.09.30	Ukraine-Japan Center	127	Performer: Performance group "Mari-Mari"	Free	0
Visit of the Mayor of Slavutich Mr. Litvichenko to UAJC	2009.09.25	Ukraine-Japan Center KPI	50		Free	0
Go tournament	2009.09.18-19	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	11		Free	0
Master-class "Makizushi"	2009.09.15	Ukraine-Japan Center	36	Lector: Olga Chichirkina	10	364
Japanese culture workshops in corporate party of Radisson Hotel	2009.09.05	Ukraine-Japan Center Radisson Hotel	100		Free	0
31st Film Demonstration "Handsome suit"	2009.09.02	Ukraine-Japan Center	23		Free	0
Participation in the 1st Hiroshima-Nagasaki Peace Study Course	2009.09.01	KPI Ukraine-Japan Center	200	Lector: Udovychenko (mayor of Slavutych)	Free	0
Master-class "Makizushi"	2009.08.29	Ukraine-Japan Center	45	Lector: Olga Chichirkina	10	455
Japanese culture workshops in Svirzh World Culture Festival	2009.07.31	Producing Company "Globe" Ukraine-Japan Center	150		1	89
30th Film Demonstration "GS wanderland"	2009.07.22	Ukraine-Japan Center	0		Free	0
Japanese culture workshops in "Tanabata festival"	2009.07.19	Anime Club "Nice Guys" Ukraine-Japan Center	150		1	52
Japanese culture workshops in "Tripleke Kolo festival"	2009.07.05	Producing Company "Ethno Sound" Ukraine-Japan Center	100	Venue: Rahyshiv (Kyiv region)	Free	0
Demonstration of tea ceremony	2009.07.04	Ukraine-Japan Center	70	Lector: Nishikawa Sotoku	4 / 6 / 9	426
Japanese culture workshops and demonstrations in "Kamres Miry festival"	2009.06.27	Oleg Skripka Ukraine-Japan Center	1500	Venue: Spivoche Pole	1 / 3 / 4	314
29th Film Demonstration "Shunoin girl"	2009.06.17	Ukraine-Japan Center	13		Free	0
Japanese toys demonstration & origami workshop	2009.06.16	Ukraine-Japan Center	42	Lector: Bzhola Elena Venue: School №261	Free	0
Mini workshop "Origami"	2009.05.12	Ukraine-Japan Center	24	Lector: Bzhola Elena Venue: National Museum of Ukrainian Literature	Free	0
Japanese culture workshops in "KPI festival"	2009.05.27	KPI Ukraine-Japan Center	150		1	14
Japanese culture workshops in the festival "Together with Art"	2009.05.24	AJESSEC Ukraine-Japan Center	50	Lector: Yanagisawa Yuko, Bzhola Elena, Furukawa Mizuko Venue: Marinsky Park	Free	0
Japanese toys demonstration	2009.05.21	Ukraine-Japan Center Museum of Literature	100	Lector: Bzhola Elena Venue: National Museum of Ukrainian Literature	Free	0
Mini workshop "Origami"	2009.05.19	Ukraine-Japan Center School №290	43	Lector: Bzhola Elena, Myronchuk Viktoris	Free	0
Anime clipmakers concert	2009.05.16	Ukraine-Japan Center KPI Anime Club	110		Free	0
Demonstration and workshop "Tea ceremony"	2009.05.13	Ukraine-Japan Center	40	Lector: Silin'ska Olga	4 / 6 / 9	445
28th Film Demonstration "Always 2"	2009.05.06	Ukraine-Japan Center	11		Free	0
Mini workshop "Origami" dedicated to Boy's Day	2009.04.24	Ukraine-Japan Center	24	Lector: Bzhola Elena, Furukawa Mizuko Venue: School №290		
Workshop "Koishinari by origami" dedicated to Boy's Day	2009.04.22	Ukraine-Japan Center	30	Lector: Bzhola Elena	Free	0
Master-class "Pysanky"	2009.04.15	Ukraine-Japan Center	44	Lector: Stashuk Zoya	4	167
27th Film Demonstration "TAKESHI'S"	2009.04.08	Ukraine-Japan Center	17		Free	0
Japanese games presentation	2009.04.03	Ukraine-Japan Center	100	Lector: Bzhola Elena Venue: School №200	Free	0
Japanese humor day	2009.04.01	Ukraine-Japan Center	15		Free	0
<b>Total number of events</b>	<b>61</b>		<b>9598</b>			<b>3,545</b>

#### ▽Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of students	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Shogi	2010.02.10 - 2010.05.17 Weekly	Ukraine-Japan Center	2		44	88
Shogi	2009.10.03 - 2009.12.19 Weekly	Ukraine-Japan Center	2		44	88
Go	2010.02.10 - 2010.05.19 Weekly	Ukraine-Japan Center	16		25	400
Go	2009.10.07 - 2009.12.23 Weekly	Ukraine-Japan Center	19		25	475
Tea ceremony	2010.02.06 - 2010.04.17 Weekly	Ukraine-Japan Center	14		107	1,498
Tea ceremony	2009.10.03 - 2009.12.12 Weekly	Ukraine-Japan Center	13		107	1,391
Calligraphy (A)	2010.02.13 - 2010.05.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	15		63	945
Calligraphy (B)	2010.02.13 - 2010.05.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	13		63	819
Calligraphy (C)	2010.02.13 - 2010.05.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	11		63	693
Calligraphy (A)	2009.10.03 - 2009.12.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	17		38	646
Calligraphy (B)	2009.10.03 - 2009.12.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	17		38	646

Ikebana (A)	2010.02.13 - 2010.06.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	9		63	567
Ikebana (B)	2010.02.05 - 2010.06.19 Biweekly	Ukraine-Japan Center	15		63	945
Ikebana (A)	2009.10.10 - 2010.01.22 Biweekly	Ukraine-Japan Center	14		50	700
Ikebana (B)	2009.10.03 - 2010.01.31 Biweekly	Ukraine-Japan Center	12		50	600
Total number of courses	15		189			10,501

▼UAJC Forums

Event title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
24th UAJC Forum "The secret world of kōmono"	2009.07.04	Ukraine-Japan Center	75	Lector: Haro Atsuko	Free	0
23rd UAJC Forum "Japanese painting: history and traditions"	2009.06.03	Ukraine-Japan Center	61	Lector: Boychuk Tamas	Free	0
22nd UAJC Forum "Japanese proverbs - key to Japanese mentality"	2009.05.20	Ukraine-Japan Center	35	Lector: Piragov Volodymyr	Free	0
21st UAJC Forum "Children of Chernobyl" Fund activities"	2009.04.29	Ukraine-Japan Center Fund of "Children of Chernobyl"	25	Lector: Suzumura Misuru (Director of the Fund of "Children of Chernobyl")	Free	0
Total number of forums	4		196			0

<2008>

▼Cultural events

Event Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Master-class on making "Daruma"	2009.03.23	Ukraine-Japan Center	35	Lector: Behola Elena	Free	0
- Girls Festival - Mini workshop "hina-ningyou"	2009.03.21	Ukraine-Japan Center	24	Lector: Behola Elena, Furukawa Mizuho Object: Japanese and Ukrainian Children	Free	0
Japanese culture demonstration (tea ceremony, Ikebana)	2009.03.20	Ukraine-Japan Center Kyiv National Shevchenko University	100	Lector: Siliniska Olga, Kapranova Olena Venue: Kyiv National Shevchenko University	Free	0
26th Film demonstration "Jan films"	2009.03.11	Ukraine-Japan Center	24		Free	0
- Girls Festival - Japanese culture workshop	2009.03.07	Ukraine-Japan Center	130		Free	0
25th Film demonstration "700 Days of Battle: Us vs. the Police"	2009.02.25	Ukraine-Japan Center	17		Free	0
Spring-welcoming Festival "Setsubun"	2009.02.13	Ukraine-Japan Center	70	Venue: Foreign Languages Specialized School №290	Free	0
Master-class on making chocolate for the st. Valentine's day	2009.02.12	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Myronchuk Viktoriia	3	58
24th Film demonstration "The magic hour"	2009.01.26	Ukraine-Japan Center	19		Free	0
Master-class on calligraphy "Kakizome"	2009.01.21	Ukraine-Japan Center	32	Lector: Ten Shinichi	3	102
2nd Anime-cosplay-karaoke competition	2009.01.17	Ukraine-Japan Center All-Ukrainian fan club of Anime and Manga "Crystal Power"	140		Free	0
Master-class on making Japanese new-year cards	2008.12.25	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Furukawa Mizuho Object: Citizen of Nikolayev	Free	0
Master-class on making Japanese new-year cards	2008.12.24	Ukraine-Japan Center	21	Lector: Taniya Torase	2	50
Japanese culture workshop	2008.12.22	Ukraine-Japan Center Students-volunteers from KNUU	40	Venue: boarding school №3	Free	0
23th Film demonstration "Favourite professor's equation"	2008.12.10	Ukraine-Japan Center	12		Free	0
Ukraine-Japan Sports Festival "Udohai"	2008.11.29	Ukraine-Japan Center	170	Venue: Sport complex NTUU "KPI"	Free	0
UAJC Cup of Ukraine on Go	2008.11.21 - 23	Ukrainian Go Association Embassy of Japan in Ukraine Ukraine-Japan Center	198		Free	0
22th Film demonstration "Hotel Hibiscus"	2008.11.19	Ukraine-Japan Center	24		Free	0
Presentation of Japanese culture "Lecture about Matsuo Basho"	2008.11.14	Ukraine-Japan Center - Embassy of Japan in Ukraine Japan Foundation	150	Lector: Kato Koko Venue: Foreign Languages Specialized School №290	Free	0
Cup of Ukraine on Go	2008.11.08 - 09	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	80		Free	0
Tea ceremony demonstration	2008.10.25	Ukraine-Japan Center - Embassy of Japan in Ukraine	78	Lector: Silnytska Silnytska	Free	0
21th Film demonstration "Lovely complex"	2008.10.22	Ukraine-Japan Center	42		Free	0
3rd All-Ukrainian Kendo tournament on the Cup of ambassador of Japan in Ukraine	2008.10.18 - 19	Kyiv Kendo Federation Ukraine-Japan Center Embassy of Japan in Ukraine	340	Venue: Sport complex NTUU "KPI"	Free	0
All-Ukrainian Anime Festival	2008.10.14	Ukraine-Japan Center All-Ukrainian fan club of Anime and Manga "Crystal Power"	800	Venue: Palace of culture NTUU "KPI"	Free	0
Kimono demonstration	2008.10.14	Ukraine-Japan Center	30	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Kyiv National Linguistic University	Free	0
Kimono demonstration	2008.10.14	Ukraine-Japan Center	36	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Taras Shevchenko Kyiv National	Free	0
Master-class on calligraphy	2008.10.13	Ukraine-Japan Center	64	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Korus, Chernigov region	Free	0
Kimono and Ikebana demonstration	2008.10.12	Ukraine-Japan Center	14	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Korus, Chernigov region	Free	0
International Japanese animation festival	2008.10.10 - 12	Ukraine-Japan Center Rennmedia AnimeLineGroup	2000	Venue: Cinema Theater "Zhyvota"	Free	0
Participation in International Exhibition Show "Ukraine 2008" Exhibition platform of UAJC and tourist company "Tairiku Travel"	2008.10.07 - 09	Ministry of culture and tourism in Ukraine Ukrainian exhibition company "AVTOEXPO"	600	Venue: International Exhibition Center	Free	0
Anime Festival	2008.09.27 - 30	Anime-club "Harukaze" "Rennmedia"/"Anime-Line Group" "animeshounen" Ukraine-Japan Center	1600	Lector: Kutshevo Olie Venue: Dnipropetrovsk	Free	0
League on Ukrainian Meijin (8 tour)	2008.09.27	Ukrainian Go Federation Ukraine-Japan Center	6		Free	0
Master-class "Makizushi"	2008.09.24	Ukraine-Japan Center	25	Lector: Magina Tomoko	6	149

Ukrainian Go championship (First league)	2008.09.19 - 21	Ukrainian Go Federation Ukraine-Japan Center	45		Free	0
Anime Festival rehearsal	2008.09.16	Ukraine-Japan Center All-Ukrainian fan club of Anime and Manga "Crystal Power"	15		Free	0
20th Film demonstration "Our mother"	2008.09.03	Ukraine-Japan Center	24		Free	0
"World of Gifts" Exhibition participation Master-class on making Noshi-bukuro	2008.08.29	Parus Expo Media Ltd. Ukraine-Japan Center	35	Lector: Kuleshov Chie Venue: Exhibition Center	Free	0
19th Film demonstration "Yoji and Kita: The Midnight Pilgrims"	2008.08.06	Ukraine-Japan Center	11		Free	0
18th Film demonstration "Three on the road"	2008.07.02	Ukraine-Japan Center	30		Free	0
The ceremony on Japanese art courses finishing	2008.06.25	Ukraine-Japan Center	25		Free	0
Embroidery master-class	2008.06.23	Ukraine-Japan Center	9	Lector: Protsheva Tatiana	4	36
2nd Anniversary of "UAJC" Project Participation in 5th International ethnic festival "Dream Land"	2008.06.21	NPO "Kraina Mriy" Ukraine-Japan Center	1000	Venue: Spivochke pole	557	10,397
2nd Anniversary of "UAJC" Project Japanese Film Festival	2008.06.19 - 23	Ukraine-Japan Center Embassy of Japan in Ukraine	1525	Venue: Cinema Theater "Zlotoi"	9,840	
2nd Anniversary of "UAJC" Project Opening ceremony of Photo exhibition "Japan Touch"	2008.06.12	Ukraine-Japan Center	26	Author: Pavlo Korsun		
2nd Anniversary of "UAJC" Project Photo exhibition "Japan Touch"	2008.06.09 - 07.01	Ukraine-Japan Center	450	Author: Pavlo Korsun		
17th Film demonstration "Ivushi"	2008.06.04	Ukraine-Japan Center	20		Free	
The Children's Day	2008.05.27	Ukraine-Japan Center	6		Free	0
'Katawase' Workshop	2008.05.24	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Taniya Tomoe Oblect: Citizen of Nikolaev	10	178
The Children's Day	2008.05.22	Ukraine-Japan Center	15	Venue: Preschool (Kiev)	Free	0
The Children's Day	2008.05.16	Ukraine-Japan Center	65	Venue: Foreign Languages Specialized School	Free	0
'Suminagashi' Workshop	2008.05.14	Ukraine-Japan Center	14	Lector: Mironchuk Victoria	4	48
16th Film Demonstration - 'Bubble Fiction'	2008.05.07	Ukraine-Japan Center	27		Free	0
The Children's Day	2008.03.07	Ukraine-Japan Center	31		Free	0
'Tysanki' Workshop	2008.04.23	Ukraine-Japan Center	16	Lector: Stashuk Zoya	2	40
Halku club	2008.04.19	Ukraine-Japan Center	7		Free	0
Quiz "Lets know Japan"	2008.04.18	Ukraine-Japan Center	120	Lector: Kuleshov Chie Venue: Foreign Languages Specialized School	Free	0
-The Week of Chernobyl- Photo-exhibition "Chernobyl - Prypyl 2007" Author: Aqstarkh Amehotepov Premiere demonstration of film "Kaina" by Imazeki Akioyoshi Symposium "Chernobyl Renaissance and Japan"	2008.04.07 - 17	Ukraine-Japan Center	310	Lectors: Matsuki Yoshio (External Investigator of Embassy of Japan), Takouchi Takashi ("Chernobyl" Kyuen Chyubu")	Free	0
15th Film demonstration "Gates of Love"	2008.04.02	Ukraine-Japan Center	25		Free	0
<b>Total number of events</b>	<b>58</b>		<b>10826</b>			<b>11,057</b>

#### Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of students	Remarks	Fee per-person (USD)	Total (USD)
Go	2009.02.04 - 2009.06.03 Weekly	Ukraine-Japan Center	15		8	120
Go	2008.10.15 - 2008.12.24 Weekly	Ukraine-Japan Center	11		8	88
Tea ceremony	2009.02.07 - 2009.04.18 Weekly	Ukraine-Japan Center	13		126	1,638
Tea ceremony	2008.10.11 - 2008.12.20 Weekly	Ukraine-Japan Center	11		110	1,210
Calligraphy	2009.02.14 - 2009.06.27 Biweekly	Ukraine-Japan Center	15		36	540
Calligraphy (A)	2008.10.18 - 2008.12.13 Biweekly	Ukraine-Japan Center	22		61	1,342
Calligraphy (B)	2008.10.18 - 2008.12.13 Biweekly	Ukraine-Japan Center				
Ikebana (A)	2009.02.14 - 2009.06.27 Biweekly	Ukraine-Japan Center	14		63	882
Ikebana (B)	2009.02.07 - 2009.06.20 Biweekly	Ukraine-Japan Center	12		63	756
Ikebana (A)	2008.10.10 - 2009.01.30 Biweekly	Ukraine-Japan Center	9		50	450
Ikebana (B)	2008.10.11 - 2009.01.24 Biweekly	Ukraine-Japan Center	11		50	550
<b>Total number of courses</b>	<b>11</b>		<b>133</b>			<b>7,576</b>

#### UAJC Forums

Event title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per-person (USD)	Total (USD)
20th UAJC Forum "Ukrainian and Japanese wooden architecture"	2009.03.18	Ukraine-Japan Center	46	Lector: Shevtsova Galina	Free	0
19th UAJC Forum "Chabana"	2009.02.21	Ukraine-Japan Center	60	Lector: Aleksei Mamonov (Teacher of tea ceremony from Moscow Usenske school)	Free	0
18th UAJC Forum "Thousand years of Genji-monogatari View from Ukraine"	2008.11.26	Ukraine-Japan Center	31	Lector: Bondarenko Ivan	Free	0
17th UAJC Forum "Matsuo Basho"	2008.11.14	Ukraine-Japan Center	46	Lector: Kato Koko	Free	0
16th UAJC Forum "Japanese aroma"	2008.10.15	Ukraine-Japan Center	25	Lector: Miyasliro Emiko (Sumitomo Corp.)	6	154
15th UAJC Forum "Lets go to Japan!"	2008.10.08	Ukraine-Japan Center	30	Lector: Sumida Sei (Tainika Travel)	Free	0
14th UAJC Forum "Tsukimi, Autumn sweets"	2008.09.17	Ukraine-Japan Center	30	Lector: UAJC staff	4	119
13th UAJC Forum "The World of Netsuke"	2008.05.21	Ukraine-Japan Center	22	Lector: Deytschenko Alexandr - director of Netsuke Gallery (Kiev)	Free	0
12th UAJC Forum "Shakuhachi in an International Context"	2008.04.16	Ukraine-Japan Center	24	Lector: Muroto DAY Kiku (London University)	Free	0
<b>Total number of forums</b>	<b>9</b>		<b>314</b>			<b>273</b>

DD Vell

<2007>

▽ Cultural events

Event Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Anime Song Karaoke Contest	2008.03.29	Ukraine-Japan Center	140		Free	0
14th Film demonstration "NINJA"*	2008.03.19	Ukraine-Japan Center	17		Free	0
- Girls Festival - Master-class on making "karakasa" (Japanese traditional shell painting)	2008.03.12	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Tamiya Tomoe	10	178
- Girls Festival - Master-class on making Japanese sweet	2008.03.05	Ukraine-Japan Center	29	Lector: Tamiya Tomoe, Sil'yatska Olga	4	115
- Girls Festival - Master-class on making "hina-ningyō" (dolls for Girls Festival)	2008.03.03	Ukraine-Japan Center	19	Lector: Tamiya Tomoe	Free	0
Spring-welcoming Festival "Setsubun"	2008.02.29	Ukraine-Japan Center	127	Venue: Foreign Languages Specialized School №290	Free	0
Kiev Go Championship (women)	2008.02.23 - 24	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	10		Free	0
Haiku club	2008.02.20	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Mizuhiki club	2008.02.20	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Cup of Ukraine on Go (pairs)	2008.02.09 - 10	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	38		Free	0
13th Film demonstration "Earthsea Chronicles"	2008.02.06	Ukraine-Japan Center	24		Free	0
Kirie Workshop	2008.01.30	Ukraine-Japan Center	15	Lector: Tamiya Tomoe	2	38
Moebiuski	2008.01.26	Ukraine-Japan Center	150		Free	0
12th Film demonstration "Ooku"	2008.01.23	Ukraine-Japan Center	26		Free	0
Tea ceremony demonstration	2008.01.19	Ukraine-Japan Center	36	Lector: Sil'yatska Olga	2	85
Haiku club	2008.01.16	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Mizuhiki club	2008.01.16	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Origami class	2007.12.25	Ukraine-Japan Center	7	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
Anime-manga festival	2007.12.22	All-Ukrainian anime and manga fan-club "Crystal Power" Ukraine-Japan Center	500	Venue: CP «KPI»	Free	0
Master-class on making Japanese new-year cards	2007.12.20	Ukraine-Japan Center	17	Lector: Tamiya Tomoe	2	38
Master-class on Monkiiri	2007.12.13	Ukraine-Japan Center	6	Lector: Tamiya Tomoe	3	18
11th Film demonstration «Shinobi»	2007.12.05	Ukraine-Japan Center	31		Free	0
Mizuhiki club	2007.11.30	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Haiku club	2007.11.28	Ukraine-Japan Center	7		Free	0
Origami class	2007.11.27	Ukraine-Japan Center	20	Venue: Special boarding-school for deaf-mute children №6	Free	0
Karaoke contest for the Ukrainian students studying Japanese	2007.11.17	Ukraine-Japan Center	46		Free	0
2nd master-class on painting easter-eggs	2007.11.15	Ukraine-Japan Center	17	Lector: Starshuk Zoya	2	42
2nd master-class on sumi-e gashi	2007.11.09	Ukraine-Japan Center	21	Lector: Mironchuk Victoria	4	79
10th Film demonstration «Sakurano»	2007.11.07	Ukraine-Japan Center	68		Free	0
Mizuhiki club	2007.10.31	Ukraine-Japan Center	10		Free	0
Cup of Ukraine on Go	2007.10.27 - 28	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	100		Free	0
Concert-lecture «The soul of a Japanese dance»	2007.10.25	The Embassy of Japan in Ukraine The Japan Foundation Ukraine-Japan Center	100	Onoue Kiku Hiroshi and other 6 people	Free	0
Haiku club	2007.10.24	Ukraine-Japan Center	7		Free	0
Origami class	2007.10.18	Ukraine-Japan Center	23	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
Introducing Japanese culture to the Ukrainian schoolchildren	2007.10.15 - 16	Ukraine-Japan Center	236	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Korop town, Chernigov region	Free	0
Cup of Japanese Ambassador on Kendo	2007.10.14	The Embassy of Japan in Ukraine Ukraine-Japan Center	200		Free	0
Cup of «Toyota» on Go	2007.10.12 - 14	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	195		Free	0
Autumn sport event	2007.10.05	Ukraine-Japan Center	94	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
9th Film demonstration «Paprka»	2007.10.03	Ukraine-Japan Center	29		Free	0
The meeting of Ukrainians and Japanese students	2007.09.29	Ukraine-Japan Center	30	Venue: Kiev National Linguistic University	Free	0
Elimination stage of the "Sho no kashien" contest	2007.09.22	Representative office of Ryuseki Morimoto in Ukraine Ukraine-Japan Center	13		Free	0
Master-class on sumi-e gashi	2007.09.22	Representative office of Ryuseki Morimoto in Ukraine Ukraine-Japan Center	21	Lector: Pan'kherenko Bogdan	4	83
Book market	2007.09.22	Ukraine-Japan Center	50	Paid event	2	99
1st League of Championship of Ukraine on Go	2007.09.21 - 22	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	32		Free	0
Haiku club	2007.09.19	Ukraine-Japan Center	6		Free	0
Mizuhiki club	2007.09.19	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
8th Film demonstration «Love and Honor»	2007.09.05	Ukraine-Japan Center	54		Free	0
7th Film demonstration «Great Goblin Wars»	2007.07.11	Ukraine-Japan Center	15		Free	0
Tanabata holiday	2007.07.07	NPO «Land of Dreams» Ukraine-Japan Center	447	In the context of «Land of Dreams» festival Venue: Sphoche pole	Free	0
6th Film demonstration «Riding a Meteor»	2007.06.27	Ukraine-Japan Center	23		Free	0
Short-term courses of Ikebana "Ukraine-Japan Center" project's anniversary «Japanese evening»	2007.06.23	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikebano school	Free	0
"Ukraine-Japan Center" project's anniversary	2007.06.21	Ukraine-Japan Center	600	Venue: Ukrainian House	Free	0
Haiku club	2007.06.20	Ukraine-Japan Center	6		Free	0
Mizuhiki club	2007.06.13	Ukraine-Japan Center	7		Free	0

Informational fair	2007.05.25	Scientific association of students and aspirants of NTUU «KPI» Ukraine-Japan Center	500	Number of UAJC booth users: approx. 100	Free	0
5th Film demonstration «Hula dancers»	2007.05.23	Ukraine-Japan Center	31		Free	0
Haiiku club	2007.05.16	Ukraine-Japan Center	9		Free	0
Mizuhiki club	2007.05.16	Ukraine-Japan Center	10		Free	0
Children's day Kiev gymnasium of Oriental languages №1	2007.05.04	Ukraine-Japan Center	48		Free	0
Film demonstration №1 «Hidem Blade»	2007.04.18	Ukraine-Japan Center	47		Free	0
Ceremony of manga transfer to the center	2007.04.13	The Embassy of Japan in Ukraine KPI Ukraine-Japan Center	70		Free	0
Easter holiday Master-class on painting Easter-eggs	2007.04.11	Ukraine-Japan Center	37	Lector: Stashuk Zoya	Free	0
Haiiku club	2007.04.04	Ukraine-Japan Center	15			
Mizuhiki club	2007.04.04	Ukraine-Japan Center	13			
<b>Total number of events</b>	<b>64</b>		<b>4495</b>			<b>774</b>

▽ Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of students	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Go	2008.03.12 - 2008.05.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	12		10	120
Go	2007.10.05 - 2007.12.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	15		10	149
Tea ceremony	2008.05.12 - 2008.05.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	4		125	500
Tea ceremony	2007.10.03 - 2007.12.19 Weekly	Ukraine-Japan Center	9		125	1,125
Tea ceremony	2007.04.04 - 2007.06.27 Weekly	Ukraine-Japan Center	7		125	875
Calligraphy (A)	2008.03.01 - 2008.05.17 Biweekly	Ukraine-Japan Center	31		59	1,829
Calligraphy (B)	2008.03.01 - 2008.05.17 Biweekly	Ukraine-Japan Center				
Calligraphy	2007.10.05 - 2007.12.15 Weekly	Ukraine-Japan Center	27		59	1,593
Calligraphy	2007.10.05 - 2007.12.15 Weekly	Ukraine-Japan Center				
Calligraphy	2007.04.07 - 2007.06.16 Weekly	Ukraine-Japan Center	18		59	1,062
Ikebana (A)	2008.03.07 - 2008.06.20 Biweekly	Ukraine-Japan Center	10		55	550
Ikebana (B)	2008.03.22 - 2008.06.14 Biweekly	Ukraine-Japan Center	13		55	715
Ikebana (A)	2007.10.05 - 2008.01.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center	13		55	715
Ikebana (D)	2007.10.13 - 2008.01.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	13		55	715
<b>Total number of events</b>	<b>14</b>		<b>172</b>			<b>9,948</b>

▽ UAJC Forums

Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
11th UAJC Forum "The Etiquette of the Warrior"	2008.03.26	Ukraine-Japan Center	63	Lector: Takashi Kuroki, the President of Kyiv Federation of Aikido and Budo	0	0
10th UAJC Forum "Sushi, Way to Perfection"	2008.02.27	Ukraine-Japan Center	85	Lector: Kouhei Shioi, the chief of the residence of the Ambassador of Japan in Ukraine	0	0
9th UAJC Forum "Tsubo, Arms of the Samurai."	2007.12.19	Ukraine-Japan Center	41	Lector: The Vice-minister of Finance of Ukraine, Kozymenko Anatoly Vasylyvich	0	0
8th UAJC Forum "Pewerlifting, Japanese Experience."	2007.11.21	Ukraine-Japan Center	11	Lector: Hiroshi Nakamura	0	0
7th UAJC Forum "Japanese Sweet"	2007.10.17	Ukraine-Japan Center	30	Lector: Emiko Miyashiro, the Sumitomo Corporation	0	0
6th UAJC Forum "Ukrainian Industry Through the Eyes of a Japanese"	2007.09.12	Ukraine-Japan Center	31	Lector: Koichi Ueda, the managing director of the NTB Corporation	0	0
5th UAJC Forum "The Ukraine-Japanese Relations Nowadays"	2007.06.05	Ukraine-Japan Center	100	Lector: The Ambassador of Japan, Mr. Mabeuchi	0	0
4th UAJC Forum "What is Kendo?"	2007.04.25	Ukraine-Japan Center	73	Lector: Hiroki Otsu, the president of the Kyiv Kendo Federation	0	0
<b>Total number of events</b>	<b>8</b>		<b>434</b>		<b>0</b>	<b>0</b>

<2006>

▽ Cultural events

Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
3rd Film demonstration «Star public-officer»	2007.03.22	Ukraine-Japan Center	20		Free	0
Hinomatsuri Festival Workshop on Ikebana, tea ceremony, origami, yukata)	2007.03.09	Ukraine-Japan Center	130	No.1 / 13 : 00 - 14 : 30 No.2 / 14 : 30 - 16 : 00	Free	0
2nd Film demonstration «Japan's good old times»	2007.02.22	Ukraine-Japan Center	40		Free	0
Kiev Go Championship (teams)	2007.03.17 - 18	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association	98		Free	0
Kiev Go Championship (pairs)	2007.02.11 - 12	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association	38		Free	0
Introducing Japanese sense of beauty All-Ukrainian Beauty forum	2007.02.10	Ukraine-Japan Center Ukraine Esthetic Association	60		Free	0
Introducing Japanese culture to the schoolchildren	2007.02.09	Ukraine-Japan Center	20	Venue: «Harmony» gymnasium	Free	0
Kimono and furoshiki demonstration	2007.02.08	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	36	Venue: Kiev International University	Free	0
Culture of Tying	2007.02.08	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	120	Venue: Shevchenko's Kiev National University	Free	0
Ikebana and kimono demonstration	2007.02.07	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	60	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
Ikebana and kimono demonstration	2007.02.06	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	50	Venue: Kiev National Linguistic University	Free	0
Setsubun Holiday	2007.02.03	Ukraine-Japan Center	85		Free	0
Kiev Go Championship (men)	2007.01.27 - 28	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association	80		Free	0

DD 1A

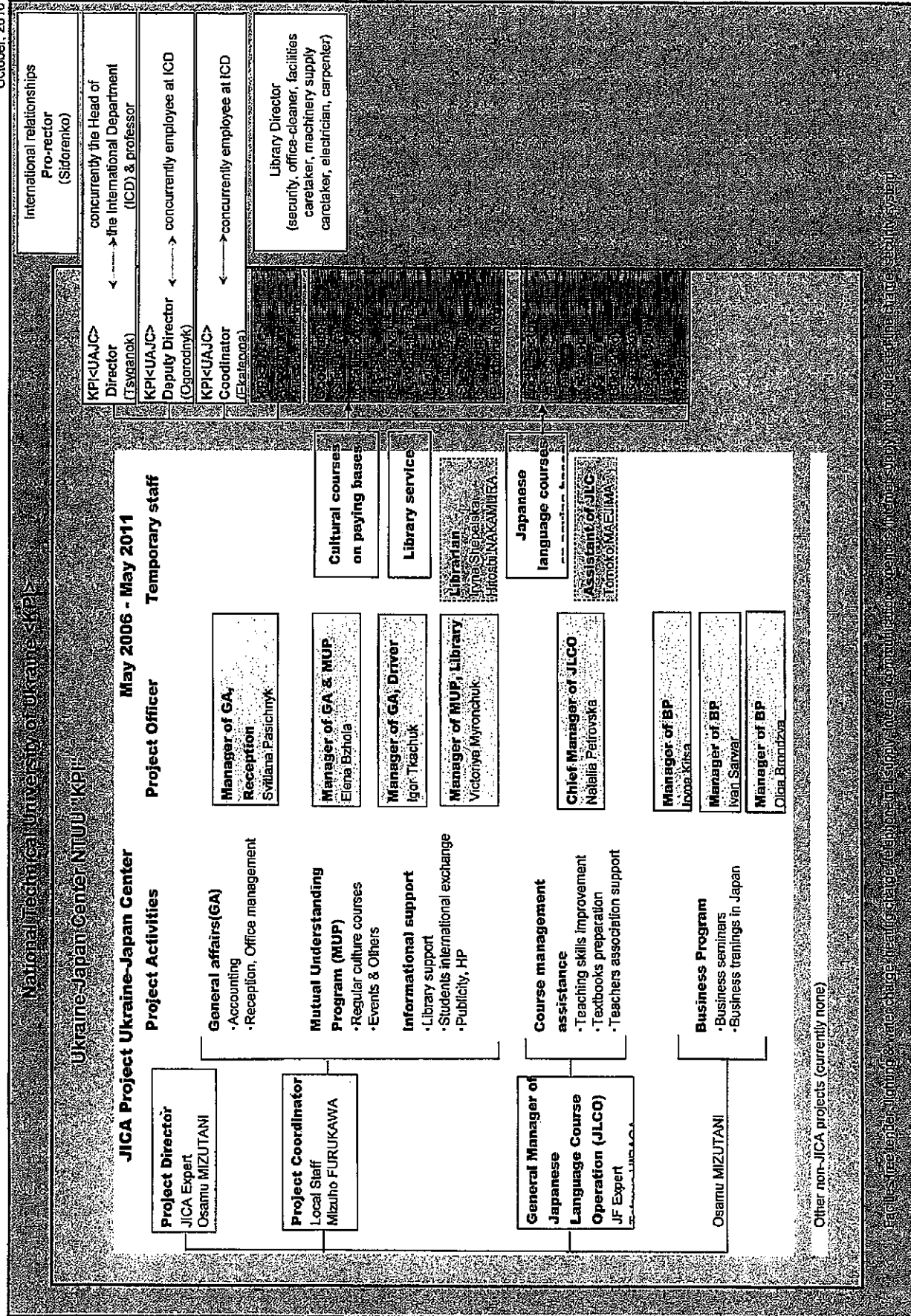
1st Film demonstration «Thousand years love - Story of magnificent Genji»	2007.01.25	Ukraine-Japan Center	35		Free	0
The exhibition of works by calligraphy courses' students	2006.12.23	Ukraine-Japan Center Representative office of Ryuseki Morimoto in Ukraine The Embassy of Japan in Ukraine	30			
Haiku contest (Coolest)	2006.11.25	Ukraine-Japan Center	40	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Tea ceremony demonstration and lesson	2006.11.19	Ukraine-Japan Center Moscow NPO "The Way of Tea"	100	Lector: Moscow Urasenke Mr. Nishikawa	Free	0
Haiku contest (Third session)	2006.11.18	Ukraine-Japan Center	50	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Cup of Japanese Ambassador on Go	2006.11.17 - 19	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association The Embassy of Japan in Ukraine	306		Free	0
Project X Documental films demonstration	2006.11.16	Ukraine-Japan Center	30		Free	0
Hniku contest (Second session)	2006.11.11	Ukraine-Japan Center	50	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Ukrainian political research school's graduates' 1st meeting	2006.11.10	The Embassy of Japan in Ukraine Ukrainian political research school	35		Free	0
Project X Documental films demonstration	2006.11.09	Ukraine-Japan Center	27		Free	0
Haiku contest (First session)	2006.11.03	Ukraine-Japan Center	50	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Tea ceremony demonstration and lesson	2006.10.22	Local Tea ceremony club The Embassy of Japan in Ukraine	100	Lector: Silnytska Olga	Free	0
Gala Benetton party Japanese Corner	2006.10.13	GALA RADIO Ukraine-Japan Center	600		Free	0
Seminar on Debans	2006.10.23	The Far East Foundation, Ukraine-Japan Center, The Embassy of Japan in Ukraine	50	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikenobo school	Free	0
Ukraine Go Championship 2006	2006.09.12 - 14	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center			Free	0
Japanese drummers' concert	2006.09.05	Ukraine-Japan Center	1600	Venue: PCA NTU «KPI»	Free	41,712
Japanese drummers' concert	2006.09.03	Ukraine-Japan Center The Embassy of Japan in Ukraine, The opening of «Month of Japan in Ukraine»	1300	Venue: National opera	Free	
Japanese drummers' concert	2006.09.02	Ukraine-Japan Center The Embassy of Japan in Ukraine, Unshokha «Month of Japan in Ukraine»	7500	Venue: Constructova ploshcha	Free	
National minorities Festival Japanese Corner	2006.06.28	City of Kiev Ukraine-Japan Center	200	Venue: Spivchoche polo	Free	0
Ikebana demonstration	2006.05.13	The Far East Foundation The Embassy of Japan in Ukraine	50	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikenobo school	Free	0
Ikebana demonstration	2006.05.12	The Far East Foundation The Embassy of Japan in Ukraine	50	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikenobo school	Free	0
Children's Festival	2006.05.05	Ukraine-Japan Center	45		Free	0
20th anniversary of Chernobyl «Introducing Japanese Culture»	2006.04.29	Ukraine-Japan Center «Chernobyl Kyuzenchubus»	95	Venue: Zhitomir town	Free	0
20th anniversary of Chernobyl: Non-Government Organizations' meeting	2006.04.24	«Chernobyl Kyuzenchubus» The Embassy of Japan in Ukraine	30		Free	0
<b>Total number of events</b>	<b>37</b>		<b>13210</b>			<b>41,712</b>

#### ▽Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of students	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Go	2007.02.14 - 2007.05.30 Weekly	Ukraine-Japan Center	9		10	90
Go (A)	2006.09.03 - 2006.12.26 Weekly	Ukraine-Japan Center	36		2	72
Go (B)	2006.09.07 - 2006.12.20 Weekly	Ukraine-Japan Center				
Tea ceremony (A)	2007.01.10 - 2007.03.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	5		125	625
Tea ceremony (B)	2007.01.13 - 2007.03.31 Weekly	Ukraine-Japan Center	6		125	750
Tea ceremony (A)	2006.09.04 - 2006.12.20 Weekly	Ukraine-Japan Center	6		125	750
Tea ceremony (D)	2006.09.7 - 2006.12.23 Weekly	Ukraine-Japan Center	5		125	625
Calligraphy	2007.02.17 - 2007.06.09 Biweekly	Ukraine-Japan Center	13		40	520
Calligraphy (A)	2006.09.7 - 2006.12.25 Biweekly	Ukraine-Japan Center	20		20	400
Calligraphy (B)	2006.09.14 - 2006.12.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center	14		20	280
Calligraphy (C)	2006.09.14 - 2006.12.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center	10		20	200
Ikebana (A)	2007.02.09 - 2007.05.25 Biweekly	Ukraine-Japan Center	8		55	440
Ikebana (B)	2007.02.10 - 2007.05.19 Biweekly	Ukraine-Japan Center	7		55	385
Ikebana (A)	2006.09.13 - 2006.12.22 Biweekly	Ukraine-Japan Center	18		42	756
Ikebana (D)	2006.09.14 - 2006.12.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center				
<b>Total number of courses</b>	<b>15</b>		<b>157</b>			<b>5,693</b>

#### ▽UAJC Forums

Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
3rd UAJC Forum "Cool Japan, Gothic Lolita Style"	2007.03.28	Ukraine-Japan Center	150	Gostoli moda follower	Free	0
2nd UAJC Forum "Japanese Poetry as a National Mentality Mirror"	2007.02.28	Ukraine-Japan Center	40	Lector: Iven Petrovich Bondarenko, Professor of Kyiv Taras Shevchenko National University Free of charge	Free	0
1st UAJC Forum "Knot Culture"	2007.02.07	Ukraine-Japan Center	100	Lector: Emiko Miyashiro Free of charge	Free	0
<b>Total number of forums</b>	<b>3</b>		<b>290</b>			<b>0</b>



(note) -----> are instructed by the project

□ : Experts from Japan

■ : Local staff employed by the UAJC revenue

Annex 10 Project Design Matrix (PDM)

Implementing Agency in Japan : JICA

Implementing Agency Ukraine : NETT (KPI)

Duration : 22 May 2006 - 21 May 2011

Date: 1 December 2008

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><b>(OVERALL GOAL)</b></p> <p>1. UAJC is established for further promotion of economic growth of Ukraine and Japan-Ukraine cooperation in various areas.</p>	<p>1 Number of People, Enterprise &amp; Organization which lead to rise of benefits and efficiency by the matching activities through the UAJC</p> <p>2 Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries</p> <p>3 Degree of recognition of UAJC</p>	<p>Questionnaire &amp; Interview for UAJC users and participants such as recognition &amp; reputation of the UAJC &amp; performance of Enterprise participants)</p> <p>UAJC Study (Post evaluation &amp; Impact study on ex-participants)</p> <p>Record of the UAJC</p> <p>Questionnaire &amp; Interview for Ukraine citizen</p>	<p>Political status of Ukraine stable.</p>
<p><b>(PROJECT PURPOSE)</b></p> <p>1. The system is developed to ensure that UAJC carries out both functions of "human resource development for economic growth in Ukraine" and "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects," and UAJC exercises its responsibility.</p>	<p>1 Satisfaction level of participants &amp; lecturers in business program</p> <p>2 Satisfaction level of participants in Japanese language courses and seminars</p> <p>3 Number of cases which UAJC lead to facilitating roles on business promotion, trade/investment and academic exchange cooperation with universities &amp; research institutes among the two countries through business program</p> <p>4 Number of Cases which lead to supporting activities for the Japanese language lecturers network in Ukraine</p> <p>5 Satisfaction and Understanding level of participants in mutual understanding activities between Japan and Ukraine</p>	<p>Questionnaire &amp; Interview for UAJC users and participants (sample survey)</p> <p>Record of the UAJC</p> <p>Performance Sheet (ex-participant evaluation record)</p> <p>Records of JCC Meetings</p>	<p>Ukraine maintains the current policy to promote market economy.</p> <p>New UAJC Center building is constructed &amp; opened.</p>
<p><b>(OUTPUTS)</b></p> <p>1. &lt;Development of Human Resources through Business Program&gt; Framework and know-how are developed to implement the business program that meets the needs of Ukrainian universities and industries. In addition to that, certain parts of the program to develop human resources serving economic growth in Ukraine are implemented.</p> <p>2. &lt;Promotion of Japanese Language Education&gt; Framework of key center of Japanese Language Education in Ukraine to promote exchange between Ukraine and Japan on social, economic, academic and culture aspects is established.</p> <p>3. &lt;Deepen Mutual Understanding among Ukraine &amp; Japan&gt; Framework and know-how for collection and interactive dissemination of information and knowledge on social, economic, academic and cultural aspects of Ukraine and Japan are developed. In addition to it, the interactive transmission and exchange of information and knowledge on above-mentioned area are implemented.</p> <p>4. &lt;Functioning &amp; Establishment of UAJC structure&gt; With cooperation and support of parties concerned both in Ukraine and Japan, structural basis is set up for sustainable operation of UAJC</p>	<p>1-1 Annual implementation plan for business program formulated</p> <p>1-2 Number of business program implemented</p> <p>1-3 Number of participants, satisfaction rate, management skills</p> <p>1-4 Number and qualification of local lecturers</p> <p>1-5 Number of program dots in cooperation with industrial association such as Chamber of Commerce and Industries</p> <p>1-6 Number of initiatives to provide assistance for external organizations</p> <p>1-7 Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p> <p>2-1 Annual implementation plan for Japanese Language formulated</p> <p>2-2 Number of Japanese language courses implemented</p> <p>2-3 Number of applicants &amp; participants, satisfaction rate, management skills</p> <p>2-4 Number of regular meeting among Universities and Japanese language Teachers Associations</p> <p>2-5 Number of special events like Japanese language debate contest</p> <p>2-6 Number of textbook and teaching materials produced for Japanese Language courses</p> <p>3-1 Number of events, programs implemented for mutual understanding</p> <p>3-2 Number of participants, their satisfaction rate</p> <p>3-3 Number of materials &amp; library books for introducing each country</p> <p>3-4 Number of UAJC membership and utilization for library &amp; audio-visuals</p> <p>3-5 Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p> <p>4-1 Number and content of JCC meeting &amp; regular staff meeting held</p> <p>4-2 Balance of Income and Expenditure of UAJC</p> <p>4-3 Assignment of counterparts and UAJC staff</p> <p>4-4 Operational level and management capacity of UAJC staff</p>	<p>Annual Implementation Plan</p> <p>Activity reports</p> <p>Questionnaire &amp; Interview for UAJC users and participants (Sample survey)</p> <p>Performance Sheet (ex-participant evaluation record)</p> <p>Record of the UAJC</p> <p>JICA Export reports</p> <p>Organization chart</p> <p>Record of staff evaluation of capability of UAJC staff (self-evaluation and evaluation by manager)</p> <p>Data Sheet on balance of income and expenditure</p>	<p>NTUU(KPI) cooperate with the UAJC.</p> <p>UAJC keeps strong linkage &amp; closely relationship with other relevant organization.</p>



<b>(ACTIVITIES)</b>	<b>(INPUTS)</b>		
<p><b>(Business Programs)</b></p> <p>1-1 Implement various kinds of courses (Production management and business diagnosis for-enterprises, Specific issues, Business diagnosis and advisory services, etc)</p> <p>1-2 Organize seminars on trade and investment</p> <p>1-3 Collect and exchange information on enterprises by preparing database of Ukrainian and Japanese enterprises interested in foreign collaboration</p> <p>1-4 Develop mechanism for business matching</p> <p>1-5 Analyze an investment environment to make suggestions on improvement measures</p> <p>1-6 Provide information on Japanese system and current situation of cooperation among industry, academia, and government</p> <p>1-7 Conduct survey and analysis on the needs and current situation of cooperation among industry, academia, and government in Ukraine</p> <p>1-8 Design a model for industry-academic-government collaboration</p> <p>1-9 Organize forum for specific topics (including Information Technology, Preservation of Environment, Energy-Saving Technology, etc).</p> <p><b>(Japanese Language Courses)</b></p> <p>2-1 Conduct Elementary, Intermediate and Advanced Japanese Language Courses</p> <p>2-2 Support Japanese language lecturers to improve their capabilities</p> <p>2-3 Provide, or support preparation of teaching materials</p> <p>2-4 Support for expanding and enhancing a network of Japanese language lecturers in Ukraine</p> <p><b>(Mutual Understanding Promotion Activities)</b></p> <p>3-1 Provide Ukrainian people with general information on Japan</p> <p>3-2 Develop mechanism to promote exchanges among people, universities, and local governments, and support the implementation of model exchange programs</p> <p>3-3 Develop mechanism to provide information on study in Japan, and organize seminars on Japanese universities admission for Ukrainian students</p> <p><b>(Effective Management)</b></p> <p>4-1 The Steering Committee will hold a meeting once a year</p> <p>4-2 Formulation of a long-term operation plan (operation policy, fiscal plan, action policy)</p> <p>4-3 Establishment of various systems for the smooth operation of UAJC (development of various regulations, etc., related to personnel affairs, salaries, etc.)</p> <p>4-4 Monitoring of the operation plan</p>	<p><b>JAPANESE SIDE</b></p> <p>1. Dispatch Japanese and third country Experts</p> <p>(1) Long-term Experts Team leader (Project Director) Project Planning and Operation</p> <p>Expert on Business Course (if necessary)</p> <p>Expert on Japanese Language Course</p> <p>(2) Short-term Experts As necessary</p> <p>(3) Consultation Team As necessary</p> <p>2. Provision of machinery and equipment</p> <p>3. Counterparts training in Japan and/or the third country (ies)</p> <p>4. Budgetary allocation for local activity expense</p>	<p><b>UKRAINE SIDE</b></p> <p>1. Assignment of Personnel</p> <p>(1) Counterparts Director Business Program Manager (by mutual agreement)</p> <p>Japanese Language Course Manager (by mutual agreement)</p> <p>Mutual Understanding Program Manager</p> <p>(2) Administrative staff</p> <p>Accountant Security guard</p> <p>Other part-time staff will be assigned when necessary for the activities of UAJC</p> <p>2. Utilities for Electricity and Water (according to the regulations of NTUU((KPI)))</p> <p>3. Provision facilities and buildings</p> <p>4. Running expense for implementations of UAJC</p> <p>5. Privileges, Exemptions and Benefits (according to Agreement I.)</p> <p><b>BY THE INCOME OF UAJC</b></p> <p>(1) Running expense for activities of UAJC (according to the regulations of NTUU((KPI)))</p> <p>(2) Facility maintenance</p> <p>(3) Equipment maintenance</p> <p>(4) Communication expense</p> <p>(5) Other costs for the activities of UAJC</p>	

Annex 11 Cost and Revenue of UAJC

As of end of September 2010 (Unit: USD)

	2006FY	2007FY	2008FY	2009FY	Until Sept. 2010
<b>UAJC Revenue</b>					
Business Program	0.00	2,820.00	26,558.99	26,886.24	941.85
1. Tuition			0.00	0.00	7,989.89
2. Others including commissions for training in Japan					23,686.47
Japanese Language	11,135.84	19,910.89	24,892.74	31,655.74	0.00
1. Tuition			0.00	3,533.42	0.00
2. Others					3,909.61
Others	10,349.66	8,051.49	7,589.12	10,242.75	1,296.45
1. Tuition		4,990.61	4,064.23	2,680.93	348.29
2. Membership fee for the library			1,483.44	883.74	0.00
3. Entrance fee	41,712.00	18,814.68	7,932.49	6,383.35	0.00
4. Funds from local sponsors	63,197.50	54,587.67	72,521.01	82,266.17	38,172.56
<b>Total Revenue</b>					
<b>Disbursement</b>					
Personnel expenses		6,099.00	0.00	0.00	9,352.72
Light and fuel expenses		5,489.94	66,047.32	79,206.81	25,932.49
Communication		3,822.42	4,053.63	4,861.29	1,126.17
Expenses for coffee break for seminars			173.03	0.00	0.00
Rents for spaces on the 4th floor, etc.	84,055.57	84,055.57	75,565.01	76,548.19	22,357.85
Cleaning			1,675.65	2,009.51	0.00
Subtotal	98,469.03	99,466.93	147,514.63	162,625.79	58,769.23
% in total cost	33%	35%	40%	31%	32%
Salaries for staff and part-timer		57,909.62	97,942.59	140,026.10	63,068.02
Remuneration for MUP lecturers, translation, etc.		0.00	22,513.01	25,944.01	5,693.17
Communication		4,952.31	3,804.05	6,272.22	2,553.25
Consumables		14,149.53	8,134.59	12,817.88	6,312.84
Equipment		18,183.48	9,088.51	1,229.87	2,730.39
Maintenance for vehicle and equipment		1,122.94	4,812.34	5,466.70	5,803.36
Public administration		3,153.14	10,220.65	9,872.94	1,829.13
Local transportation		320.76	700.55	1,920.23	497.88
Air fairs		0.00	2,211.18	31,883.95	5,587.12
Travel expenses of daily allowance and accommodation fee		2,181.92	3,375.49	11,637.88	5,178.22
Car rental		0.00	1,203.37	2,949.05	306.57
Meeting		1,954.83	1,912.17	10,843.25	830.46
Others		35,528.18	18,850.35	43,601.46	5,403.74
Subtotal	145,026.83	139,456.71	184,768.83	304,465.55	105,794.15
% in total cost	49%	50%	50%	59%	58%
Personnel expenses	9,317.49	23,560.01	27,041.12	42,409.39	16,014.07
Consumables	315.41	387.56	342.44	633.88	271.48
Public administration for JLC		16,959.93	0.00	793.57	354.02
Others	41,785.74	776.29	8,389.12	5,598.32	386.49
Subtotal	51,418.64	41,683.79	35,772.68	49,435.16	17,026.06
% in total cost	17%	15%	10%	10%	9%
<b>Total Cost</b>	294,914.50	280,607.43	368,056.14	516,526.50	181,589.44

Tentative Road Map

ANNEX 12  
Ver.0, Dec. 22, 2010

Meeting in Early Feb. Termination of the Project

	December, 2010	January, 2011	February, 2011	March, 2011	April, 2011	May, 2011
<b>Overall Management of UAJC</b>						
Volume/Scale of operation and contents of activities	Stakeholders consider participation & input to UAJC		Work on the activity plan after completion of the Project		▲Steering Committee	
Employment of UAJC staffs	Submit necessary information on the staffs to KPI (F)	Identify the issues to be solved for employment of UAJC staffs	Negotiate on the employment of UAJC staffs	Consider the conditions for each UAJC staff	Interview to each UAJC staff	
Office space/Fuel, electricity and water charges	Consider necessary measures & negotiate with stakeholders		Negotiate on the office space/Fuel, electricity and water charges			
Transfer/Share know-how on UAJC management to New UAJC Director	Select Ukrainian Director of UAJC and inform the Project	Transfer of know-how on management of UAJC to the				
Establishment of mechanism to operate and monitor profit account of UAJC	Identify the issues to be solved to operate and monitor profit account of UAJC (F)		Consider solutions and start negotiation (in connection with the framework of SC & regulation)		▲Steering Committee	
Establishment of mechanism to compensate salaries to UAJC staffs		Consider mechanism of compensation (P, J)	Negotiate on the mechanism of compensation		▲Steering Committee	
<b>Operation of Activities</b>						
Business Program		Make tentative input (P, J, T)	Negotiation	Work on detailed activity plan	▲Steering Committee	
Japanese Language Program		Make tentative input plan (P, F)	Negotiation	Work on detailed activity plan	▲Steering Committee	
Mutual Understanding Program		Make tentative input plan (P, F)	Negotiation	Work on detailed activity plan	▲Steering Committee	
<b>Dispatchment of Japanese Language Expert</b>						
Agreement on the dispatchment of Japanese Language Expert		Consider contents of agreement and identify the issues to be solved (F)	Negotiation	Coordination and negotiation for making agreement		(JFY2011) Arrival of Japanese Language Expert (F)
<b>Framework of UAJC</b>						
[Establishment of Steering Committee (SC)]	Work on the Framework of SC—Start negotiation with KPI (E)		Negotiate on detailed framework/byelaw of SC	Explain to the ministries (Min. Edu. & Min. Economy, etc.)	▲Steering Committee	
[Revision of regulation of UAJC in KPI byelaw]		Consider issues to be solved to revise KPI's byelaw of UAJC	Negotiate framework & details of byelaw	Explain to the ministries (Min. Edu. & Min. Economy, etc.)	▲Steering Committee	
		Support KPI on the revision of				
<b>Input from JICA after the Project in FY2011</b>						
Follow Up Cooperation (Japanese Export)	Inform KPI on the idea of JICA (J)	Consider TOR of expert and submit application to JICA				
Training in Japan	Inform KPI on the idea of JICA (J)	Consider contents of Training in Japan and re-submit the revised application				

- : Japanese side (E=Embassy, J=JICA, F=Japan Foundation, T=JETRO, P=Project)
- : Ukrainian side (KPI)
- : Both (Ukrainian and Japanese) sides

*Handwritten signature*

## 4 . 評価グリッド

**Ukraine-Japan Center Project**  
**Evaluation Grids for the Terminal Evaluation**  
**30 November 2010**

### I. Achievements

Main Categories	Sub Categories	Source of Information	Ways of collection
1. Inputs	1. From Japan <ul style="list-style-type: none"> <li>• Planned and actual inputs of the long-term and short-term experts; person-months of dispatch of the experts as of November 2010</li> <li>• Number of staff employed by UAJC and their assignment</li> <li>• List of the equipment supplied by JICA and status of utilization</li> <li>• Collection of the UAJC library</li> <li>• Annual project operation costs borne by JICA as of November 2010, sorted with expense items</li> <li>• Name of trainees, duration and subjects of the training courses in Japan</li> </ul>	Project records  UAJC JICA	Literature review  Interview
	2.From Ukraine <ul style="list-style-type: none"> <li>• List of the project counterpart personnel (CP) and their assignment in the project activities</li> </ul>	Project records	Literature review
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Number of staff employed by KPI and their assignment</li> </ul>	UAJC	Interview
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Investment and operation costs that have been borne by the Government or KPI to implement this project for last 5 fiscal years (2006 to 2010), sorted with expenses items</li> </ul>	UAJC	Literature review Interview
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Physical resources provided by the Government (center facilities, office space, utilities, etc.)</li> </ul>	UAJC	Interview
2. Project purpose	1. Achievements of the project purpose <ul style="list-style-type: none"> <li>• Achievements shown in the indicators of the present PDM</li> </ul>	Project records	Literature review
	2. Development of the business program <ul style="list-style-type: none"> <li>• An extent of varieties of the business courses conducted, compared with those specified in the activities 1-1 in PDM</li> <li>• Development of trade and investment facilities that include the database of Ukrainian and Japanese enterprises, mechanism for business affiliation, and analysis on the investment environment</li> <li>• Development of industrial-academia-government collaboration (IAGC) that include provision of information on the Japanese system, survey and analysis on the needs of IAGC, and design of a model</li> </ul>	Project records  UAJC	Literature review  Interview
	3. Development of the Japanese language courses <ul style="list-style-type: none"> <li>• Any outcomes from support for expanding a network of Japanese language lecturers/teachers in Ukraine</li> </ul>	UAJC	Interview
	4. Mutual understanding activities <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mechanism to promote exchanges or interaction among entities</li> <li>• Mechanism to provide information on study in Japan</li> </ul>	UAJC	Interview
	5. Establishment of UAJC institution <ul style="list-style-type: none"> <li>• Decision making system for planning and disbursement – for an example, in case of Japanese language education, decision making for course management that includes lecturer appointment, transfer of teaching technologies to Ukrainian lecturers, and others.</li> <li>• Number of local staff functioning as “line” for decision making</li> </ul>	KPI UAJC	Interview
3. Overall goal	1. Prospective of the achievement of the overall goal <ul style="list-style-type: none"> <li>• Achievements shown in the indicators of the present PDM</li> </ul>	Project records	Literature review

	<p>2. Other applicable indicators:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Institutional positioning of UAJC in KPI</li> <li>• Formulation of a long-term-operation plan (UAJC policy, fiscal policy)</li> <li>• Formulation of UAJC management regulations (personnel management, provision of salary, etc.)</li> </ul>	KPI UAJC	Interview
--	---	-------------	-----------

## II. Implementation Process

Main Categories	Sub Categories	Source of Information	Ways of collection
1. Technical transfer	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Role of the CP personnel in the project activities - their role to perform the project activities</li> </ul>	Project records	Literature review
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Role of the UAJC staff (employed by JICA) and training for them that has been conducted so far if any</li> <li>• Role of the KPI staff (employed by KPI) and training for them that has been conducted so far if any</li> </ul>	Project records	Literature review
2. New building	<p>Construction of the new building where UAJC is planned to move to;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Prospective time to complete the interior finish work</li> <li>• Floor space (m2) in the new building that is available to UAJC operation</li> </ul>	KPI	Interview
3. Project management	<p>1. Management for inputs</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Were there any excess or deficiency in specialties of short term experts and in inputs of their person-months?</li> </ul>	UAJC	Interview
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Could CP personnel of UAJC be engaged in the activities and/or project management for enough time?</li> </ul>	UAJC	Interview
	<p>2. Information sharing with other Japan centers in the CIS member countries:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cases of information sharing with other Japan centers</li> <li>• Sharing of teaching materials with Russia-Japan Centers</li> </ul>	UAJC	Interview
	<p>3. Inner and outer factors that have affected implementation of the Project</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Any restriction in the UAJC operations due to requirements of the law and regulations of Ukraine</li> <li>• Turnover rate of the staff of UAJC</li> <li>• Recent increase of business schools in Ukraine</li> </ul>	UAJC	Interview
4. Project ownership	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Interest of KPI on UAJC operation: development of IAGC, introduction of advanced technologies that include environmental engineering, energy saving, and material engineering, etc.</li> <li>• Efforts to construct the new building</li> <li>• Provision of the KPI staff and budgets for operating UAJC</li> </ul>	KPI UAJC	Interview

## III. Five Criteria Evaluation

### 1. Relevance

Questions for Evaluation		Required data and information	Source of Information	Ways of collection
Main Categories	Sub Categories			
1. Priorities in relevant national policies of Ukraine	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Human resource development for the SME sector</li> <li>▪ Strengthening of industrial competitiveness</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Cabinet Decree No.829 (August 2005)</li> <li>▪ MDGs of Ukraine (September 2000)</li> <li>▪ National Modernization Strategy to 2020, Ministry of Economy</li> </ul>	UAJC SCURPE JICA	Literature review
2. Needs of the implementation agency (KPI) and the Government	Implementation or recipient agency (KPI):	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Development of industrial-academia-government collaboration (IAGC)</li> <li>• Development of trade and investment facilities</li> </ul>	KPI SCURPE UAJC	Interview

		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduction of advanced technologies</li> <li>• An extent of needs for provision of business management training to the SME sector in Ukraine, corresponding government policies for provision of the training</li> </ul>		
3. Needs of the beneficiaries	How SME can be benefited by business training	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Needs of entrepreneurs and SMEs for practical business training</li> <li>▪ Opportunities of business training in Ukraine and advantages of the business training given by UAJC</li> </ul>	KPI SCURPE UAJC	Interview
4. Project approaches were appropriate?	Selection of the project components	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Business program</li> <li>• Japanese language education</li> <li>• Mutual understanding activities</li> <li>• Development of UAJC institution</li> </ul>	UAJC	Interview
5. Does the project meet the aid policies of the Japanese government?	Relevancy with the prioritized issues in ODA by Japan	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Joint announcement on the partnership between Japan and Ukraine (July 2005)</li> <li>• ODA Charter of Japan (2003)</li> </ul>	JICA	Literature review
	Relevancy with the assistance plan or guideline for Ukraine	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Guideline for Economic Cooperation for Ukraine (latest version)</li> </ul>	JICA	Literature review
6. Others		<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Have there been any changes in state policies and macro economy that can affect the project since 2006?</li> </ul>	UAJC	Interview
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Recent increase of business schools in Ukraine</li> </ul>	Grid II-3-3	

## 2. Effectiveness

Questions for Evaluation		Required data and information	Source of Information	Ways of collection
Main Categories	Sub Categories			
1. Project purpose can be achieved?	Progress in achievement of the project purpose	<ul style="list-style-type: none"> <li>• An extent of achievement shown in the Achievement Grid</li> </ul>	Grid I-2	Literature review
2. Causal relation "from outputs to project purpose"	Contribution of outputs for achieving the project purpose	<p>How much following approaches would be able to contribute to materialize the project purpose.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Business program</li> <li>• Japanese language education</li> <li>• Mutual understanding activities</li> <li>• Development of UAJC structure</li> </ul>	UAJC	Interview
		<p>Any of activities in following approaches should be strengthened further more?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Business program</li> <li>• Japanese language education</li> <li>• Mutual understanding activities</li> <li>• Development of UAJC structure</li> </ul>	UAJC	Interview

## 3. Efficiency

Questions for Evaluation		Required data and information	Source of Information	Ways of collection
Main Categories	Sub Categories			
1. Progress of the inputs	Check on progress of the inputs	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Person months that have been put into the project so far</li> <li>• Project operation costs that have been disbursed so far</li> </ul>	Grid I-1	Literature review
	Appropriateness of the inputs	Inputs were made appropriately in terms of timing, quality/quantity and utilization?	UAJC	Interview

		<ul style="list-style-type: none"> <li>Japanese side: JICA experts, equipment, training in Japan, project operation costs</li> <li>Ukrainian side: CP personnel, building, facilities, project operation costs</li> </ul>		
2. Achievement of the outputs	Generation of the outputs as of December 2010 and an extent of their achievement	<ul style="list-style-type: none"> <li>Achievements of the outputs shown in the indicators</li> </ul>	Project records	Literature review
3. Causal relation among inputs, activities and outputs	To achieve the outputs, are there any excess or deficiency in the inputs?	<ul style="list-style-type: none"> <li>Any excess or deficiency in the inputs of personnel and/or physical resources</li> </ul>	UAJC	Interview
	To achieve the outputs, can situations in outside of the project have any effects?	<p>Any effects from situations in outside of the project to generate Output 1 to 4:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Effects from the global financial crisis in October 2008 to the macroeconomics of Ukraine</li> <li>Investment trend in the SME sector</li> <li>Expenditure of the government budgets</li> </ul>	UAJC	Interview
4. Project costs efficiency	Project purpose can justify the total input costs?	<ul style="list-style-type: none"> <li>Comparison of the total costs with other Japan centers in the CIS member countries</li> </ul>	JICA	Literature review
5. Coordination with other similar projects		<ul style="list-style-type: none"> <li>Possibility of coordination with TAM/BAS Program in Ukraine</li> <li>Possibility to coordinate with the other similar project(s)</li> </ul>	UAJC	Interview

#### 4. Impacts

Questions for Evaluation		Required data and information	Source of Information	Ways of collection
Main Categories	Sub Categories			
1. Probability of achievement of the overall goal	Prospect of achievement of the overall goal	<ul style="list-style-type: none"> <li>Prospect based on the indicators for the overall goal</li> <li>Prospect based on an extent of achievement of the project purpose</li> </ul>	Grid I-3	Literature review
	Any factors that may promote generation of the overall goal	<ul style="list-style-type: none"> <li>Government policies to develop and support the SME sector and to strengthen industrial competitiveness</li> </ul>	Grid III-1-1	Interview
		<ul style="list-style-type: none"> <li>Current and future (post project stage) policies of NTUU (KPI) to operate UAJC</li> </ul>	KPI	Interview
		<ul style="list-style-type: none"> <li>Any other factors that may promote or hinder generation of the overall goal</li> </ul>	UAJC	Interview
3. Spillover effects		<p>Are there any spillover effects in following activities?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Business program</li> <li>Japanese language education</li> <li>Mutual understanding activities</li> <li>Development of UAJC structure</li> </ul>	UAJC	Interview
		<ul style="list-style-type: none"> <li>Process to open Japan Center in Dnipropetrovsk Mining University</li> </ul>	UAJC	Interview

#### 5. Sustainability

Questions for Evaluation	Required data and information	Source of	Ways of
--------------------------	-------------------------------	-----------	---------

<b>Main Categories</b>	<b>Sub Categories</b>		<b>Information</b>	<b>collection</b>
1. General		<ul style="list-style-type: none"> <li>• What are benefits that the Project is expected to leave?</li> <li>• Among the above, which benefits can or should be sustained?</li> </ul>	UAJC	Interview
2. Aspect of policy		<ul style="list-style-type: none"> <li>• National policies to support the SME sector and to strengthening industrial competitiveness</li> </ul>	Grid III-1-1	Literature review
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Policies of NTUU (KPI) to operate UAJC</li> </ul>	Grid III-4-1	Literature review
3. Institutional side		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Institutional structure of UAJC – a progress in preparation for operation by KPI as its subordinate entity</li> <li>• Possibility for KPI to employ the UAJC staff</li> </ul>	KPI UAJC	Interview
4. Financial side		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Needs for financial independence</li> <li>• Conditions of self-sustaining account – possible cost coverage with the center revenues and KPI budget</li> </ul>	KPI UAJC	Interview
5. Technical side		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Process to transfer management of UAJC from JICA to KPI</li> </ul>	UAJC JICA	Interview

Remarks:

(1) Information of the screened parts has been collected or is to be collected by other questions.

(2) "Project records" refer collectively to documents that have been prepared by UAJC.



## 5. ウクライナ日本センター日本語教育事業 終了時評価報告書

2010年12月15日

国際交流基金 日本語教育支援部

### 1. 調査概要

#### 1.1 調査期間

2010年12月13日（月）・14日（火）

#### 1.2 調査者

阿部洋子（国際交流基金日本語教育支援部教師研修チーム長）

鈴木勉（国際交流基金日本語教育支援部講座チーム長）

#### 1.3 目的

ウクライナ日本センター（以下、UAJC）プロジェクトは、国際協力機構（以下、JICA）の技術協力プロジェクトの一環として、キエフ工科大学（以下、KPI）がウクライナ側の実施機関となり始められた。プロジェクトの目標は「ウクライナが市場経済への移行を進めるに当たって必要な人材を育成するとともに、日本の顔として日本・ウクライナ両国の相互理解の促進、人脈形成に寄与する」こととされており、ビジネスコース、相互理解講座、日本語コースを実施している。国際交流基金（以下、JF）は、日本語コースの立ち上げ時からコース運営を担当する日本語教育派遣専門家を配し、プロジェクトに協力している。

本プロジェクトは、2006年5月から2011年5月までの5年間という期限で実施されるものである。本報告では、プロジェクト終了に際して、日本語教育事業のウクライナの日本語教育における日本語コースの位置づけを確認し、運営に対する提言を行う。

#### 1.4 方法

- ・ 関係者からの聞き取り調査
- ・ 既存データ（各種報告書）の活用

### 2. ウクライナの日本語教育における UAJC 日本語コースの位置づけ

UAJCで教える日本語教師とコース受講者に対する聞き取り調査から、本コースのウクライナの日本語教育における位置づけを報告する。

一言でまとめると、日本語と日本文化の両方を学べるコースになっていることが、日本に対して強い興味・関心を持ち積極的に日本を理解しようとする日本語学習者にとっ

て大きな魅力であり、他の日本語教育機関にはない特徴ともなっている。この特徴から、プロジェクトの目標に掲げられている日本・ウクライナ両国の相互理解の促進に大きく貢献しているといえよう。

## 2.1 日本語コースの特徴

ウクライナは、東欧地域においてロシア、ポーランドについて3番目に日本語学習者の多い国であり、学習者の増加傾向は続いている。日本語学習に対するニーズが高いことがわかるが、そのウクライナのキエフ市内で、大学の日本語専攻学科以外で継続的に日本語学習ができる機関は非常に限られており、UAJC 日本語コースが唯一であるといっている。民間で日本語を教える機関がないわけではないようだが、今回の聞き取り調査では、その存在を明確に知っている者はなかった。

他に類似の日本語教育機関がない環境からか、2009年の中間報告書でも応募者が2倍あることが報告されているが、2010年度の受講者募集の際にも、ほとんど目立った広報をしなかったにも関わらず定員200名のところ343名の応募があったという。新規の応募者は、口コミなどでコースの存在を知り応募してくるようだ。初心者コースの受講希望者を全員受け入れることができないため、選別試験を実施するくらいコースの人気は高い。

UAJCが開講しているクラスのうち、長期クラスは、初級3年間、中級3年間と日本語を継続的に学べることも特徴のひとつである。受講者の特徴は後述するが、日本語を学ぶことが楽しい、日本語学習は趣味だという受講者にとって、学習が継続できる環境があることはUAJCコースの受講動機にも大いに影響を与えるものであろう。

短期クラスは、上級と子ども対象のクラスが開講されてきた。短期コースは、派遣専門家の得意分野や志向、応募状況等によって開講されるクラスに変化が見られる。現在、子どもクラスは開講されていない。コースの立ち上げ期には、子どもクラスの開講のため広報にも力を注いでいたそうだが、専門家の交代に伴い、子どもクラスの開講は見送られた。上級クラスについても、内容の変更が見られる。常設の上級クラスは、日本語能力試験2級と1級対策クラス、文部科学省奨学金留学生選考試験対策クラスである。過去には、日本事情を学び日本理解を深めるクラス、ビジネス日本語や通訳の基礎を学ぶクラスなどが開講され、上級レベルの受講者のニーズにきめ細かく対応していたようだが、どのような上級クラスを開講するかについては、専門家個人の判断に任せられるだけでなく関係者間の協議が必要であらう。

日本語コースでは、長期・短期クラスのほかに、毎月1回特別講座を実施している。日本文化や現代日本事情の紹介、書道などの体験講座、さらに、キエフ在住の日本人との交流会などを通して、直接・間接的に日本を体感し、日本理解を深めることが狙いとなっている。特に日本人との交流会は、受講者にとって非常に魅力的なプログラムのよ

うで、今回の聞き取り調査で、UAJC コースに入れば日本人と話ができると思って受講を希望したという受講者が複数あった。

日本語コースの受講者は、UAJC 相互理解講座にも積極的に参加し、日本文化の理解を深めることに意欲的であることも、聞き取り調査からわかったことのひとつであるが、こうした受講者のニーズに応えられるように講座が実施されていることが、UAJC の最大の特徴であるといえる。

## 2.2 受講者の特徴

受講者は、社会人と日本語を専攻していない大学生・大学院生がほとんどで、2010年度の長期コースでは、社会人と学生の割合が半々とのことである。年代は20代の若者中心である。

受講者の日本語学習の目的について、前任のUAJC 派遣専門家が調査している。その結果を見ると、学習目的の第一位は日本語によるコミュニケーション、第二位が日本文化に対する興味、第三位は受講者に大学生が多いためか、留学希望となっている。将来の就職や現在の仕事における必要性といった実用的なものは少ない。今回の聞き取り調査でも、日本語を使ってする仕事は限られていること、日系企業に就職しても日本語を使う機会は非常に限られていることがわかった。キエフ市内で日本語を使う機会はほとんどないにも関わらず、日本語によるコミュニケーションが第一位に上がっている理由について、前任の派遣専門家はキエフの大学における外国語教育が言語知識中心になされているからではないかと考察している。つまり、実用的な言語運用力を身につけるための学習に対するニーズが表面化していると解釈できる。現実的には日本語を使う機会はなくても、日本語をコミュニケーションの道具として用いることができるようになる学習に強い関心があるということであろう。今回の聞き取り調査で何人かの受講者が日本語学習は趣味だと言っていたが、趣味の楽しさは、知識が増える楽しさというより技能が身につく楽しさを伝えようとしているのではないかと推察される。

派遣専門家の調査では、日本文化に対する興味について、文化の中身を細分化して尋ねている。それによると、興味のある分野の第一位は伝統文化、それに拮抗して日本人の生活・習慣が第二位、次に、日本人の考え方、ポップカルチャーと続いている。今回の聞き取り調査でも、日本のアニメ・漫画等のポップカルチャーとの接触や先進的な科学技術を持つ国というメディアによる情報を契機に日本に関心を持ち始めるようだが、茶道や歌舞伎、武道といった伝統文化にも関心を寄せ、日本文化に対する理解を深めようとする受講者が多いことがわかった。

コースで教える日本語教師から、受講者の日本語学習に対するモチベーションが高いことが指摘されているが、モチベーションの高さは、本コースの継続率の高さにつながっていると推察される。2009年の中間評価調査報告書では、長期コースの継続率

は 80%とあるが、2009 年度から 2010 年度にかけて初級クラスの継続率は 88%であったとのことだ。

## 2.3 教師

UAJC 専属の教師は、JF 日本語教育派遣専門家 1 名と日本語コースの教務主任の役割を担う UAJC 所属のウクライナ人講師 1 名（以下、教務主任）である。他に、キエフ国立大学の教師、キエフ言語大学の教師が非常勤で教えている。

教務主任は、事務処理能力にすぐれ、教師としても受講者から高い評価を得ている。派遣専門家は短期間で交代していくので、継続してコース運営に携わる立場にいる現地講師の存在は、コースの安定的な継続と充実には欠かせない。当該の教務主任が継続してコース運営に携わっていれば、いずれ現地主導でコース運営が進められるようになるだろう。

他大学の教師にとって、UAJC コースは受講者のモチベーションの高さ、教材・教具の利用しやすさ等から、教授環境に恵まれたやりがいのあるコースである。教えることの楽しさは、教師の資質や能力を向上させることに寄与するものである。本コースは受講者にとってのみならず、教師にとっても非常に魅力的で、人材育成に貢献するものとなっている。

## 2.4 施設・設備

日本語教育のための施設・設備の面における現状の利点と不足点を以下に記す。

利点としては、日本語コースの講師のための事務スペースがあり、教材と機器類が充実していることが挙げられる。キエフでは大学によっては講師個人のための事務スペースがなく、授業の準備その他の業務は自宅ですると聞いた。UAJC には常勤の講師のためのスペース以外に講師控え室があり、授業の準備その他の個人作業だけでなく、講師間の共同作業もできるようになっている。また、教材が利用しやすい形で保管されていること、機器類の充実、補助教材として利用する配付資料のコピーが自由に取れることも効率的・効果的な授業実施の助けとなっている。

さらに、UAJC の図書館も日本語学習者や日本語教師にとって、利用価値の高いものである。語学教材、文庫等の書籍、日本留学関連の図書、雑誌等の図書類だけでなく、DVD の視聴やインターネット接続ができるコンピュータが置いてあり、日本語に接触する機会だけでなく、今の日本に関する情報にアクセスできるようになっている。図書館について不足を挙げるなら、文化理解を含めた専門的な文献、日本研究のための文献がそろっていないことである。

大きな不足点は、教室が 2 室しかないことである。教室が 2 室しかないために、開講できるコースと人数が制限されている。日本語学習は日本理解の促進に貢献するものだ

が、キエフ市内で一般社会人が学べる数少ない日本語コースであるにもかかわらず、応募者全員を受け入れることができない事態を招いている。今以上に大人数が収容できる教室や、少人数クラス向けの教室が複数あれば、学習者のニーズに合わせたコースの充実をはかれるだろう。

## 2.5 日本語教育の充実をはかる日本語教師会支援

日本語教育の充実と発展には、現地の日本語教師が協力しあい、地域全体にかかわる行事の運営や問題解決に取り組む体制が作られていることが必須である。ウクライナ日本語教師会も、そうした目的から 1995 年にキエフ日本語教師会として発足された。

現在の教師会の主な活動は、それぞれ年に 1 回実施される「日本語能力試験」、「日本語弁論大会」、「国際公開シンポジウム」、「日本語教育セミナー」の実施に関わる運営だそうだが、準備作業等に必要な会議室や資料作成等において、UAJC が施設・設備、人手も提供しており、事務局としての機能を果たしている。現在の教師会の会長は、大学所属で UAJC のクラスを担当している若手の教師である。実際の教師会のそれぞれの活動の一連の過程で情報の集約と提供を行うのは事務局であるため、事務局に依存する部分が非常に大きい。昨年度までは、UAJC に派遣されていた国際交流基金の日本語教育専門家がアドバイザー業務を担当していたため、教師会の活動の事務局作業は円滑に進められていた。UAJC に派遣された専門家の業務として認められていたからである。今年度の派遣専門家の交代に伴い、アドバイザー業務をキエフ国立大学派遣の専門家に移管されたことで、UAJC 派遣専門家を通して事務局への作業依頼をしなくなることが問題になってきている。

JF 派遣専門家のアドバイザー業務を派遣先に帰属させるのがよいか、専門家の資質や経験に鑑みて専門家個人に帰属させるのがよいか、簡単に解答が得られるものではない。しかしながら、日本語教育機関として中立的な立場にあり、かつ施設・設備面でも充実している UAJC に派遣される専門家に帰属させる方が活動そのものの円滑化を図るにはよい。UAJC プロジェクト終了後も、日本語コースの継続は予定されていると聞くが、ウクライナにおける日本語教育事業を包括的に掌握する役割をポスト UAJC が担うことが望ましい。

## 参考：2008 年度日本語コース終了時アンケート調査結果

受講者からコースがどのように評価されているかを概観するために、2009 年 6 月の 2008 年度日本語コース終了時に長期コースの受講者対象に実施されたアンケート結果を紹介する。このアンケートでは、以下の項目について 5 段階で評価を求めている（アンケートの回答数は全部で 93）。（ ）の数字は平均値で、数値が高いほど評価が高

いことを示す。

- ①クラスの勉強は面白かったですか。(4.72)
- ②クラスのレベルはちょうどよかったですか。(4.55)
- ③教材・資料の内容は適当でしたか。(4.63)
- ④教師の教え方は分かりやすかったですか。(4.46)
- ⑤あなたが勉強したかったことが勉強できましたか。(4.11)
- ⑥学習時間は適当でしたか。(3.66)
- ⑦学習時間帯は適当でしたか。(4.63)
- ⑧1クラスの受講者の人数は適当でしたか。(4.32)

学習時間数⑥に対する評価以外はいずれも高く、受講者にとって満足度の高いクラスであったことがわかる。特に勉強の面白さに対する評価が高いことから、受講者のモチベーションの高さに助けられていたとしても、受講者のニーズを充たす良質の授業が実施されていたと解釈できよう。受講者のコメントが残されていないため、数値の意味を的確に解釈することはできないが、他の項目の評価の高さから推察するに、学習時間数については、もっと時間数を増やしてほしいということなのではないか。

受講者が期待を持ってクラスに参加し、その期待を裏切らない形でクラス運営がなされているコースであるといえよう。

以上

